

結核

第九卷 第十二號

昭和六年十二月二十四日發行

原著

結核ノ一新特殊診斷法ニ就テ

九州帝國大學醫學部武谷內科教室

醫學士 吉田善晴

目次

第一章 緒言

第二章 結核特異性物質注射ニヨル白血球數ノ動搖

第一節 検査方法及検査材料

第二節 健康者及結核患者ノ白血球數

第一項 健康者ノ白血球數

第二項 結核患者ノ白血球數

第三項 結核患者及非結核者ノ白血球數ノ消長

第三節 「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ關スル臨牀的觀察

第一項 「AO」一回注射ニヨル白血球數ノ動搖

其一 臨牀上結核症狀ノ明ラカニ備ハレル者

(一) 重症結核患者

(二) 中等症結核患者

(三) 輕症結核患者

原著 吉田善晴 結核ノ一新特殊診斷法ニ就テ

其二 臨牀上結核症狀ノ明ラカナラザル者及結核性疾患ノ既往症ヲ有シ検査時自他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者

其三 臨牀上健康ト認ムル者及非結核患者

第二項 「AO」連續注射ノ際ニ於ケル白血球數ノ動搖

第三項 本節ノ概括及考案

第四節 家兎ニ「AO」一回注射ニヨル白血球數ノ動搖

其一 結核家兎

其二 健康家兎

其三 結核及健康家兎ニ於ケル生理的白血球數ノ動搖、〇・五%石炭

酸加生理的食鹽水及「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖

其四 本節ノ概括及考案

第五節 煮沸「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖

第一項 結核患者

第二項 動物實驗

- 其一 結核家兎
- 其二 健康家兎
- 第三項 本節ノ概括
- 第六節 「ツベルクリン」注射ニヨル白血球數ノ動搖
- 第一項 結核患者ニ「ツベルクリン」注射
- 其一 「ツベルクリン」皮内注射
- 其二 「ツベルクリン」皮下注射
- 第二項 家兎ニ「ツベルクリン」皮下注射
- 其一 結核家兎
- 其二 健康家兎
- 第三項 本節ノ概括及考案
- 第三章 結核非特異性物質注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ關スル臨牀的觀察
- 第一節 検査方法及検査材料
- 第二節 生理的食鹽水ヲ以ツテセル試驗(對照)
- 第三節 O・五%石炭酸加生理的食鹽水ヲ以ツテセル試驗(對照)
- 第四節 「ヤトレン」ヲ以ツテセル試驗(對照)
- 第一項 結核患者

第一章 緒言

結核患者ニ「ツベルクリン」療法ヲ行フ場合ニ經過ヲ追ヒテ白血球ヲ檢スルニ症狀輕快ニ赴ク者ニ於テハ其血液像モ亦漸次好轉スルコトハ既ニ先進學者ノ認ムルトコロナリ。

余ハ昭和三年(一九二八)十二月、有馬、青山、太繩三氏ノ創製セラレタル結核菌製劑「AO」ヲ以ツテ結核患者ヲ治療中、經過ニ伴フ白血球ノ變移ヲ檢索センコトヲ企テタリ。然ルニ「ツベルクリン」療法ノ際先進諸家ノナセルト検査ノ方法ヲ異ニシ、「AO」注射直前及注射後短時間内ニ於テ採血検査シ、比較研究スルコト、ナシタリ。初九州帝國大學醫學部附屬醫院生ノ松原分院入院中ノ五名ノ結核患者ニ「AO」ヲ注射シ、注射直前一回及注射後一時間目ニ一回ノ採血検査

- 第二項 健康者及非結核者
- 第五節 「ヒリン」ヲ以ツテセル試驗(對照)
- 第一項 結核患者
- 第二項 健康者及非結核者
- 第六節 本章ノ概括及考案
- 第四章 結核特異性及非特異性物質注射ニヨル白血球像ノ變化
- 第一節 健康者ニ「AO」一同注射
- 第二節 結核患者ニ「AO」一同注射
- 第三節 結核患者ニ「AO」連續注射
- 第四節 結核患者ニ煮沸「AO」注射
- 第五節 結核患者ニ「ツベルクリン」注射
- 第六節 結核患者ニ「ヤトレン」注射
- 第七節 結核患者ニ「ヒリン」注射
- 第八節 本章ノ概括及考案
- 第五章 總括
- 第六章 余ノ一新結核特殊診斷法

ヲナセシニ全例ニ於テ白血球數ノ高度ノ減少ヲ認メタリ。然ルニ臨牀上健康ト認ムル者ニ同一検査ヲ行ヒシニ結核患者ノ場合ニ反シテ白血球數ノ著明ナル増加ヲ認メタリ。即「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニハ結核患者ト健康者トノ間ニ或ハ截然タル差異ノ存スベキコトヲ發見シタリ。

「AO」ニ關スル文獻ヲ涉獵スルニ⁽¹⁾谷口氏ハ「AO」治療經過中ノ白血球像ニ關シテ報告スレドモ余ノ發見セシガ如キ白血球數ニ於ケル現象ハ之ヲ記載セズ。

茲ニ於テ「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ヲ觀察シ、以ツテ結核性疾患ノ診斷ニ供シ得ベシト想到スルニ至リ、依ツテ先ヅ「AO」注射直前一回及注射後四時間半ニワタリ毎半時間ニ即九回ノ採血検査ヲスルコト、ナシタリ。カクテ一定ノ成績ヲ得タルヲ以ツテ、昭和四年(一九二九)十月佐賀ニ於テ開催セラレタル第三十三回九州醫學會ノ席上ニテ「AO」注射ニヨル末梢毛細血管ニ於ケル白血球ノ消長ニ就テナル演題ニテ報告シタリ。而シテ恩師武谷教授歐米ノ學術視察ヨリ歸學セラレ、コノ白血球現象ニ關スル研究ヲ續行スベキコトヲ命ゼラレタリ。次デ翌年(一九三〇)四月、大阪ニ於テ開催セラレタル第八回日本結核病學會ノ席上ニテ「AO」注射後ノ白血球ノ變化ト結核症ノ診斷ナル演題ニテ報告シタリ。

繼ツテ結核特殊診斷法ノ現狀ヲ顧ミルニ先ヅ⁽²⁾コホ Koch 氏ハ結核特殊診斷法トシテ「ツベルクリン」皮下注射反應ヲ唱ヘ、ソノ全身反應、穿刺反應及病竈反應ニヨリ結核性疾患ノ診斷ニコレヲ用ヒント唱ヘタリ。然レドモ今日ニ於テハ臨牀上使用セラレズシテ唯牛結核ノ診斷ニ用ヒラル、ニ過ギズ。次デ⁽³⁾ピルケ Pirquet 氏ハ「ツベルクリン」皮膚反應ガ結核性疾患ノ診斷ニ役立つモノナリト主張シ、先ヅ一九〇七年四月、ベルリンノ醫學會ニ於テ、次ニ同年六月ウキンノ内科及小兒科學會ニ於テ發表シタリ。カクテ世人ノ注目シ追試スルトコロトナレリ。又⁽⁴⁾⁽⁵⁾⁽⁶⁾⁽⁷⁾ロエマア Roemer 氏ハ彪大ナル實驗的研究ニヨリ「ツベルクリン」皮内反應ノ發現スルハ體內ニ於ケル結核病竈存在ノ證左ナリトセリ。人體ニ就テハ⁽⁸⁾⁽⁹⁾メンデル Mendel 氏ハ「ツベルクリン」皮内反應ノ研究ヲ始メシガ後ニ至リ、⁽¹⁰⁾マンツウ及ルウ Mantoux und Roux 兩氏ニョツテ研究セラレ、結核性疾患ノ診斷反應トシテ一段ノ進歩ヲナスニ至レリ。以上ノ「ツベルクリン」反應ハ勿論、結核特殊反應ニ相違ナキモ單ニ結核病竈ノ有無ヲ知り得ルニ過ギズ。殊ニピルケ氏反應及其流派ノ反應ハ健康成人ニ於テ頻多ニ過ギ虛弱者及小兒ニ於テハ寡少ニ過ギ、往々ニシテ結核病竈ノ標識トスラナスニ足ラザルガ如キ憾アリ、臨牀上ノ價值ニ至ツテハ不滿ヲ覺ユルコト甚ダ多シ。次デ一九〇六年⁽¹¹⁾⁽¹²⁾⁽¹³⁾⁽¹⁴⁾⁽¹⁵⁾ワッサーマン及ブルツク Wassermann und Bruck 兩氏ハ結核補體結合反應ニヨリ活動性結核ト非活動性結核トヲ識別シ得ルモノナリト主張シ、識者ノ耳目ヲ聳動シタルガ、ソノ後コレニ關シテ種々ノ研究業績多數報告セラレ、或ハ其操作ニ變法改訂ヲ企ツル者アリタレドモ未ダ實用ノ域

ニ達セス。

要スルニ結核特殊診斷法ニアリテハ舊來ノ諸法ハ皆甚ダシク不備ニシテ、殊ニ臨牀上ノ價值アルモノナク、之ヲ要望スルコト甚ダ切ナルモノアリ。余ハ三年來ノ研究ニヨリテ是等ノ不備ヲ充分ニ填充スルニ足ル結核特殊診斷法ヲ發見セリト信ジ、茲ニ之ヲ報告シテ先進諸家ノ批評ヲ仰ガントス。

第二章 結核特異性物質注射ニヨル白血球ノ動搖

第一節 検査方法及検査材料

白血球數ノ計算ニハトオマ、ツアイスノ計算器 *Thoma-Zeisscher Zählapparat* ヲ用ヒタリ。血液ハチユルク *Türk* 氏液又ハ〇・三%醋酸液ヲ用ヒ十倍ニ稀釋シタリ。採血ハ耳朶ニ於テナシ、柳葉針又ハフランク氏ノ採血針 *Franckesche Nadel* ヲ以ツテ穿刺シ自然ニ湧出スル血液ヲ採取ス。採血後稀釋液ヲ吸引スルニハ可及的緩徐ニ行ヒ血液ガ「メランジエル」ノ「アムプウレ」以外ニ殘留スルコトナカラシムルヤウニ努ム。カクテ充分振盪シ始メノ二三滴ヲ捨テ次ノ一滴ヨリ計算ニ供シタリ。而シテ毎採血検査ニ於テ五回數ヘ、ソノ總和ヲ二十倍シテ所要ノ白血球數ヲ得。検査ハ大多數ニ於テ午前中ニナシタリ。而シテ身體運動及消化ノ影響ヲ考慮シ被檢者ハ空腹時牀上安靜ヲ守ラシム。午後ニ検査スル者ニテハ食後三時間以上經過シタル後ニ検査ヲ開始スルコト、ス。採血検査ハ毎三十分シ注射後四時間半マデ即計九回トセルコト前記スル如シ。然ルニ其後多數ノ經驗ニヨリ九回検査ノ必要ナク、注射後二時間マデニテ足ルコトヲ識リ得タリ。即注射直前一回及、注射後二時間ニワタリ毎半時間ニ四回即計五回ノ採血検査ヲナス。

検査材料トシテ我ガ武谷内科入院患者、同看護婦、大阪有馬研究所附屬醫院外來患者、大阪市立刀根山病院入院患者、同看護婦生徒、大阪高等醫學專門學校學生及廣島衛戍病院並ニ福岡衛戍病院入院患者、其他ヲ用ヒ總數二〇七例ニ達シタリ(肋膜炎患者ニ於ケル検査成績ハ別ニ記載報告スルコト、ス)。

而シテ是等ヲ便宜上次ノ三群ニ分チテ検査スルコト、セリ。

一、臨牀上結核症狀ノ明ラカニ備ハレル者。

二、臨牀上結核症狀ノ明ラカナラザル者及結核性疾患ノ既往症ヲ有シ検査時自他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者。

三、臨牀上健康者ト認ムル者及非結核患者。

而シテ被檢者ハ詳細ニ慣用ノ診查ヲナシタルハ勿論、殆ンド全例ニワタリ肺ノレ線寫眞ヲ撮リ、又或者ニテハウエスタ

ーグレン Westergren 氏法ニヨル赤血球ノ沈降速度ヲモ檢シテ診斷ノ參考ニ供シタリ。

動物實驗ニハ家兎ヲ用ヒ、検査後⁽⁶⁾ロエマア氏反應ヲ檢シ、更ニ又解剖ニ附シテ結核病竈ノ有無トソノ程度トヲ確メタリ。

詳細ナル説明ハ第六章ニ記載スレドモ本検査ニ於テ「A O」注射後白血球數ノ減少スルモノヲ陽性反應トシ、然ラザルモノヲ陰性反應(一)トス。而シテ陽性反應ヲ白血球數ノ減少ノ度及其型式ヲ顧慮シテ強陽性(卅)、中等度陽性(廿)、弱陽性(十)ノ三種ニ分ツ。

第二節 健康者及結核患者ノ白血球數

第一項 健康者ノ白血球數

生理的白血球數ニ關スル研究業績多數アレドモ未ダ決定的ノモノニ非ズ。茲ニ東西諸家ノ報告スルトコロヲ見ルニ⁽¹⁶⁾チュルク氏ハ七、〇〇〇(六)、〇〇〇—九、〇〇〇)、⁽¹⁷⁾シルリング Schilling 氏ハ六、〇〇〇(六)、〇〇〇—八、〇〇〇)、⁽¹⁸⁾モラヴィツ Morawitz 氏ハ五、〇〇〇—六、〇〇〇ナリト述ベタリ。我が國ニ於テハ⁽¹⁹⁾酒井氏ニヨルバ白血球數ノ生理的動搖ハ新生兒ニ於テハ六、二〇〇—三四、六〇〇、乳兒期ニ於テハ五、〇〇〇—二四、七〇〇、小兒期(一—四年)ニ於テハ一、一〇〇、七—一五年ニ於テハ一〇、〇〇〇ニシテ青年期ニ入り一五—二〇年ヨリ二〇—三〇年ニ向ツテ更ニ顯著ナル減少ヲ見ル。故ニ恐ラク二〇—三〇年ニテ成人値ニ達スルモノナルベシ。而シテ總平均八、二〇〇ヲ算ス。尙本期ニ入りテハ一定ノ性的差別ヲ生ズルモノナリト信ズ。即男子平均六、七〇〇、女子平均八、八〇〇ナリト言ヘリ。然ルニ⁽²⁰⁾グラヴィツ Gravitz 氏ノ記載ニヨルニ成人ニ於テ女子ノ白血球數ハ男子ノソレヨリ少シト言ヘリ。⁽²¹⁾淺川氏ニヨルバ白血球數ノ生理的限界ハ最低五二、〇〇〇ヨリ最高一三、〇〇〇ニシテ平均八、二三五ナリ。而シテ八、〇〇〇前後ノモノソノ多數ヲ占ムト言ヘリ。⁽²²⁾根岸氏ハ健康兵百名ノ検査ニ於テ六、五〇〇—一〇、〇〇〇、平均八、七〇〇ヲ得タリ。⁽²³⁾北島氏ニヨルバ男女一二五名ノ検査成績ニ就テ生理的限界ハ三、九七五—一二、四三七ニシテ四、〇〇〇—一〇、〇〇〇ノモノ最モ多數ヲ占ムト言ヘリ。我が教室ノ先輩⁽²⁴⁾草間氏ニヨルバ一八—三十六歳間ノ平均白血球數ハ七、九一二(一八、〇〇〇—四、〇〇〇)ニシテ四、〇〇〇—一二、〇〇〇ノモノ最モ多ク、八、〇〇〇前後ヲ最適數ナリト言ヘリ。

余ハ臨牀上健康ト認ムル者三五名(一六—二九歳、男子七名、女子二八名)ニ於テ空腹時床上安靜ヲ守ラシメ採血検査セシニ白血球數ノ最少數三、六四〇、最大數一一、三〇〇ナリ。ソノ内大多數(二八名)ハ五、〇〇〇以上八、〇〇〇以内ノ範

圍ニアリ。而シテソノ平均數ハ六、四〇四ナリ。

第二項 結核患者ノ白血球數

結核患者ノ白血球數ニ關スル研究報告多クレドモソノ成績ハ全ク一致スルト言フ能ハズ。⁽²⁵⁾ アッペルバウム Appelbaum 氏ハ第一期肺結核患者ニ於テハ白血球數ハ六、五〇〇、第二期ハ、〇〇〇乃至一〇、〇〇〇、第三期ニ於テハコレヨリ少シク増加セル數ヲ示シ、死前ニ於テハ一五、〇〇〇乃至二〇、〇〇〇ヲ算スト言フ。⁽²⁶⁾ スタイン及エルブマン Stein und Erdmann 兩氏ハ肺結核ノ初期及病竈ノ變化進行セリト雖、肺炎部ニ限局シ空洞ヲ有セザル者ニテハ白血球數ハ正常値ヲ示スト言ヘリ。⁽²⁷⁾ チーゲリ Naegeli 氏ハ肺炎部或ハ上肺葉ニ於ケル結核ニ於テハ血液ノ變化ハ極メテ微々タルノミナラズ全ク正常ナルモノアリ。例外トシテ白血球增多症ヲ來タセルヲ見ルノミ。然レドモ重症結核ニ於テハ一般ニ白血球ノ增多ヲ來タスト述ベタリ。⁽²⁸⁾ アルチツト Arneith 氏ハ結核性腦膜炎ノ患者ニ於テ死ノ直前四時間ニ採血検査セシニソノ白血球數ハ一二、八〇〇ナリシト記載セリ。⁽²⁹⁾ 吉橋氏ニヨレバ第一期肺結核患者ニ於ケル白血球數ハ男子四、三〇〇乃至一三、七五〇、女子七、一〇〇乃至一一、五五〇ナリト述ブ。⁽³⁰⁾ 永井氏ハ肺結核患者ニ於テ病症慢性ノ經過ヲトル者ニテハ初メ稍々増加ノ傾向ヲ示シ後漸次減少ス。但シ急性症ハ殆ンド例外ナク初ヨリ急速ノ減少ヲ來タスト言ヘリ。

余ハ結核患者二〇九例ヲ臨牀所見及肺ノ線寫眞所見ヲ參考トシテ重症(八六例)、中等症(六二例)、輕症(六一例)ノ三群ニ分チタリ。而シテソノ各例ニ於テ空腹時床上安靜ヲ守ラシメテ採血検査シ、ソノ平均數ヲ求メタルニ重症九、九三〇、中等症八、八八三、輕症七、一七三ヲ得タリ。コレヲ余ガ健康者ニ於テ得タル平均白血球數六、四〇四ニ比スル時ハ輕症ヨリ既ニ白血球數ノ稍々増加セリト雖、一般ニ唱ヘラル、正常白血球數即六、〇〇〇—八、〇〇〇ニ比スレバ正常値内ニ在リ。然レドモ輕症ヨリ中等症、重症ニ至ルニ從ヒ漸次白血球數ノ增多ノ傾向ヲ示スモノナリト言ヒ得ベシ。

第三項 結核患者及非結核者ノ白血球數ノ消長

白血球數ノ生理的時刻的消長ニ關スル東西ノ文獻ヲ見ルニ⁽³¹⁾ エラマン及アランゼン Eilermann und Eriadsen 兩氏ハ多クノ材料ニ就テ検査ヲナシ、白血球數ノ時刻的消長ノ平均ヲトリ、午前六時七、四〇〇、午前十時八、八〇〇、午後三時九、二〇〇、午後七時一〇、〇〇〇ナリトシタリ。兩氏ハコレヲ心臟ノ動作ニ因スル時刻的上昇ナリトセリ。我が教室ノ先輩⁽²⁴⁾ 草間氏ニヨルニ巴兩氏ノ言フガ如キ一定ノ規律ヲ見ルヲ得ズ、該増減タルヤ各人ニ於テ時刻ヲ同ジウヤズソノ最大數ガ正午前後ニ現ハル、コト最モ多クレドモ亦早朝若クバ時刻ニ來ルコト決シテ少シトセズ。而カモ同一人ニ於ケル此漸次的週期的増減ハ毎日同様ニ繰返ヘサル、モノニアラズシテ時ノ外、身體内外ノ狀態如何ニヨリ種々ニ變化スルモノナルベシト述ベタリ。又晝間身體安靜時ニ於テ午前八時ヨリ午後八時ニツタリ六同ノ採血中、白血球ノ最少數ト最大數トヲ比スルニ三、〇〇〇以上ノ差アル者甚ダ少シト言ヘリ。

余ハ余ノ検査ノ必要上ニ二時間ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナシ、コノ短時間内ニ於ケル白血球數ノ移動ヲ觀察セリ。検査材料トシテハ武谷内科入院患者二十七名、武谷内科看護婦一名及大阪市立刀根山病院入院患者七十四名、即總數百二名(其内結核患者九十八名、非結核者四名)ヲ用ヒタリ。検査ハ主トシテ午前中ニナシタリト雖、又極少數ハ午後ニ於テコレヲ行ヒタリ。而シテ早朝空腹時或ハ食後三時間以上經過シタル後ニ検査ヲ開始シタリ。又検査開始前三十分乃至一時間ヨリ検査中ハ被檢者ニ床上絕對安靜ヲ守ラシム。

第 一 表 A

被 検 者	診 断	檢 査 時	白 血 球 數				増 加	減 少	備 考	
1	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	8—10 a.m.	9,680	9,460	9,780	10,230	10,140	770	220	輕
2	右側肺結核	7.30—9.30 a.m.	7,060	6,980	7,240	7,310	6,940	250	20	„
3	バセドウ氏病	8—10 a.m.	7,840	7,980	7,600	7,480	7,820	140	360	
4	脾臓嚢腫	8—10 a.m.	7,240	7,460	6,940	6,820	7,100	220	720	
5	右側肺結核	8—10 a.m.	9,660	9,340	9,700	9,540	9,620	40	320	輕
6	兩側肺結核 慢性骨髓炎	8.30—10.30 a.m.	8,850	8,760	8,980	9,120	9,200	350		„
7	右側肺結核	8—10 a.m.	9,960	9,440	9,700	9,440	9,800		520	
8	兩側肺結核	8.30—10.30 a.m.	10,000	10,660	10,300	11,000	9,820	1,000	180	
9		8.30—10.30 a.m.	6,080	5,900	5,980	6,880	6,140	800	100	
10	右側肺結核	9.30—11.30 a.m.	9,100	9,080	8,700	8,780	8,920		800	
11	右側肺結核 結核性腹膜炎	9—11 a.m.	6,000	5,400	5,520	5,820	5,280		720	„
12	兩側肺結核	7.30—9.30 a.m.	10,600	10,860	11,520	10,860	10,640	920		重
13	兩側肺結核 右側膿胸	7.45—9.45 a.m.	9,700	10,820	10,700	10,280	10,000	1,100		中

14	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	3—5 p.m.	8.720	8.320	8.600	8.200	8.480	880	400	中
15	兩側肺結核	3.15—5.15 p.m.	6.100	5.300	5.800	6.060	5.620		800	，
16		8—10 a.m.	10.260	9.530	8.900	9.540	9.700		1.360	輕
17		8.15—10.15 a.m.	7.660	8.900	8.200	8.820	8.300	1.240		，
18		4—6 p.m.	10.840	11.840	11.400	11.360	11.720	880		中
19		4.15—6.15 p.m.	8.500	7.900	7.940	7.540	7.500		1.000	，
20	右側肺結核	8—10 a.m.	9.760	8.860	9.260	9.440	10.320	560	500	輕
21		8.15—10.15 a.m.	5.660	5.660	5.800	6.200	6.400	740		，
22		8—10 a.m.	5.840	6.380	5.660	6.500	5.840	710	180	，
23		8.15—10.15 a.m.	7.080	6.780	6.280	7.240	6.620	160	800	重
24		8—10 a.m.	6.040	6.260	5.640	6.000	5.980	220	400	中
25	糖尿病	3—5 p.m.	6.980	6.320	6.540	7.580	6.340	600	660	
26	右側肺結核	3.15—5.15 p.m.	3.680	3.220	3.830	3.240	3.760	80	880	輕
27	兩側肺結核	8—10 a.m.	8.400	8.360	8.960	8.960	9.580	1.180	40	中
28	健康	8.15—10.15 a.m.	10.360	10.120	9.320	9.740	10.260		1.040	
29	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	8.30—10.30 a.m.	8.000	7.820	7.140	7.420	8.300	300	860	中
30	兩側肺結核	8.45—10.45 a.m.	10.460	9.880	9.480	2.460	9.800		1.000	輕
31		11 a.m.—1 p.m.	9.040	9.940	9.020	9.340	10.880	1.840	20	中
32		11.15 a.m.—1.15 p.m.	5.700	5.700	5.180	6.340	5.920	640	520	重
33		3—5 p.m.	10.380	11.300	11.240	10.500	10.640	760		輕

34	■	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	3.15—5.15 p.m.	7.960	7.330	6.860	7.200	7.480		1.100	重
35	■	兩側肺結核	8.30—10.30 a.m.	11.400	12.500	14.780	12.280	12.080	880	3.380	重
36	■		8.45—10.45 a.m.	9.020	9.420	8.760	8.440	9.660	640	580	中
37	■		11 a.m.—1 p.m.	7.660	7.020	8.340	8.500	8.080	840	640	、
38	■	兩側肺結核 左側陳舊性肋膜炎	11.15 a.m. —1.15 p.m.	9.240	8.180	7.180	7.840	7.720		1.060	、
39	■	兩側肺結核	3—5 p.m.	10.220	10.080	9.780	9.040	8.300		1.920	、
40	■		3.15—5.15 p.m.	7.040	6.920	6.820	6.820	6.860		220	重
41	■		8.30—10.30 a.m.	10.320	10.100	10.060	11.140	10.340	320	260	、
42	■		8.45—10.45 a.m.	13.100	14.920	13.200	12.300	11.980	1.800	1.120	、
43	■		11 a.m.—1 p.m.	6.840	6.420	6.120	7.000	6.340	160	720	中
44	■		11.15—1.15 p.m.	9.380	9.040	9.660	9.020	8.980	280	400	中
45	■		8.30—10.30 a.m.	6.760	6.620	5.780	5.840	6.220		980	重
46	■		8.45—10.45 a.m.	5.000	4.900	5.160	6.140	6.040	1.140	100	中
47	■	、	11 a.m.—1 p.m.	5.620	4.800	5.300	6.560	5.420	940	820	重
48	■	兩側肺結核 右側「カリエス」	11.15 a.m. —1.15 p.m.	6.780	6.420	6.200	6.160	6.480		620	中
49	■	兩側肺結核	3—5 p.m.	6.800	6.960	6.340	6.560	6.480	160	460	重
50	■		3.15—5.15 p.m.	6.060	6.400	6.340	7.220	7.160	1.160		、
51	■	兩側肺結核 右側「カリエス」	8.30—10.30 a.m.	5.560	5.940	6.280	6.180	6.200	720		、
52	■	兩側肺結核	8.45—10.45 a.m.	11.660	12.180	12.140	10.880	10.740	520	920	、
53	■		11 a.m.—1 p.m.	5.560	5.940	6.280	6.180	6.280	720		、

54	兩側肺結核 喉頭結核	11.15a.m. —1.15p.m.	11.660	12.180	12.140	10.880	10.770	520	780	重
55	兩側肺結核	3—5p.m.	9.560	7.940	8.360	8.020	8.240		620	”
56		3.15—5.15p.m.	9.280	9.720	8.880	9.800	9.780	560	400	”
57	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	2.30—10.30a.m.	6.380	6.540	6.460	6.020	6.120	160	360	中
58	兩側肺結核	8.45—10.45a.m.	6.580	6.240	6.680	6.360	7.180	600	340	輕
59		11a.m.—1p.m.	6.100	6.360	7.000	7.000	6.840	900		重
60		11.50a.m. —1.50p.m.	5.900	5.200	5.360	5.940	6.040	140	700	輕
61		3—5p.m.	8.420	7.280	7.960	8.120	9.280	860	1.140	，
62		3.15—5.15p.m.	7.960	7.080	7.440	7.940	7.660		880	中
63		3.30—5.30p.m.	6.440	6.180	7.580	6.620	7.120	1.140	260	”
64		3.45—5.45p.m.	7.530	7.120	7.540	7.920	7.840	340	460	輕
65		11a.m.—1p.m.	9.200	8.220	8.920	9.140	10.060	860	980	，
66		11.15a.m. —1.15p.m.	8.480	7.380	9.760	7.640	7.200	1.280	1.280	中
67	兩側肺結核 左側陳舊性肋膜炎	3—5p.m.	5.860	5.880	7.200	7.360	7.020	1.500		，
68	兩側肺結核	3.15—5.15p.m.	8.720	8.300	8.840	9.580	9.500	860	420	，
69	兩側肺結核 左側陳舊性肋膜炎	8.30—10.30a.m.	12.040	11.620	11.580	11.420	10.600	1.440		重
70	兩側肺結核	8.45—10.45a.m.	8.760	8.320	9.380	9.000	9.160	620	440	中
71	兩側肺結核 左側渗出性肋膜炎	11a.m.—1p.m.	5.920	5.530	6.140	6.740	5.880	820	340	重
72	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	11.15a.m. —1.15p.m.	11.180	9.500	10.680	10.680	11.100		680	”
73		3—5p.m.	8.580	8.220	8.860	8.160	7.800	280	780	”

74	■	兩側肺結核	3.15—5.15 p.m.	10.360	10.520	10.740	12.400	12.080	2.040		
75	■	,	8.30—10.30 a.m.	10.580	10.460	11.860	9.900	11.540	1.280	680	中
76	■		8.45—10.45 a.m.	10.360	8.780	9.120	10.120	10.180		1.580	
77	■		3—5 p.m.	5.640	5.720	5.660	5.880	6.300	660		輕
78	■	,	11 a.m.—1 p.m.	11.460	11.060	11.300	11.500	10.800	40	660	中
79	■	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	11.15 a.m.—1.15 p.m.	9.460	8.540	7.740	7.800	8.300		1.720	重
80	■	兩側肺結核	3.15—5.15 p.m.	10.420	10.500	9.700	9.820	9.780	80	720	
81	■		8.30—10.30 a.m.	6.200	6.580	6.700	7.100	7.500	1.300		輕
82	■	,	8.45—10.45 a.m.	7.200	8.000	7.120	8.080	7.660	880	80	中
83	■	,	11 a.m.—3 p.m.	12.580	12.640	12.940	13.080	13.360	780		輕
84	■	,	11.15 a.m.—1.15 p.m.	6.800	7.180	7.800	8.020	8.140	1.340		輕
85	■		8.30—10.30 a.m.	6.720	6.840	6.880	7.320	7.520	600		中
86	■		8.45—10.45 a.m.	6.740	6.880	6.780	7.080	7.320	580		輕
87	■		11 a.m.—1 p.m.	11.900	13.120	12.780	13.020	11.420	1.220	480	輕
88	■	,	11.15 a.m.—1.15 p.m.	3.320	3.580	3.280	3.360	3.280	260	40	輕
89	■		8.30—10.30 a.m.	3.760	4.520	3.680	3.980	3.820	760	80	輕
90	■	,	8.45—10.45 a.m.	8.140	8.380	8.560	7.900	8.200	420	240	重
91	■	,	11 a.m.—1 p.m.	8.140	8.900	8.320	8.520	8.440	760		中
92	■	兩側肺結核 左側陳舊性肋膜炎	11.15 a.m.—1.15 p.m.	6.920	6.960	7.020	7.400	7.020	480		重
93	■	兩側肺結核	8.30—10.30 a.m.	6.660	7.580	6.640	7.220	6.930	560	20	輕

94	■	8.45—10.45 a.m.	15.020	15.320	14.640	15.000	15.060	300	400	中
95	■	11 a.m.—1 p.m.	5.080	4.340	4.760	4.700	4.260		820	重
96	■	11.15 a.m.—1.15 p.m.	6.020	7.940	6.200	7.120	7.740	1,900		輕
97	■	8.30—10.30 a.m.	9.620	8.080	9.020	8.680	8.970		540	中
98	■	8.45—10.45 a.m.	6.720	6.800	6.340	6.240	6.300	80	480	„
99	■	11 a.m.—1 p.m.	8.080	7.500	8.060	8.180	7.640	100	580	„
100	■	11.15 a.m.—1.15 p.m.	8.380	8.060	8.060	7.560	8.060		820	輕
101	■	8.30—10.30 a.m.	7.420	6.580	6.700	7.100	7.280		840	重
102	■	8.45—10.45 a.m.	6.600	6.740	7.040	7.040	6.860	440		„

備考 重、中、輕ハ結核症ノ重症、中等症、輕症ヲ示ス

第一表 B

白血球數ノ移動ノ範圍	例 數(百分率)	白血球數ノ移動ノ範圍	例 數(百分率)
1,000以下	七六例(七五・五%)	1,600—1,700	一例
1,000—1,100	四例	1,700—1,800	一例
1,100—1,200	五例	1,800—1,900	二例
1,200—1,300	六例(二七・六%)	1,900—2,000	一例
1,300—1,400	二例	2,000—2,100	一例
1,400—1,500	二例	2,100—2,200	一例
1,500—1,600	一例	2,200—2,300	一例
		2,300—2,400	一例

検査ニ床上絶對安靜ヲ守ラシムル時ハ二時間内ニ於ケル白血球數ノ移動ハ極メテ稀ニ稍々著シキ者アリト雖、コハ例外ト見ルベキ者ニシテ最大多數ニ在リテハ決シテ著シキモノニアラズ。

第三節 「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ關スル臨牀的觀察

検査成績ハ第一表Aニ示スガ如シ。更ニ白

血球數ノ移動ノ範圍トソノ頻度トノ關係ヲ明ラカニスルタメニ表ヲ以ツテ示セバ第一表Bノ如シ。即七五・五%ニ於テ一・〇〇〇以內ノ移動ヲナスニ過ギズ。又一・七六%ニ於テ一・〇〇一以上一・五〇〇以內ノ移動アリ。コノ検査成績ヨリ明ラカナル如ク被

結核患者、及非結核者ニ「AO」ヲ注射シソノ後ニ於テ白血球數ガ如何ニ變移スルカヲ檢ス。而シテ是等白血球數ノ動搖ガ、臨牀所見竝ニ「線寫眞所見」ト如何ナル關係ヲ有スルカヲ比較研究ス。検査症例ノ大部分ハ結核特殊製劑ヲ以テ前處置セザルモノヲ撰ビタレドモ、大阪市立刀根山病院入院患者及同病院看護婦生徒ニ於テハ半箇月乃至一箇年半前ニ「ツベルクリン」皮内反應ヲ檢セラレタリ。是等ハ各症例ニ就キ記載スルコト、セリ。而テ各症例ノ既往症竝ニ現症ハ成ル可ク簡單ニ記載スルコト、ナシタリ。

肺ノ「線寫眞所見」ハ主トシテ⁽²²⁾リーブマン Liebmann 氏ノ記載セルモノヲ參考トナシタリ。各検査成績ハ表示スルコトトセリ。検査症例記載中(武)ハ武谷内科ニテ、(有)ハ有馬研究所ニテ、(刀)ハ大阪市立刀根山病院ニテ検査セルコトヲ示ス。

第一項 「AO」一回注射ニヨル白血球數ノ動搖

以下述ブル各種ノ被檢者ニ於テ「AO」一回注射ニヨル白血球數ノ動搖ヲ觀察ス。各症例ニ於テ検査時ノ臨牀所見竝ニ肺ノ「線所見」及既往症等ヲ簡單ニ述ベ、検査成績ト比較研究ス。

其一、臨牀上結核症狀ノ明ラカニ備ハレル者

(一)重症結核患者

臨牀所見及肺ノ「線寫眞所見」ヲ參考トシ、重症患者ト認ムルモノ五三名ヲ用ヒテ検査ヲ行ヒタリ。

一、 (武) 二十二歳

診斷 兩側肺結核、腸結核

昭和三年(一九二八)十二月末、分娩セシガ、ソノ後間モナク發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリ。食思又不良ニシテ衰弱日ト共ニ加ハル。四年(一九二九)四月二十四日武谷内科入院。五月十二日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。左肺全葉及右肺上半部ニ於テ中等度或ハ輕度ノ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。體溫三十六度九分乃至三十八度四分、咳嗽、喀痰甚ダシク喀痰中ニ多數ノ結核菌ヲ證明ス。迴盲部ニ壓痛アレドモ腫瘍ヲ觸知シ得ズ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ六九耗。肺ノ「線寫眞所見」右肺上半部空洞ヲ有スル滲出性結核、下半部及左肺全葉滲出性增殖性結核。五月十二日採血検査。反應強陽性。六月四日死亡。

二、(武) 五十六歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)五月二日ヨリ熱感、咳嗽、喀痰アリ、時折胸痛ヲ訴へ、喀血數回アリ。七月十日、武谷内科入院。十四日現在、體格中等、榮養不良、右肺全面高度ノ濁音ヲ呈シ、上葉ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ、此處ニ氣管枝音ヲ明カニ聽診シ得。左肺輕濁、全肺全面無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十八度八分、咳嗽、喀痰甚ダシク時ニ咯血アリ。睡眠タメニ妨ゲラレ、思食不良。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一四三耗。肺ノレ線寫眞所見 右肺高度ノ滲出性結核、左肺纖維性増殖性結核。六月十四日、採血検査。反應強陽性。

三、(刀) 二十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十一月突然咯血アリ。以來數回ノ咯血ヲ伴ヒテ發熱、咳嗽、喀痰止マズ、食慾不良ニシテ全身衰弱日ト共ニ加ハル。五年(一九三〇)二月十九日、大阪市立刀根山病院入院。二十二日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十二日現在、體格中等ナレドモ榮養高度ニ害セラル。兩肺殊ニ右肺ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽診ス。體溫三十八度乃至三十九度四分、咳嗽、喀痰甚ダシク爲ニ睡眠害セラル、食慾不良ニシテ衰弱高度ナリ。五月二十二日、採血検査。反應強陽性。六月二十七日死亡。

四、(刀) 十九歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十月頃ヨリ全身倦怠ヲ覺エシガ漸次微熱、咳嗽、喀痰ノ諸症狀加ハリ、肺炎加答兒ト診斷サル。以來病症ハ増惡シ、五年(一九三〇)二月七日、大阪市立刀根山病院ニ入院。二月八日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。

五月二十三日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラル。兩肺全葉ニワタリ濁音ヲ呈シ、右上肺葉ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリテコノ部ニ氣管枝音著明ナリ。全肺面ニ「ラッセル」ヲ聽診ス。體溫三十七度乃至三十九度八分、咳嗽、喀痰高度ニシテ睡眠爲ニ障碍サル。食慾不良ニシテ衰弱日ト共ニ加ハル。

五月二十三日、採血検査。反應強陽性。ソノ後モ依然トシテ弛張性ノ體溫ヲ示シ、病症増惡シ八月七日死亡ス。

五、(刀) 二十歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

五年前右側乾性肋膜炎ニ罹リシモ治癒ス。以來健康ナリシガ昭和四年(一九二九)十月、突然咯血アリテ發熱、咳嗽、喀痰ヲ伴フ。全身衰弱日ト共ニ加ハル。五年(一九三〇)三月四日、大阪市立刀根山病院入院。同月五日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月二十三日現在、體格中等ナレドモ榮養高度ニ害セ

ラル。兩肺全面ニ濁音ヲ示シ、左上肺葉ニ於テ空洞症狀著明ナリ。他ハ全面ニ無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十九度、咳嗽、喀痰甚ダシク食思不長ナリ。五月二十三日、採血検査。反應強陽性。六月十日死亡。

六、 (刀) 三十歳

診斷 兩側肺結核、腸結核

四年前(一九二六)ヨリ胸部壓迫感、盜汗、咳嗽、喀痰、發熱アリ、加フルニ時ニ咯血アリ。昭和五年(一九三〇)ニ入り以上ノ症狀増惡シ全身倦怠感アリ。五月六日、大阪市立刀根山病院入院。五月七日現在、體格中等ナレドモ榮養高度ニ害セラル。兩肺全面濁音ヲ呈シ、右上肺葉ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ、ソノ部ニ氣管枝音著明、且ツ全肺面ニ無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク廻盲部ニ壓痛著明ナレドモ腫瘍ヲ觸知スル能ハズ。下痢一日數回、體溫三十七度乃至三十八度、咳嗽、喀痰多シ。食思不長。五月七日、採血検査。反應強陽性。七月十日死亡。

七、 (刀) 二十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十一月頃ヨリ全身倦怠感、發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリ。以來病症一進一退ナリシガ最近ニ至リ衰弱頓ニ加ハル。昭和五年(一九三〇)五月六日、大阪市立刀根山病院入院。五月七日現在體格中等、榮養高度ニ害セラル。皮膚貧血蒼白、兩肺全面濁音ヲ呈シ、左上肺葉ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ、ソノ部ニ氣管枝音著明ニシテ全肺面ニ無數ノ「ラッセル」ヲ聽診ス。右側肋膜ノ移動輕度障礙セラル。體溫三十七度乃至三十九度、咳嗽、喀痰多クシテ食慾不振、榮養高度ニ害セラル。五月七日、採血検査。反應強陽性。ソノ後體溫高度ノ弛張性ヲ示シ最高四十度ニ達シ一般ノ症狀増惡シ、七月二十八日死亡。

八、 (刀) 十九歳

診斷 兩肺結核

昭和四年(一九二九)六月ヨリ咳嗽、喀痰、發熱、盜汗アリ、七月ニ入り咯血一回アリ。以來諸症狀増惡シ、五年(一九三〇)四月二十一日、大阪市立刀根山病院入院。五月五日現在、體格中等、榮養不長、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺殊ニ右側ニ於テ濁音ヲ呈シ、兩上肺葉ニハ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ、氣管枝音著明、全肺面ニ無數ノ「ラッセル」ヲ聽診ス。體溫三十七度乃至三十九度、咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。五月五日、採血検査。反應強陽性。五月十五日死亡。

九、 (刀) 十八歳

診斷 兩側肺結核、右側舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)十二月突然咯血アリ。以來熱感、盜汗、咳嗽、喀痰アリテ病狀日々ニ増惡ノ傾向ヲ示シ來レリ。五年(一九三〇)四月四日、大阪市立刀根山病院入院。五日、「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。十日現在、體格中等、榮養不長、皮膚貧血蒼白、兩肺全面殊ニ右側下半濁音甚ダシク、ソノ部ニ於テ呼

吸音微弱ニシテ全肺面ニ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十九度四分、咳嗽、喀痰甚ダシク食思不良、ニシテ衰弱高度ナリ。五月十日、採血検査。反應強陽性。七月十六日死亡。

一〇、 (刀) 三十歳

診斷 兩側肺結核、腸結核

昭和三年(一九二八)六月頃ヨリ微熱、咳嗽、喀痰ヲ伴ヒテ全身違和ノ感アリ。十二月ニ入りコレ等ノ症狀増惡シ、時ニ喀血アリ。四年(一九二九)六月初ヨリ喀血一ヶ月餘持續セリ。カクテ病態増惡シ、七月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。八月十日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。七月十五日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。右肺全葉左肺上半部ニ於テ濁音ヲ呈シ、呼吸音粗銳ニシテ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。下腹部ニ「デファンス」アリテ廻盲部ニ腫瘍ヲ觸知シ、且ツ壓痛竝ニ自然腹痛アリテ下痢ヲ伴フ。體溫三十七度六分乃至三十九度四分、咳嗽、喀痰甚ダシ。五月十五日、採血検査。反應強陽性。八月七日死亡。

一一、 (武) 三十七歳

診斷 兩側肺結核、兩側腎臟結核

昭和四年(一九二九)六月始患者自ラ左側腎臟部ニ腫瘍ヲ觸シ、壓痛アリテ微熱ヲ伴フ。七月二日午後六時頃突然、咳嗽、發作起リ、夜ニ入りテ益々甚ダシク、呼吸困難加ハル。體溫三十九度五分、喀痰アリテ銹色粘液性ナリシガ十二日頃ヨリ膿性トナリ臭氣アリ。十五日、武谷内科入院、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。左肺、下半部中等度ノ濁音ヲ示シ多クノ「ラツセル」ヲ聽ク。左肺上半部及ビ兩肺背面下部ニ輕濁ヲ呈スルトコロアリ。呼吸音粗銳或ハ微弱ナリ。兩側ノ腫脹肥大セル腎臟ヲ容易ニ觸知シ得、壓痛甚ダシ。尿及ビ喀痰中ヨリ結核菌ヲ證明ス。肺ノレ線寫眞所見、左肺滲出性増殖性結核、右肺纖維性増殖性結核。七月十六日、採血検査。反應強陽性。

一二、 (刀) 二十二歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)三月以來發熱、咳嗽、喀痰等ノ諸症狀ヲ伴ヒ全身倦怠感アリ。食思不振ニシテ漸次病態増惡セリ。十二月二十六日、大阪市立刀根山病院入院。四年(一九二九)二月一日、「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。五年(一九三〇)五月十六日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面殊ニ左側ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十八度四分、咳嗽、喀痰甚ダシク、睡眠爲ニ障礙サレ、食慾又不振、衰弱日ト共ニ加ハル。五月十六日、採血検査。反應強陽性。十二月一日現在尙ホ引キ續キ入院中ナルモ病症増惡セリ。

一三、 (刀) 二十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）正月頃ヨリ全身倦怠感、發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。ソノ後病狀増惡シ、五年（一九三〇）二月二十五日、大阪市立刀根山病院入院。三月八日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月十六日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラル。兩肺殊ニ左肺ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十七度四分。咳嗽、喀痰甚ダシカラズ。食思不長。五月十六日、採血検査。反應強陽性。其ノ後體溫弛張性ニシテ最高三十八度五分ニ達シ病症一進一退ナリ。十二月一日尙ホ引き續キ入院中ナリ。

一四、[REDACTED]（刀） 二十歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

五年前（一九二五）右側乾性肋膜炎ニ罹リシモ一箇月餘ニシテ治癒ス。然ルニ昭和二年（一九二七）痔瘻ノ手術ヲウケタリシガ以來上述ノ病狀増惡シ、衰弱加ハル。五年（一九三〇）二月十三日、大阪市立刀根山病院入院。同月二十一日、「ツベルクリン」皮内反應陰性。五月二十日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラレ皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。左肋膜ノ移動不長ナリ。體溫三十六度乃至三十八度二分、咳嗽、喀痰甚ダシク食思爲ニ害セラル。衰弱日ト共ニ加ハル。肺ノ「線寫眞」所見、左側中等度ノ増殖性肺結核、右側陳舊性肋膜炎。五月二十日、採血検査。反應強陽性。ソノ後引き續キ入院治療中ナルモ病態漸次増惡ス。十二月一日尙ホ入院中ナリ。

一五、[REDACTED]（刀） 二十歳

診斷 兩側肺結核、腸結核

昭和四年（一九二九）十月以來發熱、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。五年（一九三〇）三月七日、大阪市立刀根山病院入院。同月八日「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十日現在、體格中等、榮養不長、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。迴盲部ニ壓痛アリテ下痢一日ニ數回。體溫三十六度二分乃至三十九度六分、咳嗽、喀痰甚ダシク、食思又不長。衰弱高度ナリ。五月二十日、採血検査。反應強陽性。五月三十日ヨリ病態増惡シ體溫ノ弛張甚ダシク、時ニ最高四十度ヲ越スコトアリ。七月十四日死亡。

一六、[REDACTED]（刀） 二十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十二月以來全身違和ノ感、發熱、咳嗽、喀痰、食思不振アリ。五年（一九三〇）三月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。五月二十日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラル。兩肺全面濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。體溫三十六度八分乃至三十八度四分、咳嗽、喀痰甚ダシク、食思又害セラレ衰弱加ハル。肺ノ「線寫眞」所見、左側増殖性肺結核、右側強度ノ滲出性肺結核、右側肋膜肥厚。五月二十日、採血検査。反應強陽性。五月二十七日

日死亡。

一七、[REDACTED] (刀) 二十七歳

診斷 兩側肺結核、喉頭結核

昭和三年(一九二八)正月頃ヨリ全身倦怠感、發熱、咳嗽、喀痰、盜汗アリテ、肺炎加答兒ト診斷サル。四年(一九二九)九月以來以上ノ症狀増惡シ、五年(一九三〇)三月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。同月二十九日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月二十一日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラレ、兩肺殊ニ右肺ニ於テ濁音抵抗ヲ示シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。半ケ年前ヨリ聲音嘶啞ヲ訴フ。體溫三十六度八分乃至三十八度八分、咳嗽、喀痰甚ダシク食思不長。五月二十一日、採血検査。反應強陽性。以後體溫ノ弛張甚ダシク、最高四十度ニ達シ衰弱著シク、七月二十二日死亡。

一八、[REDACTED] (刀) 二十八歳

診斷 兩側肺結核、左側陳舊性肋膜炎

八年前(一九二二)左側滲出性肋膜炎ニ罹リシガ治癒シ、其後健康ナリ。然ルニ昭和四年(一九二九)六月以來發熱、盜汗、咳嗽、喀痰ヲ訴ヘ五年(一九三〇)正月ヨリ一般症狀増惡シ三月二十八日、大阪市立刀根山病院入院。同月二十九日、「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。五月二十三日現在、體格中等、榮養不長、皮膚柔軟菲薄ニシテ貧血高度ナリ。兩肺全面輕濁、無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十九度ニシテ咳嗽、喀痰、増加シ睡眠時ニ障礙サル。二十日前ヨリ一日數回ノ下痢アリテ、食思又不進。肺ノレ線寫眞所見、左側増殖性滲出性肺結核、右側増殖性肺結核。五月二十三日、採血検査。反應強陽性。以後日ト共ニ病態増惡シ、九月二十五日死亡。

一九、[REDACTED] (刀) 二十一歳

診斷 兩側肺結核

昭和二年(一九二七)九月肺結核ト診斷サレシモ、治療靜養ニヨリ一時輕快ス。然ルニ四年(一九二九)七月以來再び發熱、咳嗽、喀痰アリ、又食思不振ニシテ全身衰弱日増ニ加ヘル。五年(一九三〇)四月十八日、大阪市立刀根山病院入院。同月十九日、「ツベルクリン」皮内反應陰性ナリ。五月二十四日現在、體格中等ナレドモ榮養高度ニ害セラレ、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全葉殊ニ左上肺葉ニ於テ濁音甚ダシク無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度三分乃至三十九度二分、咳嗽、喀痰、甚ダシク食思不長。五月二十四日、採血検査。反應強陽性。六月十五日多量ノ喀血アリ、遂ニ鬼籍ニ入ル。

二〇、[REDACTED] (刀) 三十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)八月ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリ。以來病症一進一退ナリ。五年(一九三〇)四月二十八日、大阪市立刀根山病院入院。五月二日現在、體

格中等、榮養輕度障礙セラル。右肺竝ニ左上肺葉前面輕濁、呼吸音微弱、背面兩肩胛骨間腔中央以上輕濁ヲ呈シ同處前後ニ於テ多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十七度二分、咳嗽、喀痰アレドモ食思良。肺ノ「線寫眞」所見、右側上肺野ニ於ケル空洞ヲ有スル高度ノ硬結性結核、下肺野ニ於ケル高度ノ増殖性滲出性結核、左上肺葉ニ於ケル中等度ノ大葉性滲出性結核。五月二日、採血検査。反應強陽性。九月二十七日死亡。

二一、
(刀) 二十四歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)八月以來發熱、咳嗽、喀痰、全身倦怠感アリ。榮養狀態漸次害セラル。五年(一九三〇)五月二日、大阪市立刀根山病院入院。五月三日現在、體格中等、榮養不良。兩肺全面殊ニ上部ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十八度。咳嗽、喀痰多量ニシテ食思又不良。五月二日、採血検査。反應強陽性。五月二十三日、結核性腦膜炎ヲ併發シテ死亡ス。

二二、
(刀) 二十一歳

診斷 兩側肺結核、喉頭結核

昭和四年(一九二九)十二月發熱、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。以來病症一進一退ナリシモ五年(一九三〇)二月ヨリ聲音嘶啞、喉頭痛ヲ訴ヘ食思爲ニ害セラレ榮養狀態漸次不良ニ傾ク。四月三十日、大阪市立刀根山病院入院。五月三日現在、體格中等ナレドモ榮養不良ニシテ、高度ノ貧血アリ。兩肺第四肋間腔以上輕濁呼吸音粗銳ニシテ多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度六分乃至三十八度二分、咳嗽、喀痰稍々多量ニシテ喉頭痛ヲ訴フ。食思不良。五月三日、採血検査。反應中等度陽性。五月二十日死亡。

二三、
(刀) 四十四歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎、腸結核

昭和四年(一九二九)四月右側滲出性肋膜炎ニ罹リ九月頃殆ンド治癒狀態ニナリタレトモ十月ニ入り、再び發熱、胸痛、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。五年(一九三〇)二月、大阪市立刀根山病院入院。五月三日現在、體格中等、榮養不良。兩肺上葉輕濁、又右側下部濁音抵抗アリテ肋膜ノ移動不良ナリ。濁音部ニ相當シテ散在性ニ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。腹部膨滿シ廻盲部ニ壓痛アリテ、一日數回ノ下痢アリ。體溫三十六度四分乃至三十八度。輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。食思不良。五月三日、採血検査。反應中等度陽性。六月二十七日死亡。

二四、
(刀) 三十二歳

診斷 兩肺結核、右側陳舊性肋膜炎

十四歳ノ折、右側滲出性肋膜炎ニ罹リ約八ヶ月ニテ治癒ス。二十九歳ノ六月頃ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリ、兩側肺尖加答兒トシテ治療ヲウケ、四ヶ月後ニ至

リ殆ンド治癒ス。三十歳ノ七月ヨリ再ビ全身倦怠感及ビ盗汗ヲ伴ヒ前記ノ症狀ヲ呈スルニ至レリ。而シテ兩側肺結核トシテ治療ヲ續ケシモ病症一進一退。昭和五年（一九三〇）三月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。四月七日、「ツベルクリン」皮内反應陰性。入院以來體溫三十六度四分乃至三十八度四分。五月三日現在、體格中等、榮養不良。左上肺葉右肺全葉殊ニソノ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、多數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。右肋膜ノ移動不良ナリ。咳嗽、喀痰共ニ甚ダシク、爲ニ睡眠障礙サル。食思不良。五月三日、採血検査。反應強陽性。七月十三日死亡。

二五、 （刀） 二十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年（一九三〇）正月、發熱、咳嗽アリテ肺結核ト診斷サル。以來病症急速ニ増惡シ、全身倦怠感、盗汗、發熱、咳嗽、喀痰増加シ、又食思不振ニシテ榮養狀態漸次不良トナル。三月二十六日、大阪市立刀根山病院入院。四月七日「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月三日現在、體格中等、榮養不良。兩肺殊ニ右側前面濁音ヲ呈シ、左上肺部ニ鼓音ヲ伴フトコロアリ。背面ハ左側全面、右側肺尖部ヨリ肩胛骨下隅ニ至ル間濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツヤル」ヲ聽キ、左上肺葉ニテハ氣管枝音ヲ伴フ。體溫三十七度乃至三十八度。咳嗽、喀痰甚ダシク食思爲ニ害セラル。肺ノ「線寫眞」所見、左肺空洞ヲ有スル萎縮性結核、右肺細葉性竝ニ小葉性増殖性結核。五月三日、採血検査。反應強陽性。七月三日死亡。

二六、 （刀） 四十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）六月以來、全身倦怠感、咳嗽、喀痰、發熱アリ。五年（一九三〇）三月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。四月四日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月三日現在、體格中等、榮養不良。右肺全面左上肺葉ニ濁音抵抗ヲ示シ、「ラツヤル」ヲ聽ク。迴盲部ニ輕度ノ壓痛アリ。體溫三十六度乃至三十八度四分、咳嗽、喀痰アリ。肺ノ「線寫眞」所見、右上肺葉ニ於ケル空洞ヲ有スル萎縮性結核、右肺下半細葉性増殖性結核、左肺小葉性滲出性増殖性結核。五月三日、採血検査。反應強陽性。九月十日死亡。

二七、 （刀） 十九歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）六月ヨリ咳嗽、喀痰、發熱、盗汗アリシガ七月ニ至リ咯血一回アリ。以來病症惡化シ、五年（一九三〇）四月二日、大阪市立刀根山病院入院。五月五日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺殊ニ側下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、兩肺上葉ニ於テ鼓音ヲ呈シ、コノ部ニ氣管枝音著明。兩肺全面ニ無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十九度。高度ノ咳嗽、喀痰アリ。五月五日、採血検査。反應強陽性。七月二十三日死亡。

二八、 （刀） 十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十二月以來全身倦怠ヲ覺エ、發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。以來病狀一進一退シ、五年（一九三〇）三月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。四月三日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月五日現在。體格虛弱、營養高度ニ害セラレ、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面殊ニ右下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ無數ノ「ラッセル」ヲ聽キ右上肺葉ニテハ氣管枝音ヲ帶ブトコロアリ。體溫三十六度乃至四十度、咳嗽、喀痰甚ダシク爲ニ、食思、睡眠障礙セラル。五月五日、採血検査。反應強陽性。六月三日死亡。

二九、 （刀） 二十三歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年（一九二九）七月以來胸痛、發熱、咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。十二月八日、大阪市立刀根山病院入院。同月十五日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。入院以來體溫三十六度六分乃至三十七度八分、稍々輕快ス。五月五日現在、體格中等、營養不良、左上肺葉、右肺全面殊ニ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ示シ右側肋膜ノ移動不良ニシテ多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。咳嗽、喀痰アリテ食思不良ナリ。五月五日採血検査。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在、稍々輕快セル狀態ナリ。

三〇、 （刀） 三十歳

診斷 兩側肺結核、左陳舊性肋膜炎

二十五歳ノ時、左側滲出性肋膜炎、二十九歳ノ六月再び左側乾性肋膜炎ニ罹ル。ソノ後引續キ發熱、咳嗽、喀痰、全身違和ノ感アリ。昭和四年（一九二九）十二月少量ノ咯血アリ。同月十四日、大阪市立刀根山病院入院。入院以來體溫三十六度八分乃至三十七度八分、一般狀態稍々輕快ニ赴キタリ。五月五日現在、體格虛弱、營養不良、右肺上半部、左肺全面、殊ニ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。左側肋膜ノ移動不良ナリ。肺ノ線寫眞所見、左肺ニ於ケル空洞ヲ有スル大葉性乾酪性結核、左側肋膜肥厚、右側細葉性結節性肺結核。五月五日、採血検査、反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルモ漸次症狀惡化ス。十二月一日尙存命ス。

三一、 （刀） 十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十月頃ヨリ發熱、全身違和ノ感、胸痛、呼吸困難、咳嗽、喀痰アリ。肺結核ノ診斷ノモトニ治療ヲウケタルモ病症一進一退ナリ。五年（一九三〇）三月七日、大阪市立刀根山病院入院。三月八日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月五日現在、體格中等、營養不良、右肺全葉左側上肺葉ニ於テ輕濁ヲ示シ、多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十八度。咳嗽、喀痰多シ。五月五日、採血検査、反應中等度陽性。八月十七日死亡。

三二、[REDACTED] (刀) 三十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)八月頃ヨリ全身倦怠感、盜汗、發熱、咳嗽、喀痰アリ。以來カ、ル症狀増惡シ、五年(一九三〇)二月二十八日、大阪市立刀根山病院入院。五月六日現在、體格中等、榮養不良。兩肺殊ニ右側ニ於テ濁音著明ニシテ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十八度四分。咳嗽、喀痰多ク、食思不良ナリ。肺ノレ線寫眞所見、右肺ニ於ケル小サキ空洞ヲ有スル滲出性結核。右側上肺野ニ於ケル小葉性滲出性結核。五月六日、採血検査。反應強陽性。七月三十日死亡。

三三、[REDACTED] (刀) 二十歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎、喉頭結核

十七歳ノ冬頃ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリ。昭和五年(一九三〇)正月ヨリ聲音嘶嘎、喉頭痛アリテ全身狀態漸次不良ニ傾ク。二箇月前ヨリ左側肋膜炎ヲ合併ス。五月六日、大阪市立刀根山病院入院。五月七日現在、體格中等、榮養不良。右肺全葉右側上肺葉ニ於テ濁音ヲ呈シ、呼吸音粗銳ニシテ散在性ニ「ラツセル」ヲ聽ク。左胸下部濁音抵抗ヲ呈シ肋膜ノ移動不良ナリ。聲音嘶嘎、喉頭痛アリ。體溫三十七度乃至三十七度五分。咳嗽、喀痰著シカラザルモ食思不良。五月七日、採血検査。反應中等度陽性。七月四日死亡。

三四、[REDACTED] (刀) 二十一歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)十月頃ヨリ全身倦怠感、發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリテ、時ニ血液ヲ混ズ。四年(一九二九)夏頃ヨリ呼吸困難加ハリ以來病症進行シ、食思睡眠障礙セラル。五年(一九三〇)二月五日、大阪市立刀根山病院入院。五月七日、現在。體格中等榮養高度ニ害セラル。皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聽キ、左上肺葉ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ、氣管枝音著明ナリ。體溫三十六度四分乃至三十九度二分。咳嗽、喀痰、甚ダシク爲ニ睡眠障礙セラレ食思又不良。榮養狀態共ニ不良トナル。五月七日、採血検査。反應強陽性。五月二十日死亡。

三五、[REDACTED] (刀) 二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)十月頃ヨリ全身違和ノ感アリテ、發熱、咳嗽、喀痰ヲ伴フ。昭和五年(一九三〇)三月十一日、大阪市立刀根山病院入院。同月二十二日、「ツベルクリン」皮内反應陰性。五月八日現在、體格中等。榮養不良、兩肺殊ニ上肺葉ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク、體溫三十六度七分乃至三十八度五分。咳嗽、喀痰多ク、食思不良。五月八日、採血検査。反應陰性。六月二十七日死亡。

三六、[REDACTED] (刀) 二十七歳

診断 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)十二月ヨリ、全身倦怠感ヲ覺エ、微熱アリテ、肺炎加答兒ト診斷サル。八月ニ入り、カ、ル症狀消失セシモ十二月再び前述ノ症狀ヲ現ハス。加フルニ胸痛、咳嗽、喀痰ヲ伴ヒ時々咯血アリ。四年(一九二九)六月二十一日、大阪市立刀根山病院入院。九月十七日、「AO」第一號〇五珽翌五年(一九三〇)三月十一日、「AO」第三號〇一珽ヲ注射ス。五月九日現在、體格強、榮養輕度ニ害セラル。兩側上肺葉濁音ヲ呈シ、多數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。咳嗽、喀痰多ケレドモ食思良ナリ。體溫三十六度乃至三十八度。五月九日、採血検査。反應強陽性。八月二日、家庭ノ都合ニヨリ退院ス。

三七、[REDACTED] (刀) 四十五歳

診断 兩側肺結核、左側滲出性肋膜炎

昭和四年(一九二九)十二月以來、胸痛、發熱、咳嗽、喀痰、心悸亢進アリ。五年(一九三〇)二月十九日、大阪市立刀根山病院入院。二月二十七日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月九日現在、體格中等、榮養不良。皮膚貧血蒼白ナリ。左側上肺葉、右肺全面殊ニ第四肋間腔以下濁音抵抗ヲ呈シ、コノ部ニ於テ呼吸音微弱、他部ニ於テ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十八度。咳嗽、喀痰甚ダシク食思不良。五月九日、採血検査。反應強陽性。五月十七日死亡。

三八、[REDACTED] (刀) 二十二歳

診断 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十月頃ヨリ發熱、咳嗽、喀痰、心悸亢進ヲ訴ヘ、時々咯血アリ。五年(一九三〇)二月十八日、大阪市立刀根山病院入院。二月二十二日、「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。五月十日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラレ皮膚貧血蒼白ナリ、右肺上葉左肺全葉濁音ヲ呈シ、左肺上葉ニハ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ氣管枝音著明。他部ニ於テ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十七度四分乃至三十九度二分、咳嗽、喀痰多シ。五月十日、採血検査。反應弱陽性。六月三十日死亡。

三九、[REDACTED] (刀) 四十一歳

診断 兩側肺結核、喉頭結核

三十六歳ノ時痔瘻ノ手術ヲウケ治癒シタリ。昭和三年(一九二八)十一月頃ヨリ全身倦怠感、熱感アリテ肺炎加答兒ト診斷サル。以來症狀一進一退ナリ。昭和四年(一九二九)九月ヨリ聲音嘶啞、喉頭痛アリ。十一月二十九日、大阪市立刀根山病院入院。十二月七日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五年(一九三〇)五月十日現在、體格中等、榮養不良。皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺前面上部及全面ニ於テ呼吸音微弱、散在性ニ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度六分乃至三十九度六分。

九度。咳嗽、喀痰アリ。五月十日、採血検査。反應陰性。五月十四日死亡。

四〇、[REDACTED] (カ) 二十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)六月以來、全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。ソノ後喀血數回アリ。五年(一九三〇)四月五日、大阪市立刀根山病院入院。十日、「ツベルクリン」皮内反應陰性。五月十日現在、體格中等、榮養不良。皮膚柔軟菲薄ニシテ貧血蒼白ナリ。兩肺全面輕濁、呼吸音微弱、散在性ニ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十九度。咳嗽、喀痰多ク食思不良ニシテ日ト共ニ衰弱ニ傾ク。五月十日、採血検査。反應中等度陽性。七月十一日死亡。

四一、[REDACTED] (カ) 二十一歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十一月ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリ。十二月ニ肛門周圍膿瘍ニ次イテ肛門瘻ヲ形成ス。時々四十度ノ高熱ヲ發スルコトアリ。五年(一九三〇)三月六日、大阪市立刀根山病院入院。三月十三日以來人工氣胸術ヲ行フコト六回ナルモ效果著シキモノナシ。五月十一日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺ハ人工氣胸術施行ノタメ稍々萎縮スレドモソノ部ニ多クノ「ラッセル」ヲ聽ク。左肺ハ一般ニ輕濁ヲ呈シ、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至四十度。咳嗽、喀痰甚ダシ。五月十一日、採血検査。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルモ十二月一日現在、病態稍々増惡ノ狀態ナリ。

四二、[REDACTED] (カ) 三十二歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)正月ヨリ全身倦怠感、熱感、咳嗽、喀痰アリ。五年(一九三〇)五月十二日、大阪市立刀根山病院入院。五月十五日現在、體格中等、榮養不良。皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面輕濁諸處ニ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十九度。咳嗽、喀痰甚ダシ。五月十五日、採血検査。反應弱陽性。六月十日死亡。

四三、[REDACTED] (カ) 二十一歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)正月ヨリ全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリ、時ニ血液ヲ混ズ。三月十二日、大阪市立刀根山病院入院。五月十五日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺尖部及左上肺葉濁音ヲ呈シ、「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度六分乃至三十九度。咳嗽、喀痰アリテ、食思又害セラル。五月十五日、採血検査。反應弱陽性。六月十九日死亡。

四四、[REDACTED] (刀) 三十九歳

診斷 兩側肺結核

三年前(一九二七)六月頃ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリ時ニ咯血アリ。昭和三年(一九二八)七月ヨリ心悸亢進、全身倦怠感アリ。四年(一九二九)四月十二日、大阪市立刀根山病院入院。五年(一九三〇)五月十六日現在、體格中等、榮養不良。皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面殊ニ左側ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十八度四分、咳嗽、喀痰多ク時々咯血アリ。食思不良。五月十六日、採血検査。反應強陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ病態日ト共ニ増惡ス。十二月一日現在、尙存命ナリ。

四五、[REDACTED] (刀) 四十二歳

診斷 兩側肺結核

七年前九月頃微熱、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。一時治療ノ狀態ニアリシモ再ビ發熱、咳嗽、喀痰アリ。以來病症一進一退ナリ。昭和五年(一九三〇)四月四日、大阪市立刀根山病院入院。同月五日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月二十日現在、兩肺全面濁音ヲ呈シ、右上肺葉ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ氣管枝音著明ナリ。他部ニハ多數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十八度六分。咳嗽、喀痰多ク、食思不良ナリ。五月二十日、採血検査。反應陰性。以後一般症狀増惡シ時々血痰アリ。八月二十七日死亡。

四六、[REDACTED] (刀) 三十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)正月以來全身倦怠感、發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリ。ソノ後漸次病症増惡セリ。四月五日、大阪市立刀根山病院入院。五月七日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十一日現在、體格中等、榮養不良、兩肺全面濁音ヲ呈シ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十九度。咳嗽、喀痰甚ダシク時ニ血液ヲ混ズ。食思不良。肺ノレ線寫眞所見、左肺輕度ノ増殖性肺結核、右側強度ノ滲出性肺結核、右側肋膜ノ肥厚。五月二十一日、採血検査。反應強陽性。以後病態増惡シ體溫三十六度八分乃至四十度ニシテ弛張性ヲ呈ス。十二月一日尙存命ナリ。

四七、[REDACTED] (刀) 三十三歳

診斷 兩側肺結核

七年前ノ七月頃ヨリ全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリテ、肺結核ト診斷サル。六年前三箇月間入院治療シ輕快退院ス。然ルニ昭和四年(一九二九)末頃以來再ビ上述ノ症狀ヲ呈シ全身衰弱加ハル。五年(一九三〇)三月七日、大阪市立刀根山病院入院。四月八日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十一日現在、體格強、榮養輕度害セラル。左肺全面濁音ヲ呈シ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。左上肺葉輕濁、呼吸音粗銳ニシテ諸處ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度三分

乃至三十七度六分ニシテ咳嗽、喀痰甚ダシ。食思比較的良好ナリ。五月二十一日、採血検査。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在、病態増悪状態ナリ。

四八、[REDACTED] (刀) 二十五歳

診斷 兩側肺結核、左側陳舊性肋膜炎、喉頭結核

七年前(一九二三)九月左側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ治癒シ、普通ノ如ク活動シ得ルニ至レリ。然レドモ翌年六月頃ヨリ全身倦怠感、心悸亢進ヲ伴ヒ發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリ。十月ヨリ聲音嘶啞ヲ訴フ、昭和四年(一九二九)七月二十六日、大阪市立刀根山病院入院、二十七日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性ナリ。五日二十一日現在、體格中等、營養輕度ニ害セラル。皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺殊ニ左上肺葉ニ於テ、濁音甚ダシク、多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、體溫三十六度二分乃至三十九度二分。咳嗽、喀痰高度ニシテ食思又害セラル。五月二十一日、採血検査。反應中等度陽性。十月九日死亡。

四九、[REDACTED] (刀) 六十歳

診斷 兩側肺結核、左側滲出性肋膜炎

昭和二年(一九二七)約一箇月間、微熱、咳嗽、喀痰ノ諸症狀アリシモ治癒ス。昭和四年(一九二九)八月ヨリ再ビ以上ノ症狀現ハレシガ十月ニ入り左側胸痛ヲ伴ヒ、左側滲出性肋膜炎ト診斷サル。五年(一九三〇)二月七日、大阪市立刀根山病院入院。八日「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月二十二日現在、體格中等、營養高度ニ害セラレ、皮膚貧血蒼白ナリ、右肺輕濁無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。左胸部濁音著シク殊ニ第三肋間腔以下全濁音抵抗ヲ示シ、呼吸音微弱或ハ消失シ聲音振盪ヲ缺グ。心臟ハ右側ニ壓セラル。體溫三十六度六分乃至三十七度六分。咳嗽、喀痰著シク食思又害セラル。五月二十二日、採血検査。反應強陽性。五月三十一日死亡。

五〇、[REDACTED] (刀) 十六歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十二月以來全身倦怠感、發熱、咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。五年(一九三〇)二月二十六日、大阪市立刀根山病院入院。三月八日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十三日現在、體格中等、營養不良。皮膚柔軟菲薄ニシテ貧血蒼白ナリ。左側上肺葉及右側全葉ニ於テ輕濁ヲ呈シ、多クノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十九度四分。咳嗽、喀痰多ク時ニ咯血アリ食思不良。肺ノ線寫眞所見。左側増殖性滲出性肺結核、右上肺葉ニ於ケル増殖性結核。五月二十三日、採血検査。反應中等度陽性。六月十五日死亡。

五一、[REDACTED] (刀) 二十七歳

診斷 兩側肺結核 喉頭結核

六年前(一九二四)ヨリ咳嗽、喀痰アリ。昭和四年(一九二九)十月流産以來再び全身倦怠感、發熱、咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。五年(一九三〇)四月二十一日、大阪市立刀根山病院入院。五月二十三日現在、體格中等、榮養不良、右肺全葉左肺尖部濁音ヲ呈シ「ラツセル」ヲ聴ク。二週間前ニ聲音嘶啞喉頭痛アリ。體溫三十七度乃至三十九度。咳嗽多クレドモ喀痰少シ。食思不良ニシテ衰弱加ハル。五月二十三日、採血検査。反應中等度陽性。六月二十二日家庭ノ都合ニヨリ退院。

五二、[REDACTED] (刀) 二十八歳

診斷 兩側肺結核

八年前(一九二三)肺炎加答兒ニ罹リ五箇月餘ニシテ治癒シ正常ノ如ク働シキガ昭和四年(一九二九)十二月突然咯血アリ。ソレ以來發熱、咳嗽、喀痰アリ。加フルニ胸部壓迫感、呼吸困難等ノ諸症狀ヲモ伴フニ至リ、大阪市有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。四月十八日現在、體格中等、榮養不良。兩肺殊ニ左肺ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聴キ、又兩肺上葉ニハ鼓音ヲ帶ブトコロアリテ氣管枝音著明ナリ。體溫三十六度乃至三十八度五分。咳嗽、喀痰多ク食思爲ニ害セラル。肺ノレ線寫眞所見、兩肺空洞ヲ有スル滲出性纖維性結核。四月十八日、採血検査。反應強陽性。

五三、[REDACTED] (武) 十七歳

診斷 結核性腦膜炎、右側肺結核

甚ダシキ頭痛及發熱ヲ主訴トシ、昭和四年(一九二九)五月不詳日武谷内科入院。入院時體格中等、榮養良好ナレドモ腦膜炎症狀著明ニシテ腦脊髄液ヨリ結核菌ヲ證明シ得タリ。肺ノレ線寫眞ヲ撮ル能ハザリシモ右肺ニ少數ノ捻髮音ヲ聴ク(病牀日誌紛失ノタメ詳ハシキ記載ヲ得ズ)。五月十九日、採血検査。反應強陽性。

以上重症結核患者五三名ニ於ケル検査成績ハ第二表ニ示ス。即チ五十三名ハ「AO」注射ニヨリ白血球數ノ動搖ハ不定ニシテ而カモ著シカラザルカ或ハ輕度ノ増加ヲ示セリ。即チ陰性反應ヲ呈セリト雖、爾餘ノ全例ニ於テハ高度ノ白血球數ノ減少即陽性反應ヲ呈セリ。

第 二 表 電 症 結 核 患 者

被検査者	診 断	注 射 回 数	検 査 日	白 血 球 数					YR	被検査者	診 断	注 射 回 数	検 査 日	白 血 球 数					YR
				前	30分	60分	90分	120分						前	30分	60分	90分	120分	
1 ■	両側肺結核 腸 結 核	1	1929	16,520	12,980	11,000	8,220	9,560	井	3 ■	両側肺結核	1	1930	10,160	7,720	8,400	9,780	8,500	井
2 ■	両側肺結核	1	1929	13,185	8,950	9,100	8,830	9,500	井	4 ■	両側肺結核	1	1930	15,660	13,280	11,200	12,040	13,940	井

5	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{27}{1930}$	18.750	12.660	12.020	13.980	14.280	■	25	■	兩側肺結核	1	$\frac{3}{1930}$	12.600	6.920	5.820	8.300	6.660	■
6	■	兩側肺結核	1	$\frac{7}{1930}$	14.420	12.780	11.200	12.780	12.440	■	26	■	兩側肺結核	1	$\frac{3}{1930}$	14.720	13.180	11.540	10.120	12.080	■
7	■	兩側肺結核	1	$\frac{7}{1930}$	12.760	10.520	9.380	9.500	11.700	■	27	■	兩側肺結核	1	$\frac{3}{1930}$	13.780	9.220	9.060	9.580	11.620	■
8	■	兩側肺結核	1	$\frac{7}{1930}$	13.780	9.220	9.060	9.580	11.620	■	28	■	兩側肺結核	1	$\frac{9}{1930}$	8.880	7.520	6.840	5.680	6.900	■
9	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{10}{1930}$	13.560	10.780	10.900	12.480	10.460	■	29	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{9}{1930}$	7.920	6.760	6.260	6.660	6.500	+
10	■	兩側肺結核	1	$\frac{15}{1930}$	15.910	14.100	10.840	9.720	8.940	■	30	■	兩側肺結核、左側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{9}{1930}$	6.600	5.400	5.140	4.440	5.420	+
11	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1929}$	12.520	11.720	11.160	10.180	10.400	■	31	■	兩側肺結核	1	$\frac{3}{1930}$	7.980	6.200	6.280	5.920	7.080	+
12	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	11.640	9.060	8.840	7.920	9.440	■	32	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	13.380	11.360	10.880	8.180	12.340	■
13	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{10}{1930}$	12.080	9.980	9.740	7.880	8.180	■	33	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{7}{1930}$	9.220	8.740	7.220	6.940	7.800	+
14	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{10}{1930}$	11.080	10.380	8.940	9.470	8.980	■	34	■	兩側肺結核	1	$\frac{7}{1930}$	10.220	7.220	7.800	8.680	8.200	■
15	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	9.680	6.440	7.180	7.600	6.170	■	35	■	兩側肺結核	1	$\frac{8}{1930}$	8.840	10.560	9.360	7.640	8.460	—
16	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	11.400	8.700	7.280	9.140	10.140	■	36	■	兩側肺結核	1	$\frac{9}{1930}$	8.260	7.140	5.260	5.360	5.340	■
17	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	9.420	7.380	7.060	6.180	5.880	■	37	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{9}{1930}$	7.180	5.240	5.060	5.660	5.380	■
18	■	兩側肺結核、左側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{10}{1930}$	12.640	11.300	10.200	10.980	9.100	■	38	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	8.460	7.000	7.220	6.920	8.580	+
19	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	14.660	11.120	10.940	9.080	12.080	■	39	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	6.900	7.200	7.560	8.520	8.800	—
20	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	9.880	7.740	7.820	10.160	7.660	+	40	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	11.480	11.560	9.160	10.700	10.260	+
21	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	9.800	8.500	7.500	7.950	6.500	■	41	■	兩側肺結核	1	$\frac{11}{1930}$	7.060	6.560	4.440	5.840	7.440	+
22	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	7.560	7.480	6.840	6.980	5.720	+	42	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	7.140	6.800	6.900	7.140	8.240	+
23	■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{10}{1930}$	12.360	11.300	11.080	12.160	10.560	+	43	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	11.020	10.420	11.380	9.080	10.460	+
24	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	8.200	5.900	6.320	5.540	5.600	■	44	■	兩側肺結核	1	$\frac{10}{1930}$	10.420	7.860	6.740	8.220	9.080	■

45	兩側肺結核	1	²⁰ / ₅ 1930	5.220	5.260	5.320	5.580	6.460	—	49	兩側肺結核、左 肺膿性肋膜炎	1	²² / ₅ 1930	10.920	7.900	8.040	8.220	7.400	井
46	兩側肺結核	1	²¹ / ₅ 1930	9.940	6.640	8.320	7.900	8.800	井	50	兩側肺結核	1	²³ / ₅ 1930	14.360	11.000	13.500	12.820	14.280	+
47	兩側肺結核	1	²¹ / ₅ 1930	5.820	3.960	4.140	4.060	4.980	+	51	兩側肺結核、 喉頭結核	1	²³ / ₅ 1930	8.480	5.960	6.800	7.200	7.100	+
48	兩側肺結核、右 側膿性肋膜炎、 喉頭結核	1	²¹ / ₅ 1930	10.740	8.660	9.140	7.780	8.800	+	52	兩側肺結核	1	¹⁸ / ₄ 1930	8.740	4.300	4.820	4.220	4.420	井
										53	右側肺結核、結 核性肋膜炎	1	¹⁹ / ₅ 1922	19.680	16.080	15.660	17.820	16.450	井

(二)中等症結核患者

臨牀所見及肺ノ線寫眞所見ヲ參考トシ、中等症患者ト認ムル者二五名ヲ用ヒテ検査ヲ行ヒタリ。

一、(刀) 十七歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和二年(一九二七)右側乾性肋膜炎ニ罹リ一箇月餘リニシテ自覺的ニ治療狀態ニ至ルモ數回ニシテ再ビ發熱、咳嗽、咳痰アリ。カクテ大阪赤十字病院ニ入院治療二箇月餘リナリシガ家庭ノ都合ニヨリ退院。以來自宅療養ヲ續ケタリ。昭和五年(一九三〇)五月一日、大阪市立刀根山病院入院。五月三日現在、體格中等度、榮養稍、不良。右肺上半部呼吸音微弱、左上肺葉輕濁ヲ呈シ、吸氣粗、呼氣延長シ且ツ銳ニシテ多ク「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十七度四分ニシテ咳嗽、喀痰少量ナリ。肺ノ線寫眞所見、右上肺葉ニ於ケル中等度ノ纖維性結核、左肺殊ニ上部ニ於テ小サキ空洞ヲ有スル中等度ノ細葉性增殖性結核。五月三日、採血検査。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ經過良好ナリ。十二月一日現在存命。

二、(刀) 五十六歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)四月突然咯血アリ。以來熱感、咳嗽、喀痰アリ。五年(一九三〇)二月二十五日、大阪市立刀根山病院入院。三月八日「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月十日現在ノ體格中等、榮養輕度ニ害セラル。兩肺全面僅カニ濁音ヲ帶ビ、右胸下部高度ノ濁音抵抗ヲ呈シ、呼吸音微弱ナリ。他部ニ於テモ呼吸音一般ニ微弱ナルモ、「ラッセル」ハ散在性ニ極メテ少數聽キ得ルノミ。體溫三十六度二分乃至三十七度六分。咳嗽、喀痰アリテ食思稍、不良。五月十日、採血検査。反應中等度陽性。八月二十七日死亡。

三、(刀) 二十九歳

診斷 兩側肺結核

八年前肺炎加答兒ト診斷サレ一箇年間ノ治療ニヨリ治癒ス。然ルニ五年前ヨリ再ビ全身倦怠感、食思不振ヲ覺エ熱感、咳嗽、喀痰アリテ時々少量ノ血液ヲ混ズ。一時輕快セルモ更ニ三年前ノ冬ヨリ以上ノ症狀増惡ス。昭和四年(一九二九)六月十八日、大阪市立刀根山病院入院。同月二十九日「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五年(一九三〇)五月十五日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。兩肺殊ニ上葉ニ於テ輕濁ヲ呈シ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十八度。少量ノ咳嗽、喀痰アレドモ食思比較的良。十月十五日、採血検査。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在、病態殆ンド不變ナリ。

四、(刀) 三十歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十一月十二日突然咯血アリ、始メテ醫師ノ診察ヲ求メ肺結核ト診斷サル。昭和五年(一九三〇)四月二十五日、大阪市立刀根山病院入院。五月三日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月十六日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺全面及左肺尖部輕濁ヲ呈シ、呼吸音微弱ニシテ極メテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。他ハ一般ニ呼吸音粗銳ナリ。體溫三十六度三分乃至三十八度三分。咳嗽、喀痰アリテ食思稍、不良ナリ。五月十六日採血検査。反應中等度陽性。六月三十日家庭ノ都合ニヨリ退院。

五、(有) 二十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)三月頃微熱輕度ノ咳嗽アリシガ數週ニシテ治癒ス。十一月ニ入りテ再發熱アリ。五年(一九三〇)正月ヨリ發熱、咳嗽、喀痰、胸痛アリテ全身倦怠感ヲ伴フ。四月十八日現在體格中等、榮養稍、不良。右肺上半部濁音ヲ呈シ、呼吸音粗銳ニシテ「ラッセル」ヲ聽診ス。肺ノ線寫眞所見、右上肺葉ニ小サキ空洞ヲ有スル増殖性纖維性結核、兩側肺門陰影竝ニ兩肺尖部ニ向フ氣管枝腺條增加ス。體溫三十六度四分乃至三十八度。輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。五月二十八日、採血検査。反應中等度陽性

六、(刀) 十八歳

診斷 兩側肺結核、結核性腹膜炎

昭和五年(一九三〇)三月始メヨリ胸部壓迫感、微熱、咳嗽、喀痰アリテ、盜汗ヲ伴フ。五月五日、大阪市立刀根山病院入院。五月六日現在、體格中等、榮養不良、右上肺葉及肺尖部輕濁ヲ呈シ、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。腹部多少膨滿シ、輕度ノ壓痛アリ、體溫三十六度五分乃至三十七度六分。咳嗽喀痰少量。肺ノ線寫眞所見、兩側纖維性肺結核、兩側肺門陰影增加五月六日採血検査。反應中等度陽性。十月二十八日輕快退院ス。

七、[REDACTED] (カ) 二十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)四月以來微熱、咳嗽アリ七月ニ入り時々高熱ヲ發シ盜汗、咳嗽、喀痰、増加シ、全身衰弱加ハル。五年(一九三〇)三月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。五月二十三日現在體格中等、榮養不良、兩肺全面輕濁極メテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十七度八分。少量ノ咳嗽、喀痰アリ。五月二十三日、採血検査。爾來病症増惡シ八月五日死亡。

八、[REDACTED] (有) 二十二歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)三月始メヨリ全身倦怠感ヲ覺エ、咳嗽、喀痰、發熱ヲ伴フ。四月二十五日現在、體格中等、榮養不良。左肺前面第三肋間腔以上、背面肩胛下隅以上、右肺尖部濁音ヲ呈シ、呼吸延長シ、粗銳ナリ、コノ部ニ「ラツセル」ヲ聽ク。肺ノ「線寫眞」所見、左肺ノ滲出性増殖性結核、右側上肺部ニ於ケル増殖性滲出性結核、兩側肺門淋巴腺結核。四月二十五日。採血検査。反應中等度陽性。

九、[REDACTED] (有) 五十五歳

診斷 兩側肺結核、右側肺葉間肋膜炎

昭和五年(一九三〇)三月中旬ヨリ發熱、咳嗽、喀痰、胸痛アリテ漸次心悸亢進ヲ訴フ。六月十三日現在、體格中等、榮養不良。兩肺殆ント全面輕濁、呼吸音粗銳ニシテ散在性ニ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫最高三十八度、咳嗽、喀痰アリ。肺ノ「線寫眞」所見、兩肺硬化性増殖性結核、右側肺葉間肋膜炎。六月十三日、採血検査。反應中等度陽性。

一〇、[REDACTED] (カ) 二十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)七月風邪ニ罹リシカソレ以來發熱、咳嗽、喀痰去ラズ。五年(一九三〇)二月肺結核ト診斷サル。五月二日、大阪市立刀根山病院入院、五月二日現在、體格中等、榮養比較的良好。左肺前面第三肋間腔以上輕濁、少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。背面モソレニ相當シ略同様ノ所見アリ。右肺前面第四肋骨間腔以上、背面肺尖部ニ輕濁抵抗ヲ有シ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク、體溫三十六度五分乃至三十七度四分。咳嗽、喀痰。少量ニシテ食思良。五月二日、採血検査。反應中等度陽性、七月十日家庭ノ都合ニヨリ退院ス。

一一、[REDACTED] (武) 二十七歳

診斷 兩側肺結核、腸結核

四年前ヨリ全身倦怠感、咳嗽、喀痰、盗汗アリ。一箇月前ヨリ腹痛下痢アリ。昭和四年（一九二九）七月十五日、武谷内科入院。體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。左肺上葉及右肺全面殊ニ下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、諸所ニ「ラッセル」ヲ聽ク。右側肋膜ノ移動不良ナリ。廻盲部ニ輕度ノ「デファンス」及壓痛アレドモ腫瘍ヲ觸知スル能ハズ。體溫三十六度三分乃至三十八度。咳嗽、喀痰アリテ食思爲ニ害セラル。一日數回ノ下痢アリ。喀痰中結核菌ヲ證明ス。

肺ノレ線寫眞所見、兩側増殖性纖維性肺結核。七月二十日、採血検査。反應強陽性

二、 (刀) 二十七歳

診斷 兩側肺結核

九年前肺炎加答兒ト診斷サレ治療數箇月ニシテ健康ニ復セリ。然レドモソノ後三箇年ニシテ腹膜炎ヲ起シ再ビ數ヶ月ノ治療ニヨリ漸ク治癒ス。昭和四年（一九二九）十二月ヨリ再ビ發熱盗汗、咳嗽、喀痰アリ。五年（一九三〇）五月一日大阪市立刀根山病院入院。同月十日「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月三日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。皮膚貧血蒼白ナリ。頸部兩側ニ淋巴腺ノ腫脹セルモノヲ認ム。右肺上半部左肺前面第三肋間腔以上背面肩胛骨下隅以上輕濁、一部鼓音ヲ帶ブトコロアリテ多クノ「ラッセル」ヲ聽ク、體溫三十六度四分乃至三十八度、咳嗽、喀痰アレドモ食思比較的良好ナリ。肺ノレ線寫眞所見、左肺主トシテ上部ニ於ケル空洞ヲ有スル硬結性結核、右上肺葉ニ於ケル輕度ノ増殖性結核。五月三日、採血検査。反應中等度陽性。九月十二日死亡。

一三、 (刀) 三十歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十二月、突然咯血ニ驚カサル。ソノ頃ヨリ微熱、盗汗、咳嗽、喀痰アリ。五年（一九三〇）二月二十七日、大阪市立刀根山病院入院、五月六日現在、體格中等榮養輕度ニ害セラル。兩肺上葉輕濁少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度一分乃至三十七度四分。咳嗽、喀痰少量アリ食思殆ンド正常ナリ。五月六日、採血検査。ソノ後引續キ入院中ナルガ漸次輕快ニ赴ク。反應弱陽性。十二月一日現在存命ナリ。

一四、 (刀) 二十七歳

診斷 兩側肺結核

二、三年前來輕度ノ咳嗽アリシガ昭和四年（一九二九）十一月ヨリ少量ノ喀痰ヲ伴フ。十二月十日突然四十度ノ發熱アリ。以來發熱、咳嗽、喀痰持續ス。五年（一九三〇）四月三日血痰アリ。五月五日、大阪市立刀根山病院入院。五月六日現在、體格中等、榮養普通、右肺上葉及左肺尖部輕濁ヲ呈シ、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度七分乃至三十七度五分。咳嗽、喀痰少量アレドモ食思良。五月六日、採血検査。反應中等度陽性。六月十九日死亡。

一五、 (刀) 二十五歳

診斷 兩側肺結核、喉頭結核

昭和四年（一九二九）九月頃ヨリ熱感、咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。一箇月前ヨリ聲音嘶嘎、喉頭痛ヲ訴フ、五年（一九三〇）五月五日、大阪市立刀根山病院入院。五月七日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺前面上半部、背面兩側肩胛骨下隅以上輕濁呼吸或ハ粗銳或ハ微弱ニシテ散在性ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十七度五分。咳嗽、喀痰多ク食思害セラル、五月七日、採血検査。反應中等度陽性。五月二十四日死亡。

一六、 （刀） 十六歲

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十月頃ヨリ全身倦怠感、微熱、盜汗アリシモ漸次治癒ス。五年（一九三〇）四月再び以上ノ症狀ニ伴ヒ、咳嗽、喀痰アリ。四月四日、大阪市立刀根山病院入院。同月六日、「ツベルクリン」皮内反應強度陽性。五月十日現在、體格中等、榮養不良、皮膚柔軟菲薄ニシテ貧血蒼白ナリ。右肺尖部竝ニ左肺兩葉濁音ヲ呈シ、多數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十七度九分。咳嗽、喀痰多シ。肺ノレ線寫眞所見、兩上肺葉ニ於ケル輕度ノ細葉性增殖性結核、左肺ノ中等度ノ大葉性結核。五月十日、採血検査。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルモ十二月一日現在、病態殆ンド不變ナリ。

一七、 （刀） 二十六歲

診斷 兩側肺結核

昭和三年（一九二八）來發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリテ時々全身倦怠ヲ覺エ咯血數回アリ、四年（一九二九）三月二十二日、大阪市立刀根山病院入院、五年（一九三〇）五月十日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。左側全肺葉右側上肺葉濁音ヲ呈シ、多クノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十七度二分。咳嗽、喀痰アリ。五月十日、採血検査。反應中等度陽性。ソノ度引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在、病態殆ンド不變ナリ。

一八、 （刀） 二十九歲

診斷 兩側肺結核

昭和三年（一九二八）咳嗽、喀痰アリ、四年（一九二九）夏一回咯血アリ。九月二十八日大阪市立刀根山病院入院。十月六日「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五年（一九三〇）五月二十日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。左肺及右肺尖部輕濁ヲ呈シ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十七度三分。咳嗽、喀痰輕度ニシテ食思良。五月二十日、採血検査。反應弱陽性。一時病症輕快ニ赴キシガ、十二月一日現在病態惡化セリ。

一九、 （刀） 三十八歲

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）九月頃ヨリ胸部壓迫感、全身倦怠感ヲ訴ヘ、發熱、咳嗽、喀痰アリ。十一月五日、大阪市立刀根山病院入院。十六日「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五年（一九三〇）五月二十日現在、體格中等度ニ害セラル。兩肺呼吸音粗銳ニシテ少數ノ捻發音ヲ交ヘ主トシテ乾性「ラツセル」ヲ聽ク。體溫

三十六度八分乃至三十八度。咳嗽、喀痰著シカラザレドモ時々血液ヲ混ズ、食思稍く不良。五月二十日、採血検査。反應弱陽性。七月九日死亡。

二〇、[REDACTED] (有) 二十五歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)八月右側滲出性肋膜炎ニ罹リ殆ンド治癒ノ狀態ニナリシモ常ノ如ク業務ニ服スル能ハザリキ。五年(一九三〇)二月以來再び發熱、咳嗽、喀痰アリ。四月十四日、大阪市立刀根山病院入院。同月十九日、「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。五月二十一日現在、體格中等、榮養輕度劣セラル。皮膚蒼白ナリ。兩肺散在性ニ「ラッセル」ヲ聽ク。右胸下半部呼吸音微弱ナリ。體溫三十六度七分及至三十七度七分。咳嗽、喀痰少量ニシテ食思良好ナリ。

五月二十一日、採血検査。反應弱陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルモ爾來病態輕快ニ赴ケリ。

二一、[REDACTED] (有) 五十四歳

診斷 兩肺結核

昭和四年(一九二九)七月肺炎加答兒ノ診斷ヲウケ以來百瀬氏ノ「ストロミン」ノ注射ヲウクルコト三十二回。最終ノ注射ハ二週間前ナリ。然レドモ胸痛、發熱、咳嗽、喀痰依然トシテ持續ス。四月二十一日現在、體格強榮養良。右肺殊ニ上葉ニ於テ濁音ヲ呈シ、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、左肺輕濁、呼吸音微弱ナリ。肺ノレ線寫眞所見。右肺滲出増殖性結核左肺纖維性増殖性結核。四月二十一日、採血検査。反應陰性。

二二、[REDACTED] (有) 三十六歳

診斷 兩側肺結核、結核性腹膜炎

昭和四年(一九二九)七月下痢、發熱、腹痛アリ、腹膜炎トシテ治療ヲ受ク。同年末頃ヨリ輕度ノ咳嗽アリ。五年(一九三〇)六月二十一日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺上三分ノ一輕濁、吸氣微弱ニシテ呼吸延長シ粗ナリ。左肺尖部モ亦呼吸音微弱ナレドモ「ラッセル」ヲ聽カズ。腹壁稍く緊張シ壓痛アリ、腹腔内ニ淋巴腺ノ腫脹セルト思ハシキモノヲ觸知ス。肺ノレ線寫眞所見、兩肺上方ニ向ヒ氣管枝線條並ニ肺門陰影増加ス。四月二十一日、採血検査。反應中等度陽性。

二三、[REDACTED] (有) 二十八歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)六月始メ突然咯血アリ。以來發熱、咳嗽、喀痰アリ。六月十八日ヨリ五年(一九三〇)四月十一日ニ至ルマデ十四回「AO」ノ注射ヲ受ク。四月二十五日現在、體格中等、榮養不良。咳嗽、喀痰アリ食思稍く不良ナリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門淋巴腺結核、左側纖維性硬化性結核、右側纖維性滲出性結核。四月二十五日、採血検査。反應中等度陽性。

二四、**(武)** 十八歳

診斷 結核性腹膜炎、兩側肺結核、右側乾性肋膜炎

昭和四年(一九二九)五月頃ヨリ食思減退シ、食後腹部膨滿緊脹ノ感アリ。最近ニ至リ全身倦怠感ニ加ヘ發熱、盜汗ヲ訴フ。六月二十九日、武谷内科入院。七月二十七日現在、體格中等、頸部ニ數箇ノ淋巴腺ノ腫脹アリ。腹部膨滿緊脹シ帶狀ノ腫瘍三箇ヲ觸知シ壓痛アリ。入院時ハ胸部ニ認ムベキ變化ナケレドモ七月十六日ニ至リ右胸下部ニ摩擦音ニ交ヘテ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十七度内外。食思不良、輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰ヲ缺ク。肺ノ線寫眞所見、肺門淋巴腺結核、兩肺増殖性纖維性結核、右側乾性肋膜炎。七月十二日、採血検査。反應強陽性。

二五、**(武)** 四十二歳

診斷 兩側肺結核、左側滲出性肋膜炎

三箇月前ヨリ熱感アリテ全身違和ヲ覺エ、更ニ輕度ノ咳嗽、喀痰ヲ伴フニ至レリ。カクテ肺炎加答兒トシテ治療中一箇月前ヨリ左側滲出性肋膜炎ヲ伴發スルニ至レリ。昭和四年(一九二九)十一月八日武谷内科入院。體格中等、榮養稍、不良。皮膚貧血蒼白ナリ右肺前面第三肋間腔以上、背面又ソレニ相當シテ濁音ヲ呈シ、多クノ「ラツセル」ヲ聽ク。左肺尖部呼吸音強銳トナリ、第四肋間腔以下全濁抵抗ヲ帶ビ呼吸音及聲音振盪消失シ或ハ微弱トナル。黃色漿液性ノ滲出液ヲ得タリ。咳嗽、喀痰アリテ喀痰中ニ結核菌ヲ證明ス。體溫三十七度乃至三十九度。十二月十日、採血検査。反應中等度陽性、十二月十三日患者ノ都合ニヨリ退院。

以上中等症結核患者二五名ニ於ケル検査成績ハ第三表ニ示ス。即二五例中採血検査前二週間マデ三十二回ニワタル百瀬氏ノ「ストロミン」ノ連續注射ヲ受ケタル一名ニ於テ「AO」注射ニヨリ輕度ノ白血球數ノ増加即陰性反應ヲ呈セリト雖他ノ全例ニ於テハ注射後白血球數ノ減少即陽性反應ヲ呈セリ。

第三表 中等症結核患者

被検査者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數					YR	被検査者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數					YR
				前	30分	60分	90分	120分						前	30分	60分	90分	120分	
1	兩側肺結核、右側乾性肋膜炎	1	1930 ^{5/5}	8,720	6,760	6,160	6,520	6,360	+	3	兩側肺結核	1	1930 ^{10/5}	8,120	6,640	6,740	7,540	9,580	+
2	兩側肺結核、右側乾性肋膜炎	1	1930 ^{11/3}	8,800	6,400	7,160	7,020	7,280	+	4	兩側肺結核	1	1930 ^{10/5}	16,200	13,500	14,540	14,080	13,580	+

5	兩側肺結核	1	¹³ / ₅ 1930	11.620	9.860	10.460	9.600	10.060	+
6	兩側肺結核 結核性腹膜炎	1	⁶ / ₅ 1930	6.180	3.540	3.600	4.180	4.400	+
7	兩側肺結核	1	²³ / ₅ 1930	14.400	11.600	12.800	13.200	13.920	+
8	兩側肺結核	1	²⁵ / ₄ 1930	12.340	10.040	10.620	11.980	12.420	+
9	兩側肺結核、 側肺葉間肋膜炎	右 1	¹³ / ₅ 1930	9.900	7.020	7.180	6.940	7.320	+
10	兩側肺結核	1	² / ₅ 1930	8.380	7.840	7.780	7.500	6.920	+
11	兩側肺結核 肺結核	1	²⁰ / ₅ 1929	10.160	7.440	7.460	6.840	6.820	+
12	兩側肺結核	1	³ / ₅ 1930	8.060	7.020	6.420	6.940	6.760	+
13	兩側肺結核	1	⁶ / ₅ 1930	9.920	8.420	8.240	8.920	10.100	+
14	兩側肺結核	1	⁶ / ₅ 1930	7.960	8.400	6.460	7.740	7.600	+
15	兩側肺結核 喉頭結核	1	⁷ / ₅ 1930	9.460	7.260	7.180	8.020	8.180	+
16	兩側肺結核	1	¹⁰ / ₅ 1930	12.700	11.600	11.040	10.280	10.620	+
17	兩側肺結核	1	¹⁰ / ₅ 1930	10.920	9.780	9.920	8.900	8.800	+
18	兩側肺結核	1	²⁰ / ₅ 1930	7.780	8.180	7.060	6.560	8.620	+
19	兩側肺結核	1	²⁰ / ₅ 1930	7.500	7.560	7.240	5.580	6.640	+
20	兩側肺結核、 側肺葉間肋膜炎	右 1	²⁰ / ₅ 1930	6.100	4.600	5.200	4.200	5.550	+
21	兩側肺結核	1	²¹ / ₄ 1930	7.320	8.120	8.620	6.800	8.180	—
22	兩側肺結核、 結核性腹膜炎	結 1	²¹ / ₄ 1930	10.380	4.100	4.000	4.600	4.840	+
23	兩側肺結核	1	²⁵ / ₄ 1930	10.320	9.800	7.900	8.720	9.020	+
24	兩側肺結核、 結核性腹膜炎、 側軟性肋膜炎	結 1	¹² / ₆ 1929	11.430	9.020	8.800	7.210	8.900	+
25	兩側肺結核、 側肺葉間肋膜炎	右 1	¹⁰ / ₁₃ 1929	6.040	5.500	5.800	5.320	4.940	+

(二)輕症結核患者

臨牀所見及肺ノレ線寫眞所見ヲ參考トシ輕症結核患者ト認ムル者三三名ヲ用ヒテ檢査ヲ行ヒタリ。

一、 (武) 三十二歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)七月頃ヨリ時々輕度ノ右側胸痛ト輕度ノ咳嗽アリタレドモ熱感ナシ。四年(一九二九)七月二十四日、武谷内科入院。體格中等、榮養良、右肺上三分一輕濁ヲ呈シ、呼吸音不純ニシテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。左肺尖部輕濁。體溫三十六度一分乃至三十七度三分、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。食慾良。肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性硬結性肺結核。八月三日、採血檢査、反應弱陽性。

二、 (刀) 二十歳

診斷 兩側肺炎結核

昭和三年(一九二八)九月ヨリ微熱、肩凝アリシモ數旬ニシテ治癒、五年(一九三〇)三月ヨリ再び微熱、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。四月十八日、大阪市立刀根山病

院入院。十九日「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。五月十六日現在、體格中等、營養輕度ニ害セラル。兩肺尖部輕濁ニシテ呼吸音微弱、體溫最近三十七度ニ達セズ。咳嗽、喀痰少量アリ。五月十六日、採血検査。反應弱陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在經過良好ナリ。

三、**（有）** 四十六歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）七月頃ヨリ微熱全身倦怠ヲ覺エシガ漸次咳嗽、喀痰ヲ伴フ。十二月ニ入り少量ノ咯血一回アリ。以來自宅ニテ安靜療養ヲナシ輕快ニ赴ク。五年（一九三〇）五月十六日、大阪市立刀根山病院入院。二十四日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十二日現在、體格中等、營養佳良、左肺上半部輕濁ニシテ僅カニ散在性ニ捻髪音ヲ聽ク。右肺尖部亦輕濁呼吸音微弱ナリ。體溫最高三十七度内外、咳嗽、喀痰極メテ少量ナリ。五月二十二日採血検査。反應弱陽性。十月十日全快退院。

四、**（有）** 二十歳

診斷 兩側肺結核

五年前（一九二五）輕度ノ咳嗽アリテ少量ノ血液ヲ混ズルツトアリ。以來微熱、盜汗、咳嗽アリ。五年（一九三〇）二月七日、大阪市立刀根山病院入院。八日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十三日現在、體格中等、營養佳良ナリ。左側肺尖部殊ニ背面ニ於テ輕濁ヲ呈シ少數ノ捻髪音ヲ聽ク。體溫最近三十七度ニ達スルツトナシ。咳嗽、喀痰極メテ少量ニシテ食思良。肺ノレ線寫眞所見、左肺殊ニ上部ニ於ケル結節性増殖性結核、右肺門淋巴腺結核。五月二十三日、採血検査。反應弱陽性。ソノ後引續キ入院中ナルガ十二月一日現在、經過良好ナリ。

五、**（有）** 十七歳

診斷 兩側肺尖結核

十年前（一九二〇）ニ肺尖加答兒ト診斷サレシツトアルモ大シタル靜養モナクシテ殆ンド正常ノ生活ヲ持續シ來レリ。昭和五年（一九三〇）正月以來全身倦怠感、胸部壓迫感、輕度ノ咳嗽喀痰アリ。四月二十五日現在、體格中等、營養輕度ニ害セラル。右肺第二肋間以上及ビ左肺尖部輕濁ニシテ吸氣粗、呼氣延長シ且ツ粗ナリ。體溫三十六度五分乃至三十七度六分、食思良。咳嗽、喀痰極メテ輕度ナリ。肺ノレ線寫眞所見、兩肺尖部ニ於ケル増殖性肺結核、兩側肺門淋巴腺結核。四月二十五日、採血検査。反應弱陽性。

六、**（有）** 三十六歳

診斷 右側肺結核

一箇月前ヨリ全身倦怠感、微熱、輕度ノ咳嗽アリ。五月二日現在、體格中等、營養輕度ニ害セラル。右肺上半部輕濁、吸氣微弱、呼氣延長シ粗ニシテ極メテ

少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク、體溫三十六度五分乃至三十七度六分。輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰ナク食思良ナリ。肺ノ「線」所見、右肺上半部ニ於ケル増殖性硬結性結核、兩肺門淋巴腺結核。五月十三日、採血検査。反應弱陽性。

七、**（有）** 三十一歳

診斷 兩側肺結核

五年前（一九二五）肺炎加答兒ト診斷サレ靜養ニヨリ漸次治療ス。昭和四年（一九二九）七月頃ヨリ全身倦怠感、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。十一月一日、大阪市立刀根山病院入院。五年（一九三〇）五月二十三日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。兩肺諸處ニ極メテ少數ノ捻發音ヲ聽ク。體溫最高三十七度内外ナリ。咳嗽、喀痰アレドモ著シカラズ。五月二十三日、採血検査。反應弱陽性。以來引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在經過良好ナリ。

八、**（有）** 二十七歳

診斷 右肺炎結核

昭和五年（一九三〇）四月以來時々微熱、咳嗽、喀痰アリ。四月十八日現在、體格中等、榮養良、右肺炎輕濁、呼吸延長シ、且ツ粗銳ナリ。少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。時折微熱、咳嗽、喀痰アリ。肺ノ「線」寫眞所見、右肺上方ニ向フ氣管枝線條増加シ、兩側肺門陰影増加。四月十八日、採血検査。反應弱陽性。

九、**（有）** 十九歳

診斷 兩側肺炎加答兒、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年（一九二九）二月右側滲出性肋膜炎ニ罹リシガ七月ニ至リ治癒ス。五年（一九三〇）二月少量ノ咯血アリキ。以來微熱、胸部壓迫感ト輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。五年四月十八日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺上三分一ノ部ニ於テ輕濁、呼吸延長、粗銳ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。左肺炎部亦輕濁ニシテ呼吸延長シ、且ツ粗銳ナリ。右胸下部濁音抵抗アリテ肋膜ノ移動不良ナリ。體溫三十六度二分乃至三十七度三分、少量ノ咳嗽、喀痰アリ。

肺ノ「線」寫眞所見、兩側殊ニ右側肺炎部ニ向フ氣管枝線條増加ス。又兩肺門陰影殊ニ左側ニ於テ著明ナリ。右胸下部ノ肋膜ノ肥厚アリ。四月十八日、採血検査。反應弱陽性。

一〇、**（有）** 二十八歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

七年前（一九二三）右側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ治癒ス。昭和四年（一九二九）十月突然咯血アリ。以來發熱、咳嗽、喀痰アリ。五年（一九三〇）四月二十六日現在、體格中等、榮養普通。右肺炎部輕濁吸氣粗、呼吸延長シ、且ツ粗ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。右胸下部濁音抵抗ヲ示シ、呼吸音微弱ナリ。肺ノ「線」寫眞所見、兩肺ノ結節性硬結性肺結核。四月二十六日、採血検査。反應弱陽性。

診斷 右側肺結核結核性腹膜炎

一、**（有）** 二十一歳

昭和五年（一九三〇）二月以來腹膜炎トシテ治療ヲ續ケ來リ殆ンド治愈ニ近キ狀態トナリシモ、一ケ月前ヨリ全身倦怠感、微熱、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。四月三十日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右上肺葉輕濁、吸氣微弱、呼氣延長シ粗ナリ。肺ノレ線寫眞所見、兩肺特ニ右肺ニ於テ上方ニ向ヘル氣管枝線條竝ニ肺門陰影增加ス。四月三十日、採血検査。反應弱陽性。

二、**（有）** 二十七歳

診斷 右側肺結核

昭和三年（一九二八）肺炎加答兒ニ罹リシガ治療ニヨリ漸次輕快ス。然ルニ再ビ二週間前ヨリ微熱、全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリ。三年十月以來「A.O」注射回数二十回ニ達シ最終ノ注射ハ四年（一九二九）八月十九日ナリ。爾來此度ノ症狀發現マテ自覺的ニ著變ナク常ノ如ク生活ヲ營ミ來レリ。五年（一九三〇）四月三十日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺上葉輕濁呼吸音粗ニシテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。肺ノレ線寫眞所見、右肺上葉ニ於ケル増殖性滲出性結核兩側肺門淋巴腺結核、右胸下部ニ於ケル肋膜ノ肥厚アリ。四月三十日、採血検査。反應弱陽性。

三、**（有）** 十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）九月右側滲出性肋膜炎ニ罹リシガ十一月ニ至リ治愈ス。然ルニ五年（一九三〇）四月以來微熱及ビ輕度ノ咳嗽アリ。五月十三日現在、體格中等、榮養普通。右肺上半輕濁、吸氣微弱、呼氣延長シ粗ナリ。左肺尖部又輕濁呼吸音粗ナリ。體溫三十六度四分乃至三十七度四分、食思良ニシテ咳嗽、喀痰殆ンドナシ。肺ノレ線寫眞所見、兩肺尖部ニ向フ氣管枝線條増加シ兩肺門陰影擴大ス。五月十三日、採血検査。反應弱陽性。

四、**（有）** 二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）正月以來輕度ノ咳嗽ヲ伴ヒ全身倦怠感アリ。四月肺結核ト診斷サル。ソノ頃ヨリ發熱、盜汗、喀痰等ノ諸症狀アリ。五年（一九三〇）三月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。二十九日「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月二十四日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺上葉及ビ左肺尖部輕濁、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度ニ達セズ。咳嗽、喀痰殆ンドナシ。食思良好ナリ。肺ノレ線寫眞所見、左上肺葉ニ於ケル輕度ノ結節性増殖性結核、左肺纖維性結核。五月二十四日、採血検査。反應弱陽性。爾來漸次輕快ニ赴ク。

五、**（有）** 二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)十月初旬、感冒ニ罹リシガ治療ニ至ラズシテソノ後全身違和ノ感、微熱、咳嗽アリ。四年(一九二九)一月十八日武谷内科入院。三月十七日現在、體格中等、榮養良。頸部淋巴腺多少肥大ス。入院時ハ唯左肺下部ニ於テ呼吸音僅カニ微弱ナルニ過ギザリシモ目下ハ兩肺諸處ニ極メテ少數ノ捻髮音ヲ聽キ、尙ホ兩側鎖骨下窩ニ於テ呼吸音粗ニシテ不純ナリ。咳嗽、喀痰アレドモ體溫三十六度六分乃至三十七度六分ナリ。食思普通。肺ノ線寫眞所見、兩側肺門淋巴腺結核、左側上肺野ニ於ケル増殖性纖維性結核、左側下肺野ニ於ケル増殖性硬結性結核。三月十七日、採血検査。反應中等度陽性。

一六、(武) 七十歳

診斷 兩側肺結核、左側腎臟出血

昭和三年(一九二八)五月何等動機或ハ誘因ト思ハル、チノナクシテ血尿ヲ認メタリ。苦痛トテハナケレバ放置シタリ。出血ノ程度ハ時ニ輕ク時ニ重シ。最近ニ至リ全身ノ衰弱ヲ覺エタリ。從來時ニ輕度ノ咳嗽アリシモ熱感、喀痰ナシ。四年(一九二九)二月一日武谷内科入院。皮膚貧血蒼白ニシテザーリ氏法ニヨル血色素ハ僅カニ四二%ニ過ギズ。兩肺一般ニ呼吸音微弱ナレドモ「ラッセル」ヲ聽カズ。二月四日、腎臟ノ線検査ニヨリ結石ソノ他ノ異常ノ陰影ヲ認メズ。同日血液ノワ氏反應陰性、尿中結核菌ヲ證明シ得ズ。入院以來安靜ヲ命ジ補血劑並ニ止血劑ノ内服或ハ注射ヲナシ一方驅微療法ヲ試ミタリシガ血色良好トナリ又出血モ減ジタリト雖モ日ニヨリテ異ナル、入院約三ヶ月ナリシモ唯血色並ニ榮養狀態稍々良好トナルモ出血止マズ、家庭ノ都合ニヨリ退院ス。肺ノ線寫眞所見、兩側纖維性増殖性結核。四月十四日、採血検査、反應中等度陽性。今ヨリ惟フニ或ハ腎臟結核ナラザリシカ。

一七、(武) 四十三歳

診斷 兩側肺結核、左側陳舊性肋膜炎、腸「チフス」

十年前(一九一九)左側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ約半年間ノ治療靜養ニヨリ全ク健康ニ復シタリ。昭和四年(一九二六)六月二十六日ヨリ全身倦怠感並ニ頭重感ヲ覺エ、發熱三十八度乃至三十九度ニ達ス。七月一日武谷内科入院、腸「チフス」ト決定サル。當時胸部所見トシテハ左胸部下三分ノ二濁音抵抗アリ呼吸音微弱ナリ。上部及ビ右肺ニ於テ呼吸音粗銳ナリ。八月七日ニ至リニ左肺「ラッセル」ヲ聽キ得。以來尙ホ微熱去ラズ。肺ノ線寫眞所見、兩肺纖維性増殖性結核、左側陳舊性肋膜炎。七月十五日、採血検査。反應弱陽性。

一八、(刀) 四十六歳

診斷 兩側肺結核

二十歳ノ時右側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ全ク治愈ス。昭和四年(一九二九)十一月頃ヨリ全身違和ノ感、微熱、咳嗽、喀痰アリ。五年(一九三〇)二月二十八日、大阪市立刀根山病院入院。三月七日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性、入院以來輕快ニ赴ク。五月六日現在、體格中等、榮養佳良。兩肺尖部輕濁、

呼吸音微弱、「ラッセル」ヲ聽カズ。咳嗽、喀痰殆ンドナシ。體溫三十六度四分乃至三十七度三分。五月六日、採血検査。反應陰性。八月三十一日死亡。

一九、[REDACTED] (武) 二十四歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎、結核性腹膜炎

昭和三年(一九二八)六月十日右側滲出性肋膜炎並ニ腹膜炎ニ罹リ入院治療一箇月半ニテ輕快セシモ尙月ニ數回ノ腹痛アリ。營養狀態恢復セズ。四年(一九二九)八月二十一日、武谷内科入院。十一月十六日現在、體格中等、營養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。右肺下三分ノ一濁音ヲ呈シ「ラッセル」ヲ聽ク。右側肋膜ノ移動不良ナリ。左肺呼吸延長シ粗ナリ。體溫三十六度二分乃至三十六度九分、腹部ニ輕キ壓痛アリ、輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰ナシ。肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性増殖性結核、右側肋膜ノ肥厚。十一月十六日、採血検査。反應弱陽性。

二〇、[REDACTED] (武) 四十歳

診斷 右側肺結核

昭和三年(一九二八)末頃ヨリ全身倦怠感、發熱アリ。四年(一九二九)九月九日武谷内科入院。十一月十六日現在、體格中等、營養輕度ニ害セラル。前面右肺上葉輕濁、呼吸延長シ粗ナレドモ「ラッセル」ヲ聽カズ。體溫三十六度三分乃至三十七度三分。輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰殆ンドナシ。肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性増殖性肺結核。十一月十六日、採血検査。反應弱陽性。

二一、[REDACTED] (武) 二十三歳

診斷 兩側肺結核、兩側陳舊性肋膜炎、心嚢癒著ニヨル心臟衰弱、右側動眼神經麻痺

昭和四年(一九二九)四月全身倦怠感、熱感アリ。五月兩側肋膜炎ノ診斷ヲウケ爾來醫療ヲ續ケタリ。九月十日武谷内科入院。五年(一九三〇)二月二十四日現在、體格中等營養稍々不良。胸部兩側下部濁音抵抗アリテ「ラッセル」ヲ聽ク。心濁音兩側ニ擴大ス。右動眼神經麻痺アリ。體溫入院時ハ三十八度内外ナリシモ目下三十七度以下ナリ。輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰殆ンドナシ。二月二十四日、採血検査、反應弱陽性。

二二、[REDACTED] (有) 十一歳

診斷 兩側肺結核

二箇月前ヨリ盜汗、咳嗽、喀痰並ニ微熱アリ。昭和五年(一九三〇)四月二十五日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪ル。體格中等、營養不良、頸部淋巴腺ノ腫脹アリ。兩肺諸處ニ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。少量ノ咳嗽、喀痰、微熱アレドモ食思比較的良好ナリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺尖結核。四月二十八日、採血検査。反應弱陽性。

二三、[REDACTED] (有) 二十五歳

診斷 兩側肺結核

四年前(一九二六)微熱、咳嗽アリシモ數箇月ニシテ治癒セシガ昭和五年(一九三〇)正月以來咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。半箇月前ヨリ胸部壓迫感アリ。四月二十八日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪ル。體格中等、榮養普通、右肺上半野輕濁、呼吸延長シ、粗ニシテ少數ノ「ラツナル」ヲ聽ク。微熱、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。食思良好ナリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側殊ニ右側ニ於ケル纖維性增殖性結核竝ニ肺門淋巴腺結核。四月三十日、採血検査。反應弱陽性。

二四、
(有) 十八歳

診斷 右側肺結核

三年前(一九二七)ニ風邪ニ罹リシガ以來咳嗽去ラズ。二箇月前ヨリ微熱、頭痛ヲ訴ヘ咳嗽又増加ス。四月二十八日有馬研究所附屬醫院ヲ訪ル。體格中等、榮養普通、右肺上葉輕濁音ヲ示シ下部ニ於テソノ度ヲ増シ抵抗アリ。呼吸音微弱ニシテ少數ノ「ラツナル」ヲ聽ク。極メテ輕度ノ咳嗽、喀痰アレドモ食思良好ナリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門淋巴腺陰影増加、右肺上方ニ向フ氣管枝線條増加シ右側肋膜ノ肥厚アリ。四月三十日、採血検査。

二五、
(武) 二十三歳

診斷 右側肺結核

昭和三年(一九二八)末右側肺尖加答兒ノ診斷ヲウケ、以來治療靜養ヲ續ケタリ。輕度ノ發熱、咳嗽アリ。四年(一九二九)七月二十二日武谷内科入院。體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺尖部多少萎縮シ輕濁、呼吸延長シ粗。吸氣又不純ナリ。微熱アリテ咳嗽アレドモ喀痰殆ンドナシ。食思輕度ニ害セラル。肺ノレ線寫眞所見、右肺ノ纖維性增殖性結核。八月十七日、採血検査、反應弱陽性。

二六、
(有) 四十一歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)正月以來全身倦怠感、微熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリ。五月十日有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通。右肺葉輕濁、呼吸音微弱、左肺尖部又輕濁、呼吸延長シ粗ニシテ銳、體溫三十七度二分、輕度ノ咳嗽アリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門淋巴腺結核、右肺纖維性增殖性結核。五月十三日、採血検査。反應弱陽性。

二七、
(有) 二十七歳

診斷 兩側肺結核

五年前(一九二五)右側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ數箇月ニシテ治癒。昭和四年(一九二九)四月以來咳嗽、喀痰、胸部壓迫感等アリテ、大阪赤十字病院ニテ肺結核トシテ治療ヲウケタリ。ソノ後ニ至リ五月十六日ヨリ有馬研究所附屬醫院ニテ引續キ治療中ニシテ、三十一回ノ「AO」注射ヲ受ケタリ。最終注射ハ二箇月

前、五年（一九三〇）五月十二日現在、體格中等ナレドモ榮養稍、不良。右肺上半部濁音ヲ呈シ呼吸音微弱ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。左肺上葉輕濁呼吸音又微弱ナリ。體溫三十七度内外、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性增殖性肺結核。五月十二日、採血検査。反應弱陽性。

二八、 （有） 三十歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年（一九三〇）三月以來咳嗽、喀痰、胸痛、發熱アリ。六月一日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等ナレドモ榮養不良。右肺上葉輕濁少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。右肺尖部呼吸延長シ粗ナリ。胸部壓迫感アリ。體溫三十七度内外、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。肺ノレ線寫眞所見、右側增殖性纖維結核、右肺門淋巴腺結核。六月三日、採血検査。反應弱陽性。

二九、 （有） 十六歳

診斷 兩側肺結核、左側乾性肋膜炎

昭和五年（一九三〇）正月以來全身倦怠感、微熱、咳嗽、喀痰アリテ、一週間前ヨリ休學ス。六月八日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪ル。左肺輕濁呼吸一般ニ粗ニシテ不純、少數ノ「ラツセル」ヲ聽キ、尙下部ニハ明カニ摩擦音ヲ聽シ、左肋膜ノ移動不良ナリ。右肺尖部又輕濁呼吸音微弱ナリ。體溫三十六度六分乃至三十八度、咳嗽、喀痰、胸痛アリ。胸部レ線寫眞所見、兩肺門淋巴腺結核、兩側肺尖結核、左側乾性肋膜炎。六月十日、採血検査。反應弱陽性。

三〇、 （武） 十七歳

診斷 腸結核、痔瘻、左側肺結核

昭和四年（一九二九）正月末頃迴盲部ニ壓痛アリテ發熱ヲ伴フ。當時蟲樣突起炎トシテ治療ヲ受ケシモ尙治癒ノ傾向更ニ無ク、五月二十日武谷内科入院。入院後ノ検査ニヨリ腸結核ト診斷サル。六月十四日現在、體格中等、榮養狀態病前ニ比スルニ輕度ニ害セラル。迴盲部ニ壓痛竝ニ輕度ノ自發痛アリテ、下痢ヲ伴フ。體溫三十七度五分、外痔瘻アリ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影増加シ、右肺ニ於ケル氣管枝線條増加ス。六月十四日、採血検査。反應弱陽性。七月二日ニ至リ始メテ右側肩胛骨間腔ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽キウルニ至レリ。

三一、 （有） 三十三歳

診斷 兩側肺結核、心臟瓣膜閉鎖不全症

昭和五年（一九三〇）正月以來心臟悸亢進浮腫アリ、長途ノ歩行ニ耐エ兼子時ニ咳嗽アリ、心臟疾患トシテ治療ヲウク。然レドモ全身倦怠感、浮腫、發熱アリ。又時ニ少量ノ喀血アリ。五月十三日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪ル。體格中等、榮養普通。頰及ビ口唇ニ「チアノーゼ」ヲ認ム。心臟ハ左右ニ肥大ス。兩肺尖輕濁、呼吸音微弱ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影増加シ、尙右側ニ豌豆大ノ境界

鮮明ナル陰影一個、左側ニ大豆大ノ境界鮮明ナル陰影二個ヲ認ム。心臟ハ兩側ニ肥大ス。五月十三日、採血検査。反應弱陽性。

三二、[REDACTED] (武) 三十六歳

昭和五年(一九三〇)三月風邪ニ罹リ發熱三十八度五分、咳嗽、喀痰アリシガ半箇月餘ニシテ治癒ス。ソノ頃ヨリ全身冷感及貧血ヲ覺エシガ六月二十日、小倉記念病院ニ入院。肺ノレ線寫眞撮影ノ結果、兩肺潛在結核ト診斷サル。七月四日ヨリ九月一日マデ武谷内科入院。當時微熱持續ス。六年(一九三一)三月二日再入院、體格中等、榮養普通。左肺尖部及ビ右肺上部呼吸音不純、呼吸延長アリ。體溫三十六度乃至三十七度二分、血色素量八五% (ザリー氏法)。肺ノレ線寫眞所見、兩肺特ニ上部ニ於ケル纖維性増殖性結核。ウエスターグレン氏法ニヨル赤血球ノ沈降速度ハ一時間後一三耗。三月四日、採血検査。反應弱陽性。

三三、[REDACTED] (武) 三十五歳

診斷 兩側肺結核、妊娠四ヶ月

昭和四年(一九二九)三月廻盲部結核ノ手術ヲウケシガソノ後該部ニ異常ヲ認メズ。然ルニ十月ニ至リ微熱アリテ肺尖加答兒ノ診斷ヲウケ療養ヲ續ケタリシガ數旬ニシテ治癒ス。六年正月ニ入り再び微熱、頭痛、心悸尤進、胸部壓迫感アリ。一月二十三日武谷内科入院。二月二十一日現在、體格中等、榮養普通。兩側肺尖部並ニ下部ニ於テ前面呼吸音粗銳、背面ハ肩胛骨間腔上三分ノ一ニ於テ輕濁ヲ呈シ、呼吸音又粗ニシテ「ラッセル」ヲ聽ク。入院以來體溫三十六度四分乃至三十七度七分、咳嗽、喀痰殆ンドナシ。二月十一日、採血検査。反應弱陽性。

以上輕症結核患者三三名ニ於ケル検査成績ハ第四表ニ示ス。即三三名中一名ハ「AO」注射ニヨリ白血球數ノ極メテ輕度ノ不定ノ動搖即陰性反應ヲ示シタレドモ他ノ全例ニテハ一定ノ型ノ減少、即陽性反應ヲ示セリ。

第 四 表 輕 症 結 核 患 者

被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 查 日	白 血 球 數					YR	被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 查 日	白 血 球 數					YR
				前	30分	60分	90分	120分						前	30分	60分	90分	120分	
1 ■	兩側肺結核	1	^{5/4} 1929	7.220	6.220	5.940	6.000	5.860	+	4 ■	兩側肺結核	1	^{32/5} 1930	6.560	4.160	5.680	6.080	8.760	+
2 ■	兩側肺尖結核	1	^{16/5} 1930	4.560	3.700	3.380	4.200	4.620	+	5 ■	兩側肺尖結核	1	^{35/6} 1930	4.160	3.520	3.460	3.120	3.900	+
3 ■	兩側肺結核	1	^{22/5} 1930	6.360	5.640	5.960	6.260	8.560	+	6 ■	右側肺結核	1	^{13/5} 1930	7.000	5.310	6.040	7.940	5.260	+

大阪市立刀根山病院入院患者七十一例ニ於ケル検査成績トソノ後ノ經過

檢查(3/V—23/V) 觀察(1/XII)

原、著 吉田、結核ノ一新特殊診斷法ニ就テ

重症患者 48	$\left\{ \begin{array}{l} 29 \\ 13 \\ 3 \end{array} \right.$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{卅} \\ \text{廿} \\ + \\ - \end{array} \right.$	24	$\left\{ \begin{array}{l} \text{死} \\ \text{增} \\ \text{不} \\ \text{死} \\ \text{增} \\ \text{不} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{不} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{輕} \\ \text{輕} \\ \text{輕} \\ \text{不} \end{array} \right.$
			4	
			1	
			3	
中症患者 16	$\left\{ \begin{array}{l} 11 \\ 5 \end{array} \right.$	$\left\{ \begin{array}{l} \text{卅} \\ + \end{array} \right.$	2	$\left\{ \begin{array}{l} \text{死} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{不} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{輕} \\ \text{輕} \\ \text{輕} \\ \text{不} \end{array} \right.$
			1	
			4	
			3	
輕症患者 7	$\left\{ \begin{array}{l} 6 \\ 1 \end{array} \right.$	$\left\{ \begin{array}{l} + \\ - \end{array} \right.$	2	$\left\{ \begin{array}{l} \text{死} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{不} \\ \text{退} \\ \text{死} \\ \text{輕} \\ \text{輕} \\ \text{輕} \\ \text{不} \end{array} \right.$
			1	
			4	
			5	

茲ニ更メテ大阪市立万根山病院入院患者七一名重症結核患者四名、中等症結核患者一六名、輕症結核患者七名ニ於テ採血検査シ、ソノ後ニ於ケル經過ヲ觀察セシ成績ヲ明ラカニスルタメ表示スレバ第五表ノ如シ。検査ハ昭和五年五月三日ヨリ二十三日ノ間ニ於テナシ、十二月一日現在ヲ以テソノ後ノ經過ヲ觀察セリ。表ニヨリ明ラカナル如ク重症結核患者ニテ強陽性ヲ呈セル二十九名中二十四名ハコノ短期間内ニ死亡シ、輕症結核患者ニテ弱陽性ヲ呈セル六名中五

[illegible]

名ハ輕快シ一名ハ不變ナリ。

第二 臨牀上結核症狀ノ明ラナラザル者及結核既往症ヲ有スレドモ検査時自他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者

一、 (有) 十八歳

診斷 左側肺炎加答兒(?)右側肺門淋巴腺結核(?)

生來健康ニシテ著患ナシ。昭和五年(一九三〇)四月、大阪市立刀根山病院看護婦生徒トナル。當時左側肺炎ニ於テ呼吸音粗銳、呼氣ノ延長アリシモ自覺的ニ異常感ナク今日マテ普通ノ勤務ニ従事ス。五月七日現在、體格中等、榮養普通、左肺尖部輕濁、呼吸音粗銳ニシテ呼氣延長シ、時々極メテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。又時々微熱アリ。食思良。肺ノレ線寫眞所見、左側肺炎部ニ向ヘル氣管枝線條著明、右側肺門淋巴腺結核。五月七日、採血検査。反應弱陽性。

二、 (有) 十八歳

診斷 兩側陳舊性肋膜炎、急性胃加答兒

昭和四年(一九二九)十月兩側滲出性肋膜炎ニ罹リ、十二月ニ至リテ治癒ス。然ルニ五年四月十七日ヨリ食慾不振、全身倦怠感ヲ訴ヘ、肺結核ヲ恐レ四月二十日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通。灰白色ノ舌苔多量ニシテ不快ノ口臭アリ。胃部ニ自覺痛竝ニ壓痛アリ。兩側下胸部輕濁ニシテ肋膜ノ移動僅カニ害セラル。體溫普通、咳嗽、喀痰、胸痛等ナシ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影増加シ、輕度ノ兩側肋膜ノ肥厚ヲ認ム。四月二十一日、採血検査。反應陰性。

三、 (有) 二十三歳

診斷 兩側肺結核(?)

大正十五年(一九二六)六月右側乾性肋膜炎ニ罹リシモ三箇月餘ノ安靜治療ニヨリテ治癒ス。以來著患ナカリシガ昭和五年(一九三〇)正月以來食慾不振及全身倦怠感ヲ訴フ。四月二十六日現在、體格中等、榮養稍々不良。右肺全面呼吸音稍々微弱ナリ、咳嗽、喀痰ナシ。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影竝ニ氣管枝線條増加。五月二十六日、採血検査、反應弱陽性。

四、 (有) 八歳

診斷 腺病質

生來感冒ニ罹リ易シ。昭和五年(一九三〇)四月末ヨリ兩側扁桃腺炎ニ罹リ食慾不良ナリ。五月十日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養不良。兩側扁桃腺充血肥大ス。頸部淋巴腺モ亦肥大シ腺塊ヲ形成ス。微熱、咳嗽アリテ食慾不良。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門淋巴腺ノ腫脹セルヲ認ム。五月十日、採血検査。反應弱陽性。

五、 (有) 三十二歳

診斷 兩側肺炎、左側陳舊性肋膜炎

十三年前(一九一七)ニ左側滲出性肋膜炎ニ罹リ數旬ニシテ治癒シ、以來全ク健康ナリ。二週間前ヨリ高熱、咳嗽、喀痰アリテ鐵錆色ヲ帶ブ。主治醫ニヨリ肺炎ノ診斷ノモトニ治療ヲ續ケラレ漸次輕快セルモ、今日尙微熱、咳嗽アリ。依ツテ五月十三日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通。左肺殊ニソノ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ示シ、肋膜ノ移動不良ニシテ呼吸音又稍々微弱ナリ。背面、兩肩胛骨間腔ノ下部ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。肺ノ「線寫眞」所見、兩側肺門陰影増加シ、左側肋膜ノ肥厚アリ、尙兩肺ニ肺炎像ノ殘影ト思ハル、モノヲ認ム。五月十三日、採血検査、反應陰性。

六、 (武) 十六歳

診斷 バセドウ氏病、兩側肺結核(?)

昭和二年(一九二七)十二月頃ヨリ心悸亢進、前頸部ノ腫脹セルヲ認メ又手指ノ震顫ヲ感ズ。四年六月十五日、武谷内科入院。バセドウ氏病ノ症狀ノ外ニ左肺上部ニ輕濁ヲ呈スルトコロアリテ呼吸音粗銳、右肺下部ニ時折極メテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。入院以來微熱持續ス。食思良。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ三二耗。肺ノ「線寫眞」所見、兩側纖維性增殖性肺結核。七月十三日、採血検査。反應弱陽性。

七、 (武) 四十八歳

診斷 脊髓神經根炎、兩側肺結核(?)

生來感冒ニ罹リ易シト言フ。昭和二年(一九二七)ヨリ腰痛ヲ訴フ。四年十月二日、武谷内科入院。體格中等、榮養普通。兩肺前面呼吸音微弱、右肺上部輕濁、呼吸音粗銳ニシテ呼吸延長ス。入院以來體溫三十六度乃至三十七度四分。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ六九耗。肺ノ「線寫眞」所見、兩側纖維性增殖性肺結核。十一月十日、採血検査、反應弱陽性。

八、 (武) 二十歳

診斷 外脊髓硬腦膜炎、兩側肺結核(?)

昭和二年(一九二七)八月ヨリ外脊髓硬腦膜炎ヲ思ハシムル症狀現ハレ、四年九月十八日、武谷内科入院。入院以來體溫三十六度三分乃至三十七度五分。右肺上部呼吸音粗銳ニシテ呼吸ノ延長アリ。時々輕度ノ咳嗽アリ。食思良。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一四耗。肺ノ「線寫眞」所見、兩側肺門陰影増加、兩側肺尖部殊ニ右側ニ向フ氣管枝線條増加シ、ソノ間ニ石灰化セル境界鮮明ナル小豆大ノ結節ヲ認ム。十一月二日、採血検査。反應弱陽性。

九、 (武) 十八歳

昭和四年(一九二九)六月初旬ヨリ全身倦怠感、食思不振、熱感、咳嗽アリ。六月十一日武谷内科入院。入院當時右肺尖部殊ニ背面ニ於テ呼吸音粗銳ニシテ

少數ノ「ラッセル」ヲ聽キ、右肺下部打診上輕濁ニシテ呼吸音稍、微弱ナリ。輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰殆ンドナシ。體溫ハ入院時三十六度三分乃至三十九度五分ナリシガ治癒ニ赴クニ從ヒ下熱シ、全身所見日ト共ニ良好トナリ、八月五日退院轉地療養ス。カクテ自覺的竝ニ他覺的ニ異常ナク十月七日ヨリ從來ノ如ク看護婦トシテ勤務シ今日ニ至ル。十一月二十日、赤血球沈降速度ハ一時間後ニ六五耗。肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性硬結性肺結核。十一月二十日、採血検査。反應陰性。

一〇、(武) 四十五歳

大正六年(一九一七)八月、肺結核ト診斷サレシガ約半箇年間ノ靜養ニテ治癒ス。昭和四年(一九二九)九月糖尿病ト診斷サル。九月二十一日武谷内科入院。體格强健、榮養良。兩肺一般ニ呼吸音微弱ナリ。體溫普通、咳嗽、喀痰ナシ。十一月三十日、赤血球沈降速度ハ一時間後ニ四耗。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影増加シ、兩肺野ニ於ケル氣管枝線條著明ニシテ、ソノ間ニ小豆大ヨリ大豆大ニ至ル數個ノ境界鮮明ナル陰影ヲ認ム。十一月三十日、採血検査。反應陰性。

一一、(武) 十九歳

診斷 左側肺結核(?)
生來健康ニシテ著患ヲ知ラザリシガ半箇年前ヨリ時々輕度ノ咳嗽アリテ微熱ヲ伴フコトアリ。然レドモ看護婦トシテ常ノ如ク勤務ヲ續ケタリ。體格中等、榮養良。左肺下部呼吸延長シ粗銳ナリ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一五耗。肺ノレ線寫眞所見、兩側氣管枝線條著明、殊ニ左肺下部ニ増殖性纖維性結核ノ像ヲ認ム。十二月一日(一九二九)採血検査。反應弱陽性。

一二、(武) 三十歳

十三歳(一九一七)ノ時九州帝國大學附屬醫院ニテ稻田博士ヨリ肺結核ト診斷サル。當時輕度ノ咳嗽、喀痰アリテ體溫三十六度五分乃至三十七度八分。ソノ後安靜治療ヲ續ケシニ三箇年後ニハ徵兵検査ニ甲種合格シタリ。カクテ二箇年間ノ軍務ヲ終ヘテ我が武谷内科ノ雇トナル。昭和四年十二月十四日現在、兩肺全面呼吸音一般ニ微弱ナリ。咳嗽、喀痰全クナク體溫普通。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一・五耗。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影増加、兩肺ニ於ケル輕度ノ纖維性結核。十二月十四日、採血検査。反應陰性。

一三、(有) 十三歳

診斷 左側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)七月左側滲出性肋膜炎ニ罹リシガ三箇月ノ安靜治療ニヨリ治癒ス。五年四月二十五日現在、體格中等、榮養普通。左胸下三分ノ一輕濁抵抗ヲ示シ、肋膜ノ移動不良ニシテ呼吸音微弱ナリ。發熱、咳嗽、喀痰ナク、食思普通。肺ノレ線寫眞所見、右肺ニ半米粒大ノ石灰化セル陰影數個ヲ認ム。

左胸部第四肋間腔以下殆シド平等ノ陰影ヲ認ム。(肋膜ノ肥厚)四月二十五日、採血検査。反應陰性。

一四、 (武) 十八歳

診断 隨意性眼球震盪症、慢性腎臓炎、兩側肺結核生來虛弱ニシテ九歳ノ頃(一九二〇)貧血症ニテ九州帝國大學小兒科ニ入院ス。治療三箇月ニ至ルモ全治セズ、加フルニ腎臓炎ヲ併發ス。昭和三年(一九二八)九州帝國大學耳鼻咽喉科ニテ「アデノイド」ノ手術ヲ受ク。四年十月二十八日武谷内科入院。隨意性眼球震盪症アリ。入院治療中貧血症及腎臓炎ハ輕快セシモ體溫三十六度二分乃至三十七度五分ナリ。兩肺背面下部呼吸音粗銳ナルガ他ハ寧ロ呼吸音微弱ナリ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ二耗。肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性肺結核。十二月四日、採血検査。反應中等度陽性。

一五、 (武) 二十一歳

診断 右側肺結核(?)

昭和四年(一九二九)夏ヨリ過勞ノアトニ時々微熱ト右肩ノ凝リヲ感ジタリ。五年三月一日現在、右肺尖部呼吸音粗銳ニシテ呼吸延長セリ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一〇耗。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。三月一日、採血検査。反應弱陽性。

以後普通ノ如ク勤務ヲ續ケシガ昭和五年(一九三〇)七月中旬ニ至リ輕度ノ咳嗽、喀痰アリテ體溫三十七度七分ニ達ス。就床安靜ヲ守ルモ下熱セズ。右側胸痛ト肩ノ凝リヲ訴フ。七月二十一日、武谷内科入院。肺ノレ線所見竝ニ臨牀上ノ所見ハ殆シド前ニ同シ。七月二十六日、赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一二・五耗。七月二十六日、採血検査。反應弱陽性。

一六、 (武) 二十四歳

診断 貧血、左側肺結核(?)

數年來風邪ニ罹リ易シト言フ。大正十三年(一九二四)以來八回ニワタリ十二指腸蟲ノ驅除療法ヲウケタリシモ貧血及ビ心悸亢進ハ去ラズ。昭和四年(一九二九)二月二十二日武谷内科入院。主治醫ニヨリ各種ノ補血療法ヲ試ミラレシモ著シキ效ナシ。體格中等、榮養不良。兩側殊ニ左側ノ上下鎖骨窩陷沒ス。コノ部ニ於テ輕濁ヲ呈シ、呼吸音粗銳ニシテ呼吸延長セリ。入院以來體溫三十六度六分乃至三十七度六分、時々輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。七月五日、赤血球沈降速度ハ一時間後ニ九七耗。肺ノレ線寫眞所見、兩肺門陰影増加シ、左上肺野ニ増殖性纖維性結核ヲ認ム。七月五日、採血検査。反應弱陽性。

以上十六例ノ検査成績ハ第六表ニ示ス。即チ結核性疾患ノ既往症ヲ有スルモ自他覺的ニ結核症狀ヲ有セザル者ニテハ「AO」注射後白血球數ノ減少ヲ來タサズ。即反應陰性ナリ。検査時臨牀上結核症狀ノ明ラカナラザル者ニテ弱陽性反應ヲ呈シ、後ニ至リテ結核症狀ヲ明ラカニ呈スル者アリ。

第六表 臨牀上結核症狀ノ明ラカナラザル者
結核性疾患ノ既往症ヲ有セ検査時及白他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者

被検査者	診 断	注 射 回 数	白 血 球 數					YR	被検査者	診 断	注 射 回 数	白 血 球 數					YR
			前	30分	60分	90分	120分					前	30分	60分	90分	120分	
1	左側肺生加登見？ 右側肺門生加登結核？	1	7.60	6.200	6.060	6.640	6.540	+	六四力前ニ肺 結核	1	192 ¹¹ / ₁₁	8.560	9.200	10.820	10.420	11.240	-
2	両側肺生加登見 急性胃加登見	1	8.320	8.520	7.460	8.500	8.700	-	九四年前ニ肺 結核	1	192 ¹¹ / ₁₁	6.160	5.240	7.680	7.620	7.480	-
3	両側肺結核？	1	5.730	3.480	4.320	4.320	5.900	+	左側肺結核？	1	172 ¹¹ / ₁₁	8.240	8.160	6.100	7.340	8.420	+
4	腺病質	1	5.830	5.170	5.420	5.840	6.100	+	十七年前ニ肺 結核	1	172 ¹¹ / ₁₁	2.740	2.740	3.220	3.220	3.560	-
5	両側肺炎、左側 陳舊性肋膜炎	1	7.040	7.040	8.420	9.060	9.030	-	左側陳舊性肋 膜炎	1	129 ¹¹ / ₁₁	13.560	12.440	27.100	24.600	27.100	-
6	両側肺結核？ バセフ氏病	1	6.070	5.920	5.100	4.950	6.370	+	肺生加登結核？ 肺生加登結核？	1	192 ¹¹ / ₁₁	9.540	6.680	7.160	9.040	9.740	++
7	右側肺結核？ 左側肺結核？	1	7.180	6.080	4.880	5.040	5.080	+	右側肺結核？	1	192 ¹¹ / ₁₁	6.040	5.580	5.900	4.680	6.100	+
8	右側肺結核？ 左側肺結核？	1	12.900	10.220	9.360	10.140	11.020	+	左側肺結核？ 高度ノ貧血	1	192 ¹¹ / ₁₁	4.980	2.900	3.550	4.320	4.890	+

其三 臨牀上健康ト認ムベキ者及非結核患者

一、(有) 十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月十九日、現在、體格中等、榮養佳良。肺ノ線寫眞所見、肺門陰影稍々増加ス。四月十九日、採血検査。反應陰性。

二、(有) 二十七歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十二日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノ線寫眞所見、肺門陰影並ニ氣管枝線條稍々増加ス。四月二十四日、採血検査。反應陰性。

三、(有) 二十二歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十二日現在、體格中等、榮養普通。肺ノ線寫眞所見、右側肺門陰影稍々増加ス。四月二十二日採血検査。反應陰性。

四、**（刀）** 十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月四日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、肺門陰影稍、増加ス。五月四日、採血検査。反應陰性。

五、**（刀）** 十五歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月四日現在、體格強、榮養極メテ佳良。肺ノレ線寫眞所見、肺門陰影稍、増加シ、右肺野ノ中央部ニ小サキ結節性ノ陰影數個ヲ認ム。五月四日、採血検査。反應陰性。

六、**（刀）** 十六歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月四日現在、體格強、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、肺門陰影稍、増加シ、兩側上方ニ向フ氣管枝線條稍、著明ナリ。五月四日、採血検査。反應陰性。

七、**（刀）** 十六歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月七日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。五月七日、採血検査。反應陰性。

八、**（刀）** 十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月十五日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影擴大シ、ソノ間ニ米粒大ヨリ大豆大ニ至ル數個ノ結節性陰影ヲ認ム。五月十五日、採血検査。反應陰性。

九、**（刀）** 十六歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月十五日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影擴大シ、左側上肺野ニ於ケル氣管枝線條著明ナリ。五月十五日、採血検査。反應陰性。

一〇、**（刀）** 十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月十四日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、左側肺門陰影稍、擴大シ、ソノ間ニ麻糰大ヨリ米粒大ニ至ル數個ノ石灰化スル結節ヲ認ム。五月十四日、採血検査。反應陰性。

一一、**（有）** 二十四歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）六月二十四日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍、増加シ、且ツ兩肺野ニ

石灰化セル數個ノ小豆大ヨリ大豆大ニ至ル陰影ヲ認ム。六月二十四日、採血検査。反應陰性。

一二、[REDACTED] (有) 二十四歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十四日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。四月二十四日、採血検査。反應陽性。

一三、[REDACTED] (有) 二十二歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十四日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。四月二十四日、採血検査。反應陰性。

一四、[REDACTED] (有) 十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十三日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加シ、兩肺野ニ數個ノ石灰化セル米粒大ヨリ小豆大ニ至ル陰影ヲ認ム。四月二十三日、採血検査。反應陰性。

一五、[REDACTED] (有) 二十五歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十三日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影増加ス。四月二十三日、採血検査。反應陰性。

一六、[REDACTED] (有) 二十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十三日現在、體格強、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影増加シ、左肺野ニ數個ノ小豆大ノ石灰化セル陰影ヲ認ム。四月二十三日、採血検査。反應陰性。

一七、[REDACTED] (有) 二十歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十一日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。四月二十二日、採血検査。反應陰性。

一八、[REDACTED] (有) 二十七歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)四月二十二日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影並ニ氣管枝線條稍々増加ス。四月二十二日、採血検査。反應陰性。

一九、[REDACTED] (有) 二十六歳

診斷「兩眼「トラホーム」」

生來健康ナリシモ六年前ヨリ眼疾ニ侵サル。昭和五年（一九三〇）四月二十一日、眼球結核ヲ恐レ有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通、肺臟ソノ他ニ結核性病竈ヲ認メズ。眼科専門醫ニヨリ「トラホーム」ト確診サル。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。四月二十二日、採血検査。反應陰性。

二〇、 （有）十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月二十日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影稍々増加ス。五月二十日、採血検査。反應陰性。

二一、 （有）十八歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）四月十九日現在體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。四月十九日採血検査。反應陰性。

二二、 （刀）十六歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月四日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、左肺野ニ麻糞大ノ境界鮮明ナル濃キ陰影斑數個ヲ認ム。五月四日、採血検査。反應陰性。

二三、 （刀）十五歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月五日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。五月五日、採血検査。反應陰性。

二四、 （刀）十八歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月六日現在、體格中等、榮養佳良。肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影稍々増加ス。五月六日採血検査。反應陰性。

二五、 （刀）十五歳

生來特ニ健康ナラザリシモ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月六日現在、體格中等、榮養普通、肺臟ソノ他ノ内臟諸器官ニ特記スベキモノヲ認メズ。肺ノレ線寫眞所見、兩肺野ニ米粒大ノ石灰化セル陰影斑數個ヲ認ム。五月六日、採血検査。反應陰性。

二六、 （刀）十九歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）五月十四日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、兩肺上方ニ向ヘル氣管枝線條著明ニシテソ

ノ間ニ數個ノ麻質大ヨリ小豆大ニ至ル境界鮮明ナル石灰化セル陰影斑ヲ認ム。五月十四日、採血検査。反應陰性。

二七、 (有) 二十一歳

診斷 僧帽瓣膜閉鎖不全症

生來健康ナリシガ三年前(一九二七)兩側膝關節「ロイマチス」ニ罹リシガ、ソノ後何日カラトナク長途ノ歩行或ハ輕度ノ勞動ニ際シテ心悸亢進ト全身疲勞感ヲ覺ユルニ至レリ。昭和五年(一九三〇)四月二十九日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通。肺臟ニハ認ムベキ病變ナシ。心臟濁音界左右ニ擴大シ心尖部ニ於テ收縮期ニ雜音ヲ聽診ス。胸部ノ線寫眞所見、心臟左右ニ肥大ス。兩側肺門陰影稍々増加ス。四月三十日、採血検査。反應陰性。

二八、 (有) 十六歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)五月一日現在、體格中等、榮養普通。肺ノ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。五月一日、採血検査。反應陰性。

二九、 (有) 二十三歳

診斷 咽頭喉頭加答兒

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。二週間前ヨリ輕度ノ咳嗽ト咽頭痛ヲ訴ヘ、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。昭和五年(一九三〇)四月三十日現在、體格中等、榮養佳良。咽頭高度ニ充血シ痛ヲ訴フ。肺臟ソノ他ニ特記スベキモノナシ。肺ノ線寫眞所見、肺門陰影稍々増加ス。

三〇、 (武) 二十三歳

診斷 脚氣

六年前(一九二三)以來毎年脚氣ニ罹ル。昭和四年(一九二九)七月頃ヨリ一週間殆ンド絶食状態ナリシガソレニ引續キ下腹部膨滿ノ感アリ。昭和四年七月二十六日武谷内科入院。體格中等、榮養稍々不良。第二肺動脈音著明ニ亢進ス、兩下肢ニ浮腫ト感覺減退アリ。下腹部輕度ニ膨滿セルモ壓痛ナシ。體溫普通。肺ノ線寫眞所見、肺門陰影稍々増加ス。八月四日、採血検査。反應陰性。八月十三日全治退院ス。

三一、 (武) 四十歳

診斷 不明熱、蛔蟲病

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和四年(一九二九)八月八日ヨリ發熱シ、頭痛、食思減退ヲ訴ヘ同月十二日武谷内科入院。體格中等、榮養佳良。肺臟ニ異常ヲ認メズ。血液ノ「グキダール」氏反應「腸チフス」「バラチフス」陰性。體溫最高三十九度六分、咳嗽、喀痰ナシ。大便ニ蛔蟲ヲ證明ス。入院後二週間ニシテ下熱退院ス。赤血球沈降速度ハ一時間後七二耗。肺ノ線寫眞所見、肺門陰影稍々増加ス。八月十八日、採血検査。反應陰性。

三二、(武) 二十九歳

診断 不明熱、十二指腸蟲病

生來健康ニシテ特記スベキ疾患ニ罹リシコトナシ。昭和四年(一九二九)五月初旬腸「チフス」ノ豫防接種ヲウク、六月十三日分婉セシガ當時輕度ノ腎臟炎アリシト。八月二十三日輕度ノ惡寒ヲ伴ヒテ發熱シ、三十八度六分ニ達ス。八月三十日、武谷内科入院、體格中等、榮養普通。肺臟及心臟ニ異常ナシ。大便中ニ十二指腸蟲卵ヲ認ム。尿中ニ僅カノ蛋白ヲ證明シ得タリ。體溫最高三十九度五分。

九月三日、採血検査。反應強陽性。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一〇五耗。九月二十四日、肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加シ、兩肺尖部ニ向フ氣管枝線條稍々著明ナリ。八月三日ヨリ下熱シタレドモ以後折三十七度二乃至三分ノ微熱アリ。九月三十日退院。

三三、(武) 二十歳

診断 脂肪過多症

昭和四年(一九二九)四月下旬ヨリ輕度ノ勞働ノ際ニモ疲勞感アリシガ六月頃ヨリ目立ツテ肥滿セルヲ自他共ニ認メタリ。十月三十日武谷内科入院。十一月二十日現在、體格中等、榮養極メテ良好ニシテ脂肪組織ノ發育異常ニ高度ナリ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一三耗。肺ノレ線寫眞所見、著變ナシ。十一月二十日、採血検査。反應陰性。

三四、(武) 十八歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ、昭和四年(一九二九)十一月二十一日現在、體中格等、榮養普通。赤血球ノ沈降速度ハ一時間後ニ七耗。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。十一月二十一日、採血検査。反應陰性。

三五、(武) 三十三歳

診断 腸「チフス」

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)七月下旬ヨリ全身倦怠感アリシモ患者ノ看護ニ從事シタリ。然ルニ七月二十八日ニ至リ體溫三十八度九分ニ達シ、即日武谷内科ニ入院ス。以來高熱持續スルモ咳嗽、咯痰ナシ。肺臟ニ異常ヲ認メズ。八月一日、ウキダール氏反應陽性ヲ呈シ、腸「チフス」ト確定サル。七月二十九日、採血検査。反應陰性。ソノ後順調ナル經過ヲトリ九月二十二日全治退院ス。退院時ノ肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。

三六、(武) 二十七歳

診断 慢性蟲様突起炎

昭和四年(一九二九)三月頃ヨリ一日乃至二回ノ下痢アリテ粘液ヲ混ズ。九月十五日午後廻首都ニ鈍痛アリ、蓖麻子油内服ニヨリ腹痛甚ダシク嘔吐アリ。十

月ニ再ビ同様ノ發熱、腹痛アリシモ十數日ニシテ止ム。十二月六日武谷内科入院。體格強、榮養普通、肺臟ニ異常ヲ認メズ。廻盲部ニ小サキ腫瘍ヲ觸知シ壓痛アリ。體溫ハ三十六度一分乃至三十七度二分。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一・五耗。肺ノレ線寫眞所見、肺門陰影稍々増加ス。十二月七日、採血検査。反應陰性。十二月十八日赤岩外科ニテ開腹手術ヲ行ヒシガ蟲樣突起ハ盲腸ト癒著シ、ソノ部ニ於テ穿孔セリ。

三七、 (有) 六十六歳

診斷 肺氣腫、喘息

六年前(一九二四)ヨリ咳嗽ト白色液樣ノ喀痰アリテ時ニ跪坐呼吸ヲナス。昭和五年(一九三〇)六月十二日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養輕度ニ害セラル。肺肝ノ境界ハ第七肋間腔ニシテ呼吸音微弱、諸處ニ乾性「ラッセル」ヲ聽ク。喀痰ニ結核菌ヲ證明シ得ズ。體溫普通。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。六月十三日、採血検査。反應陰性。

三八、 (有) 三十八歳

診斷 咽頭喉頭加答兒

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。十日前ヨリ頭痛、發熱、咳嗽アリ昭和五年(一九三〇)六月十三日有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通、咽頭高度ニ充血ス。肺ノ臨牀所見竝ニレ線寫眞所見ニ著變ナシ。六月十三日、採血検査。反應陰性。

三九、 (武) 十八歳

診斷 不明熱、十二指腸蟲病

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)一月十六日、突然輕度ノ惡寒ヲ伴ヒテ發熱三十九度ニ達シ、即日武谷内科ニ入院ス。胸部ニ異常ヲ認メズ、咳嗽、喀痰全クナシ。二回行ヘルヴギダール氏反應(腸「チフス」、「バラチフス」)陰性。肺ノレ線寫眞撮影前後四回ナルモ疑ハシキ病變ヲ認メズ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ七耗。血色素量ハ六十六%(ザリー氏法)尿ニ病の所見ナシ。大便ニ十二指腸蟲卵ヲ認ム。入院後約半箇年ニシテ七月二十二日退院。退院時體溫三十六度二分乃至三十七度三分、ソノ他ニハ自覺的竝ニ他覺的症狀ヲ認メズ。二月二十六日、採血検査。反應陰性。

四〇、 (武) 五十九歳

診斷 脾臟囊腫

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和四年(一九二九)春ヨリ左側腹部ニ膨隆ヲ認メタリ。五年二月十二日武谷内科入院。體格中等、榮養良。各種ノ検査ノ結果脾腫ト診斷ス。血色素量九〇%(ザリー氏法)。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ二三耗。肺臟及ビ心臟ニ病變ヲ認メズ。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。四月二日、採血検査。反應陰性。

四一、**（武）** 二十三歳

診斷 兩側慢性中耳炎

二歳ノ頃左側急性性中耳炎ヲ起ス。六歳ノ時ニ右側急性性中耳炎ヲ起ス。カクノ如クシテ慢性中耳炎トシテ經過シ今日ニ至レリ。時々發熱シ耳痛ヲ訴フ。昭和五年（一九三〇）三月三日、體格中等、榮養普通。肺臟竝ニ心臟ニ病變ヲ認メズ。血色素量ハ六三%（ザーリ氏法）。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ七耗。肺ノレ線寫眞所見、著變ナシ。三月三日採血検査、反應陰性。

四二、**（有）** 二十三歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年（一九三〇）四月二十五日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、兩側氣管枝線條稍々増加ス。四月二十五日、採血検査。反應陰性。

四三、**（武）** 二十三歳

診斷 喘息

二年前（一九二八）ヨリ月ニ二回乃至三回ノ咳嗽發作アリ。日頃ハ何事モナク普通ノ如ク仕事ニ從事ス。熱感、全身倦怠感等ナシ。昭和五年（一九三〇）五月十二日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。咽頭及ビ扁桃腺ハ充血腫脹セズ。咳嗽アリ、時ニ喀痰アレドモ白色粘液様ノモノニシテ結核菌ヲ證明セズ。兩肺ノ諸處ニ少數ノ乾性「ラツセル」ヲ聽診ス。肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影稍々増加ス。五月十三日、採血検査。反應陰性。

四四、**（有）** 三十三歳

診斷 僧帽瓣膜障礙

十年前（一九二〇）ニ關節「ロイマチス」ニ罹ル。昭和五年（一九三〇）二月以來心悸亢進ヲ訴フ。四月十日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。體格中等、榮養普通。肺臟ニ異常ヲ認メズ。心臟濁音界稍々左方ニ擴大ス。心尖部ニ於テ收縮期及ビ擴張期ニ雜音ヲ聽ク。胸部ノレ線寫眞所見、肺門陰影稍々増加シ、心臟左右ニ輕度ニ肥大ス。四月十日、採血検査。反應陰性。

四五、**（武）** 十八歳

診斷 假性麻痺性重症筋無力症

生來特ニ健康トイフニ非ザレドモ結核性疾患ニ罹リシコトナシ。昭和四年（一九二九）一月十八日前記ノ診斷ニテ武谷内科ニ入院。六月二十六日現在、體格中等、榮養普通。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ七耗。六月二十六日、採血検査。反應陰性。

四六、[REDACTED] (武) 二十四歳

診斷 パゼドウ氏病

生來健康ナリシガ十九歳ノ頃ヨリ心悸亢進ヲ覺エ、前頸部ノ膨隆スルヲ認メンガ漸次手震ヲ伴フ。昭和三年(一九二八)武谷内科ニ入院セシガ約二箇月ニテ退院ス。四年七月四日再入院。赤血球沈降速度ハ一時間後二一〇耗。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。七月六日、採血検査。反應陰性。

四七、[REDACTED] (武) 三十二歳

診斷 再生不能性貧血

二十歳ノ頃ヨリ貧血及ビ心悸亢進ヲ訴ヘ、六回ニワタリ十二指腸蟲ノ驅除療法ヲウケタレドモ以上ノ症狀ハ今日ニ至ルモ治癒セズ。昭和四年(一九二九)二月二十二日武谷内科入院。體格中等、營養普通ナレドモ高度ノ貧血アリ。主治醫ニヨリ各種ノ補血療法ガ續ケラレシモ著シキ效ヲ呈セズ。體溫三十六度四分乃至三十七度四分、咳嗽、喀痰ナシ。臨牀所見竝ニ肺ノレ線寫眞所見ニ特記スベキモノナシ。赤血球沈降速度ハ一時間後二五六耗。

七月八日、採血検査。反應陰性。

四八、[REDACTED] (刀)

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)五月十日現在、體格中等、營養良。肺ノレ線寫眞所見、兩側氣管枝線條稍著明ニシテ、ソノ間ニ米粒大ノ結節數個ヲ認ム。五月十日、採血検査。反應陰性。

四九、[REDACTED] (武) 二十二歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラズ。昭和五年(一九三〇)十二月六日現在、體格中等、營養普通。肺ノレ線寫眞所見、兩側氣管枝線條稍著明ナリ。十二月六日、採血検査。反應陰性。

以上健康者三十名、非結核患者一九名ニ於ケル検査成績ハ第七表ニ示ス。即總數四十九名中十二指腸蟲病ヲ有スル不明熱患者ノ一名ニ於テノミ「AO」注射後白血球數ノ減少セルヲ見タリ。本例ニテハ臨牀所見竝ニ肺ノレ線寫眞所見上、活動性結核病竈ト思ハル、モノナカリシモ赤血球沈降速度ハ一時間後二一〇五耗ニ達セリ。本例ニ於テコノ著明ナル白血球數ノ減少ヲ示セル所以ハ偶々例外ト見ルベキ高度ノ白血球ノ時刻的減少ノ影響ヲ受ケタルカ或ハ探知シ得ザル結核病竈ノ存在セシニ依ルモノナルカハ不明ナリ。然レドモ他ノ四十八名ニテハ健康者及非結核患者何レモ結核患者ニ見ルガ

如キ白血球數ノ減少ヲ來スコトナキカ或ハ寧ロ増加ヲ示セリ。

第七表 臨牀上健康ト認ムル者及非結核患者

被検査者	診 断	注 射 回 數	檢 査 日	白 血 球 數					YR	被検査者	診 断	注 射 回 數	檢 査 日	白 血 球 數					YR
				前	30分	60分	90分	120分						前	30分	60分	90分	120分	
1	健	1	¹⁹ / ₁₉₃₀	5.300	4.780	5.500	5.860	6.360	—	16	健	1	²³ / ₁₉₃₀	4.780	4.630	5.520	5.640	5.700	—
2	健	1	²⁴ / ₁₉₃₀	5.060	5.820	9.660	7.560	7.000	—	17	健	1	²² / ₁₉₃₀	3.980	5.360	5.760	5.740	5.620	—
3	健	1	²² / ₁₉₃₀	6.160	7.740	7.500	9.440	8.220	—	18	健	1	²² / ₁₉₃₀	6.040	6.420	6.940	6.460	7.360	—
4	健	1	⁹ / ₁₉₃₀	5.680	6.600	6.320	6.840	5.980	—	19	兩眼「トヲ ホム」	1	²² / ₁₉₃₀	7.740	7.400	9.060	8.160	7.000	—
5	健	1	⁷ / ₁₉₃₀	7.560	7.580	8.560	7.940	10.400	—	20	健	1	²⁰ / ₁₉₃₀	6.820	7.360	7.100	6.630	7.780	—
6	健	1	⁷ / ₁₉₃₀	6.460	6.600	7.460	6.560	6.640	—	21	健	1	¹⁹ / ₁₉₃₀	6.000	5.520	7.630	6.860	6.540	—
7	健	1	⁷ / ₁₉₃₀	8.700	11.820	11.820	11.060	10.740	—	22	健	1	⁴ / ₁₉₃₀	7.400	7.440	7.920	9.720	11.280	—
8	健	1	¹³ / ₁₉₃₀	7.060	7.160	9.160	7.280	7.520	—	23	健	1	³ / ₁₉₃₀	7.460	8.060	6.980	8.280	8.300	—
9	健	1	¹³ / ₁₉₃₀	9.980	11.640	13.840	12.480	12.500	—	24	健	1	⁹ / ₁₉₃₀	11.300	11.580	11.820	10.520	11.840	—
10	健	1	¹⁴ / ₁₉₃₀	5.740	5.860	5.820	5.780	7.500	—	25	健	1	⁹ / ₁₉₃₀	6.740	6.680	12.160	13.980	9.140	—
11	健	1	²¹ / ₁₉₃₀	6.320	6.260	6.560	6.200	6.560	—	26	健	1	¹¹ / ₁₉₃₀	7.620	7.700	8.500	7.840	7.720	—
12	健	1	²¹ / ₁₉₃₀	5.000	4.460	4.940	5.760	5.660	—	27	痘瘡膿頭閉 鎖不全症	1	³⁰ / ₁₉₃₀	6.160	5.760	7.000	7.840	6.840	—
13	健	1	²⁴ / ₁₉₃₀	7.900	8.060	7.620	8.520	8.160	—	28	健	1	¹ / ₁₉₃₀	4.780	4.600	5.740	5.760	7.660	—
14	健	1	²³ / ₁₉₃₀	5.860	6.060	5.780	6.180	6.620	—	29	痘瘡膿頭加 容兒	1	³⁰ / ₁₉₃₀	5.640	5.640	6.560	5.640	5.820	—
15	健	1	²⁵ / ₁₉₃₀	5.960	4.980	6.280	5.800	8.880	—	30	脚 氣	1	⁴ / ₁₉₂₉	4.200	5.240	5.360	4.150	5.640	—

31	不明	熱病	1	19.29	8.510	8.210	9.230	9.150	9.350	—	41	兩側慢性中 耳炎	1	19.30	4.680	4.880	4.180	5.820	6.980	—
32	不明	熱病	1	19.23	9.300	8.480	6.840	5.060	7.800	—	42	健	1	19.30	6.040	6.760	7.320	6.800	7.600	—
33	脂肪過多症	1	19.29	8.000	7.700	8.400	8.520	9.610	—	—	43	喘	1	19.30	5.480	5.160	6.100	6.260	6.560	—
34	健	1	19.29	3.640	4.500	3.630	4.640	3.820	—	—	44	宿瘤	1	19.30	5.800	5.960	6.120	6.340	5.520	—
35	腸「チフス」	1	19.30	3.540	3.660	4.360	4.500	4.140	—	—	45	重症慢性筋 弛緩症	1	19.29	5.040	4.980	5.140	7.030	8.360	—
36	慢性起痰	1	19.29	4.560	8.380	9.560	8.600	8.880	—	—	46	ハセ F 氏病	1	19.29	8.740	10.000	9.080	9.880	8.800	—
37	師氣腫	1	19.30	6.780	7.060	7.360	7.820	9.100	—	—	47	貧血	1	19.29	2.280	3.050	2.980	3.270	2.560	—
38	咽頭喉頭加 答兒	1	19.30	7.000	7.640	6.800	8.360	8.300	—	—	48	健	1	19.30	7.580	8.300	8.140	7.520	7.800	—
39	不明	熱病	1	19.30	6.640	7.860	7.620	7.580	6.080	—	49	健	1	19.30	6.880	7.280	7.440	8.640	10.260	—
40	膝臟腫	1	19.30	6.160	7.160	7.440	7.500	6.220	—	—										—

第二項 「AO」連續注射ノ際ニ於ケル白血球數ノ動搖

既ニ(山)谷口氏ハ「AO」治療經過中ノ白血球像ニ關シテ檢案シ、「AO」接種後奏效シテ經過良好ナルモノニ在リテハ淋巴球及「エオジン」嗜好細胞共ニ増加シ、中性多核白血球ハ反之減少若クハ消失シ、移行型、及大單核白血球ハ増減不定ナリ。又重症ニシテ經過及ビ豫後ノ不良ナル者ニ在リテハ「AO」接種ニヨリテ稀ニハ一過性ニ斯ル良徵ヲ呈スルコトアルモ永續セズ、若クハ既存ノ現象ヲ追フテ不良ノ轉歸ニ赴クト述ベタリ。

余ハ「AO」第一回注射ノ際ニ見ル白血球數ノ増減ガ「AO」連續注射ノ場合ニ如何ニ變移スルモノナルカ又コノ際白血球像ニモ如何ナル移動アルカ、而シテソノ兩者ノ間ニ何等カノ關係ノ存スルモノナルカヲ知ランガタメ肺結核患者十例、滲出性肋膜炎患者二例ニ治療ノ目的ニテ「AO」ノ連續注射ヲナシ、數回採血檢査ヲ行ヒタリ。本項ニ於テハ白血球數ノ變移ニ就テノミ記載シ白血球像ニ關シテハ後ニ記載スルコト、セリ。

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

十四歳ノ折右側滲出性肋膜炎ニ罹リ、約八箇月ニテ治癒ス。二十九歳ノ六月頃ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリ、兩側肺炎加答兒トシテ治療ヲウケ四箇月後殆ンド治癒ス。三十歳ノ七月ヨリ再ビ全身倦怠感及ビ盜汗ヲ伴ヒ前記ノ諸症狀ヲ呈スルニ至レリ。而テ兩側肺結核トシテ治療ヲ續ケシモ病症一進一退ナリ。昭和五年（一九三〇）三月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。四月七日、「ツベルクリン」皮内反應陰性。入院以來體溫三十六度四分乃至三十八度四分。五月五日現在、體格中等、榮養不良。左上肺葉、右肺全葉殊ニソノ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、多數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。右側肋膜ノ移動不良ナリ。咳嗽、喀痰甚ダシク、爲ニ睡眠障礙サル。食思不良。

五月三日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。五月十日、「AO」第一號〇・九珪ヲ皮下ニ注射ス。五月十七日、「AO」第一號〇・九珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。五月二十四日、「AO」第一號〇・九珪ヲ皮下ニ注射ス。五月三十一日、「AO」第一號〇・九珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。六月七日、「AO」第一號〇・九珪ヲ皮下ニ注射ス。六月十四日、「AO」第一號〇・九珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。入院後日ヲ重スルニ從ヒ經過不良ニシテ七月十三日死亡。

二、 （カ） 二十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年（一九三〇）正月、發熱、咳嗽アリテ肺結核ト診斷サル。以來病症急速ニ増惡シ、全身倦怠感、盜汗、發熱、咳嗽、喀痰増加シ、又食思不振ニシテ榮養狀態漸次ニ不良トナル。三月二十六日、大阪市立刀根山病院入院。四月七日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月三日現在、體格中等、榮養不良。兩肺殊ニ右肺前面濁音ヲ呈シ、左上胃部ニ鼓音ヲ帶ブトコロアリ。背面ハ左側全面、右側肺炎部ヨリ肩胛骨下隅ニ至ル間濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聽キ、左上肺葉ニテハ氣管枝音ヲ呈ス。體溫三十七度乃至三十八度。咳嗽、喀痰甚ダシク食思爲ニ害セラル。

肺ノ線寫眞所見、左肺空洞ヲ有スル萎縮性結核、右肺細菌性竝ニ小葉性増殖性結核。五月三日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。五月十日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。五月十七日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。五月十七日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。五月二十四日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。五月三十一日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。六月七日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。六月十四日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。入院後日ヲ重スルニ從ヒ經過不良ニシテ七月三日死亡。

三、 （カ） 四十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)六月以來全身倦怠感、咳嗽、喀痰、發熱アリ。五年三月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。四月四日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月三日現在、體格中等、榮養不良。右肺全面左上半葉ニ濁音抵抗ヲ示シ、「ラッセル」ヲ聽ク。廻盲部ニ輕度ノ壓痛アリ。體溫三十六度乃至三十七度四分、咳嗽、喀痰アリ。肺ノレ線寫眞所見、右上肺葉ニ於ケル空洞ヲ有スル萎縮性結核、右肺下半細葉性増殖性結核、左肺小葉性滲出性増殖性結核。

五月三日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。五月十日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。五月十七日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。五月二十四日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。五月三十一日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。六月七日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。六月十四日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。入院後日ヲ重マルニ從ヒ經過不良ニシテ九月十日死亡。

四、(刀)

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十二月以來全身倦怠ヲ覺エ、發熱、盜汗、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。以來病狀一進一退シ、五年三月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。四月三日、「ツベルクリン」皮内反應強陽性。五月五日現在、體格、中等、榮養高度ニ害セラレ、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面殊ニ右下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽キ右上肺葉ニテハ氣管枝音ヲ帶ブコロアリ。體溫三十六度乃至四十度、咳嗽、喀痰甚ダシク、爲ニ食思睡眠障礙セラル。

五月五日、「AO」第一號〇・七珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。五月十二日、「AO」第一號〇・七珪ヲ皮下ニ注射ス。五月十九日、「AO」第一號〇・七珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。入院後日ヲ重マルニ從ヒ經過不良ニシテ六月三日死亡。

五、(刀) 二十三歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)七月以來、胸痛、發熱、咳嗽、喀痰アリテ時ニ血液ヲ混ズ。十二月八日、大阪市立刀根山病院入院。同月十五日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。入院以來體溫三十六度六分乃至三十七度八分ニシテ稍々輕快セリ。五月五日現在、體格中等、榮養不良。左上肺葉右肺全面殊ニ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ示シ、右側肋膜ノ移動不良ニシテ多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。咳嗽、喀痰アリテ食思不良ナリ。

五月五日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。五月十二日、「AO」第一號〇・八珪ヲ皮下ニ注射ス。五月十九日、「AO」第

一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。五月二十六日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射ス。六月三日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。六月十日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射ス。六月十七日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在、病態殆ト不變ナリ。

六、[REDACTED] (刀) 二十七歳

診斷 兩側肺結核、左側陳舊性肋膜炎

二十五歳ノ時左側滲出性肋膜炎、二十九歳ノ六月再び左側乾性肋膜炎ニ罹ル。ソノ後引續キ發熱、咳嗽、喀痰、全身違和ノ感アリ。昭和四年(一九二九)十二月少量ノ咯血アリ。同月十四日、大阪市立刀根山病院入院。入院以來體溫三十六度八分乃至三十七度八分ニシテ一般狀態稍々輕快ニ赴キタリ。五月五日現在、體格虛弱、榮養不良。右肺上半部、左肺全面殊ニ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。左側肋膜ノ移動不良ナリ。

肺ノレ線寫眞所見、左肺ニ於ケル空洞ヲ有スル大葉性乾酪性結核、右側肋膜ノ肥厚、右側細葉性結節性肺結核。

五月五日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス、反應中等度陽性。五月十二日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射ス。五月十九日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。ソノ後引續キ入院治療中ナルガ十二月一日現在、病態増惡セリ。

七、[REDACTED] (刀) 十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十月頃ヨリ發熱、全身違和ノ感、胸痛、呼吸困難、咳嗽、喀痰アリ。肺結核ノ診斷ノモトニ治療ヲ受ケタルモ病症一進一退ナリ。五年(一九三〇)三月一日、大阪市立刀根山病院入院。三月八日、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。五月五日現在、體格中等、榮養不良。右肺全葉左側上肺葉ニ於テ輕濁ヲ呈シ、多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十八度。咳嗽、喀痰多シ。

五月五日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。五月十二日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射ス。五月十九日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。五月二十六日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射ス。六月三日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。六月十日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射ス。六月十七日、「AO」第一號〇・八珉ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。入院以來經過不良ニシテ八月十七日死亡。

八、[REDACTED] (武) 二十七歳

診斷 兩側肺結核、腸結核

四年前ヨリ全身倦怠感、咳嗽、喀痰、盜汗アリ。一箇月前ヨリ腹痛下痢アリ。昭和四年(一九二九)七月十五日、武谷内科入院。體格中等、榮養不良、皮膚貧

血蒼白ナリ。左肺上葉及び右肺全面殊ニ下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、諸所ニ「ラツセル」ヲ聽ク。右側肋膜ノ移動不良ナリ。廻盲部ニ「デファンス」及壓痛アレドモ腫瘍ヲ觸知スル能ハズ。體溫三十六度二分乃至三十八度。咳嗽、喀痰アリテ食思爲ニ害セラル。一日數行ノ下痢アリ。喀痰中ニ結核菌ヲ證明ス。肺ノレ線寫眞所見、兩側増殖性纖維性肺結核

七月二十七日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。七月二十七日、「AO」第一號○・八耗ヲ皮下ニ注射ス。八月十三日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。八月二十日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。八月二十七日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。九月三日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。九月十日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。九月十七日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。七月二十三日（入院後九日）體重三一、三〇〇瓦ニシテ、ソノ他ノ諸症狀前述ノ如クナリシモ、八月中旬ヨリ患者自ラ體力ノ日々ニ恢復シツ、アルヲ感ズト言フ。九月十七日、體重三四、九五〇瓦、體溫三十七度以下、咳嗽、喀痰、殆ンドナク腹痛下痢ヲ訴フルコトナシ。肺ノレ線寫眞所見モ亦良好トナル。九月十八日退院。

九、(武)

診斷 兩側肺結核

生來著患ヲ知ラザリシガ昭和五年（一九三〇）七月二十三日午前十時八幡鐵工場ニテ實習中突然喀血アリ。喀血ハ三日間ニテ止マリシモ輕度ノ咳嗽及微熱去ラズ。八月八日、武谷内科入院。體格中等、榮養普通。右肺尖部輕濁、呼吸音微弱、左肺殊ニ下三分ノ一ノ部ニ於テ輕濁ヲ呈シ呼吸音微弱ナレドモ上半部ニ於テ呼吸延長シ、下部ニ於テノミ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。咳嗽、喀痰極メテ輕度ニシテ食思良。肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影増加シ、氣管枝線條稍著明ナリ。左肺増殖性纖維性結核。

八月九日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。八月十六日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。八月二十三日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。八月三十日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。九月六日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射ス。九月十三日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。九月二十日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。九月二十日、「AO」第一號○・九耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。入院時（八月八日）體重四七、六〇〇瓦、體溫三十六度三分乃至三十七度五分ナリシガ漸次體溫下降シ、咳嗽、喀痰モ減少シタリ。十月一日退院、當時體重四八、二〇〇瓦、體溫三十七度ヲ越サズ。咳嗽喀痰殆ンドナク、胸部所見トシテハ左側肩胛下隅以下輕濁ヲ呈シ、呼吸音粗烈ナレドモ「ラツセル」ヲ聽カズ。

一〇、(武) 二十九歳

診斷 左側滲出性肋膜炎

生來健康ナリシガ昭和四年（一九二九）七月中旬、深呼吸時ニ左胸部ニ牽引感及肩ノ凝リヲ覺エシガ下旬ニ入りテ呼吸困難加ハリ食思減退シ、時々惡寒ヲ伴ヒテ發熱シ、體溫三十七度五分乃至三十八度ニ達ス。八月十日武谷内科入院。體格中等、榮養普通。左胸部前面第三肋間腔以下、背面肩胛骨間腔下三分ノ一以下濁音抵抗ヲ示シ、呼吸音微弱或ハ消失シ、聲音振盪亦然リ。濁音界ノ上部ニハ摩擦音ヲ聽キ、右肺竝ニ左肺上部ニ於テハ一般ニ呼吸音強銳トナル。十四日滲出液約一、三〇〇㏄ヲ排除ス。ソノ後増量ノ傾向ナシ。胸部レ線寫眞所見、左側滲出性肋膜炎

八月十一日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。八月十八日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。八月二十四日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射ス。九月一日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。入院以來經過極メテ良好ニシテ、體溫漸次下降シ、八月末日體溫三十七度ヲ越サズ。九月二日退院。ソノ後十回ニ達スルマデ「AO」ノ注射ヲ續ケタリ。八月十八日赤血球沈降速度ハ一時間後ニ二七耗。九月一日、一三耗。

一、 （武）二十一歳

診斷 右側肺結核

昭和四年（一九二九）夏頃ヨリ過勞ノアトニ時々微熱、右肩ノ凝リヲ感ジタリ。五年三月一日現在、體格中等、榮養。右肺尖部呼吸音粗銳ニシテ呼氣延長セリ。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一〇耗。肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。

三月一日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。以後普通ノ如ク勤務ヲ續ケシガ七月中旬ニ至リ輕度ノ咳嗽、喀痰アリテ體溫三十七度七分ニ達ス。就牀安靜ヲ守ルモ下熱セズ。右側胸痛ト肩ノ凝リヲ訴フ。七月二十一日、武内内科入院。肺ノ臨牀所見竝ニレ線寫眞所見ハ殆ンド前ニ同ジ。七月二十六日赤血球沈降速度ハ一時間後ニ一〇耗。七月二十六日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。八月二日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射ス。八月九日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。八月十六日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射ス。八月二十三日「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射ス。八月三十日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應弱陽性。九月六日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射ス。九月十三日「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陽性。九月二十日「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射ス。九月二十七日、「AO」第一號一・〇㏄ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。入院以來經過極メテ良好ニシテ九月十四日以來體溫三十七度ニ達スルコトナシ。咳嗽、喀痰止ミ自覺的竝ニ他覺的ニ異常ヲ認メズ。十月十一日、退院轉地療養ス。ソノ後健康ニシテ普通ノ生活ヲ續ク。（昭和六年五月一日調）

二、 （武）二十四歳

診斷 右側滲出性肋膜炎

昭和四年（一九二九）六月中旬、田圃ニテ耕地中突然右側胸部ニ疼痛ヲ覺エタリ。以後安靜ヲ守ルコト一週間ニシテ治癒セシモ八月ニ至リ再び前述ノ胸痛起

リ、殊ニ深呼吸時或ハ運動時ニ甚ダシク呼吸困難アリ。咳嗽アレドモ略痰ナシ。八月十九日、武谷内科入院。二十一日現在、體格中等、營養良。右胸部前面第四肋間腔以下、背面肩胛骨間腔ノ中央部以下濁音抵抗アリテ呼吸音竝ニ聲音振盪微弱或ハ消失シ摩擦音ヲ聽ク。心臟ハ左方ニ壓セラル。左肺及ビ右肺上部ハ呼吸音強銳トナル。體溫三十七度五分乃至三十九度五分、咳嗽アリ胸痛ヲ訴ヘ呼吸困難アリ。食思不良。赤血球沈降速度ハ一時間後ニ九〇耗。胸部ノレ線寫眞所見、右側滲出性肋膜炎。

八月二十一日、「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。八月二十六日滲出液約一、三〇〇耗ヲ排除ス。八月二十八日「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射ス。九月四日、「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。九月十一日、「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射ス。九月十八日、「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。九月二十五日、「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射ス。十月二日、「AO」第一號一・〇耗ヲ皮下ニ注射ス。入院以來經過良好ニシテ九月末ヨリ體溫三十七度ヲ越サズ。十月二日退院。十二月一日命ニヨリ來院セシガ全ク治癒シ輕度ノ家業ニ服セリト言フ。

以上十二例ニ「AO」連續注射ヲナセル際ノ白血球數ノ動搖ハ第八表ニ示ス。

第 八 表 「AO」連續注射ノ場合

被 檢 者	診 断	注射 回数	検査日	白血球數					YR	備 考
				注射前	30分	60分	90分	120分		
1	兩側肺結核	1	3/5 1930	8.200	5.920	6.320	5.540	5.600	++	13/7 死亡
		3	17/5	10.080	9.760	8.620	9.900	10.820	+	
		5	31/5	10.800	9.360	8.600	9.020	9.300	++	
		7	14/6	9.040	7.460	7.940	7.500	7.980	++	
		1	3/5 1930	12.600	6.920	5.820	8.300	6.600	++	
2	兩側肺結核	3	17/5	11.400	11.360	10.820	10.180	12.900	+	3/7 死亡
		5	31/5	8.240	6.200	6.500	7.180	7.400	++	
		7	14/6	8.100	7.200	6.360	7.030	7.380	+	
		1	3/5 1930	14.720	13.180	11.540	10.120	12.080	++	
		3	17/5	14.640	12.840	14.140	12.240	16.860	++	
3	兩側肺結核	5	31/5	11.360	8.720	9.040	9.800	10.200	++	10/6 死亡
		7	14/6	11.360	8.380	8.960	8.760	9.250	++	
		1	3/5 1930	14.720	13.180	11.540	10.120	12.080	++	

4	[REDACTED]	兩側肺結核	1	$\frac{5}{5}$	1930	8.880	7.520	6.840	5.680	6.900	++	$\frac{3}{6}$ 死亡
			3	$\frac{10}{5}$		9.740	8.300	8.820	7.560	6.880	++	
			1	$\frac{9}{5}$	19:30	7.920	6.760	6.260	6.660	6.500	++	
5	[REDACTED]	兩側肺結核 右側陳舊性肋膜炎	3	$\frac{19}{5}$		10.780	8.300	10.220	8.780	9.400	++	不變(1/12)
			5	$\frac{3}{6}$		9.870	8.240	7.300	7.900	7.820	++	
			7	$\frac{17}{6}$		9.680	7.180	7.500	8.000	7.720	++	
6	[REDACTED]	兩側肺結核 兩側陳舊性肋膜炎	1	$\frac{9}{5}$	19:30	6.600	5.400	5.140	4.440	5.420	++	増悪(1/12)
			3	$\frac{19}{5}$		6.760	5.480	6.680	5.800	6.240	++	
			5	$\frac{9}{6}$		7.100	5.540	6.780	5.360	6.400	+	
7	[REDACTED]	兩側肺結核	7	$\frac{17}{6}$		6.760	5.480	6.350	4.240	6.350	++	$\frac{17}{8}$ 死亡
			1	$\frac{9}{5}$	19:30	7.980	6.200	6.280	5.920	7.080	++	
			3	$\frac{19}{5}$		15.400	13.560	13.880	11.080	11.300	++	
8	[REDACTED]	兩側肺結核 腸	5	$\frac{3}{6}$		11.020	10.500	9.820	7.540	7.820	++	輕快(1/10)
			7	$\frac{17}{6}$		12.340	11.550	9.840	8.250	8.840	++	
			1	$\frac{29}{7}$	19:29	10.160	7.440	7.460	6.840	6.820	++	
9	[REDACTED]	兩側肺結核	3	$\frac{13}{8}$		6.740	6.000	6.280	5.140	5.760	+	輕快(1/5)
			5	$\frac{27}{8}$		7.780	7.660	6.480	7.660	7.440	+	
			8	$\frac{17}{9}$		5.780	5.580	6.240	5.780	6.560	—	
10	[REDACTED]	左側滲出性肋膜炎	1	$\frac{9}{8}$	19:30	9.200	7.520	7.720	9.000	10.800	+	輕快(1/10)
			6	$\frac{13}{9}$		7.920	10.480	10.000	9.480	10.600	—	
			8	$\frac{27}{9}$		8.680	9.680	9.320	10.860	11.300	—	
11	[REDACTED]	右側肺結核	1	$\frac{11}{8}$	19:29	4.900	4.080	4.030	4.340	4.660	+	治癒(1/5 1931)
			2	$\frac{18}{8}$		6.900	5.940	6.560	6.700	5.300	+	
			4	$\frac{1}{9}$		6.020	6.120	7.440	6.720	5.960	—	
12	[REDACTED]	右側滲出性肋膜炎	1	$\frac{13}{8}$	19:30	6.040	5.580	5.900	4.680	6.100	+	治癒(1/5 1931)
			2	$\frac{26}{7}$		9.570	7.800	7.980	8.920	9.400	+	
			4	$\frac{9}{8}$		8.580	7.120	7.640	9.060	8.100	+	
13	[REDACTED]	右側滲出性肋膜炎	9	$\frac{13}{9}$		9.640	9.980	10.000	8.180	8.860	—	治癒(1/12)
			11	$\frac{27}{9}$		5.700	5.800	6.060	8.340	8.770	—	
			1	$\frac{21}{8}$	19:29	11.140	7.780	7.300	7.320	7.760	++	
14	[REDACTED]	右側滲出性肋膜炎	3	$\frac{4}{9}$		8.480	9.680	8.500	8.580	8.720	—	治癒(1/12)
			5	$\frac{18}{9}$		9.240	10.120	9.540	9.470	11.120	—	

以上ノ検査成績ハ次ニ述ブル暗示ヲ與フルモノナラン。即「AO」連續注射治療中經過良好ニシテ結核症ノ活動性が停止ノ状態ニ赴クモノニ於テハ注射回數ヲ重スルニ從ヒ、検査時間内ニ於ケル白血球數ハ減少度ヲ減ジ、遂ニハ却ツテ増加スルニ至ル。反之、經過不良ニシテ且ツソノ豫後ノ面白カラザルモノニテハ依然トシテ毎ニ減少シ、アルモノニテハ寧ロソノ度ヲ増スモノアリ。

然レドモ百瀨氏ノ「ストロミン」ノ連續注射ヲ受クルコト三十二回ニシテ、ソノ後二週間目ニ「AO」ヲ注射シテ檢セシ山田ノ検査成績(第一項、其(一)(二)參照)ヨリ、惟フニ經過良好ナラザル中等症若クハ重症ノ結核患者ニテモ結核特殊製劑ヲ長期ニワタリ注射スル時ハ稀ニ或症例ニ於テハ漸次減少ノ度ヲ減ジ或ハ増加スルモノアルモノ、如シ。

第三項 本節ノ概括及考案

一、結核患者ニ於テハ「AO」注射後三十分ニシテ既ニ白血球數ノ減少ヲ來タス。即陽性反應ヲ呈スルモノナリ。ソノ減少ノ度及持續期間ハ結核病竈ノ活動性ニ比例ス。即病態ノ重篤ニシテ進行性ナルモノニアリテハ減少度強ク持續期間モ亦長シ。即反應強陽性ヲ呈ス。反之、從令病竈稍々廣汎ニワタルトモ陳舊ニシテ休止性ナルモノニアリテハ減少度輕ク持續期間モ亦短シ。即反應弱陽性ヲ呈ス。

二、從令病竈狹小ナリト雖、新鮮ニシテ進行性ナルモノニアリテハ減少度強クシテ持續期間モ亦長シ。即、反應強陽性ヲ呈ス。反之、從令病竈稍々廣汎ニワタルトモ陳舊ニシテ休止性ナルモノニアリテハ減少度輕クシテ持續期間モ亦短シ。即反應弱陽性ヲ呈ス。

三、重症結核患者ニ於テ觀察セル成績ヨリ明ラカナル如ク結核病竈廣汎ニシテ「AO」注射後ノ白血球數ノ減少強度即反應強陽性ヲ呈スルモノニテハソノ豫後ノ不良ナルコトヲ推斷シ得ベシ。

四、臨牀上結核患者ト認ムル者ニテ重症五三名中三名、中等症二五名中一名、輕症三三名中一名ニ於テハ注射後白血球數ノ減少ヲ來サバリシ者アリ。之等諸例ハ何レモ結核特殊製劑ヲ以ツテ前處置シタル者ナリ。之等數例ニ於テ「AO」注射後白血球數ノ減少セザル所以ハ結核特殊製劑ヲ以ツテ前處置シタルニ起因スルモノト説明スベキカ或ハ例外ト見ルベ

キ短時間内ニ於ケル白血球ノ時刻的增加ノ影響ヲ受ケシニヨルモノナルカ尙攻究ノ餘地アルベシ。又カ、ル結核特殊性質ガ如何ナル度ニ於テ如何ナル期間マデ影響スルカハ個體ニヨリ當然相異ルモノナラン。

五、「AO」連續注射治療中經過良好ニシテ休止ノ狀態ニ赴ク者ニ於テハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ白血球數ノ減少ノ度ヲ減ジ遂ニハ却ツテ増加スルニ至ル。反之、經過不良ニシテ且ツソノ豫後ノ不良ナル者ニ於テハ依然トシテ減少ヲ持續シ、或ル者ニ於テハ寧ロソノ度ヲ増ス者スラアリ。即「AO」連續注射セル者ニ在リテ尙且ツ本反應強陽性ナル者ハ其豫後不良ナリ。

六、結核既往症ヲ有スレドモ検査時自、他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者ニアリテハ白血球數ハ減少セザルカ或ハ寧ロ増加ヲ示ス。即病勢停止性ニシテ活動性ナラザル者ニ在リテハ本反應ハ陰性ヲ呈ス。

七、健康者竝ニ非結核患者ノ大多數ニ在リテハ「AO」注射直後ヨリ白血球數ハ増加スルカ若クハ増減ノ度極メテ輕度ニシテ一定ノ型ヲ示サズ、又少數ノ者ニ在リテハ注射後半時間ニ於テノミ極メテ僅カニ減少シ後漸次注射前ヨリ増加ス。即健康者及非結核患者ニ在リテハ本反應ハ陰性ナリ。

八、以上ノ検査成績ヨリ明ラカナル如ク、結核患者ト非結核患者トノ間ニ於テ「AO」注射後ノ白血球數ノ動搖ニハ截然タル相違ヲ認ム。而カモソノ減少度ハ殆ンド正ニ結核病竈ノ活動性ノ程度ニ比例ス。即本反應ニヨリテ結核病竈ノ活動性ノ程度ヲ窺知シ得ベシ。

第四節 家兎ニ「AO」一回注射ニヨル白血球數ノ動搖

既ニ述ベシ如ク臨牀上結核患者ト非結核者トノ間ニ於テ「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニハ截然タル相違ヲ認メタリシガ、更ニ進ンデ動物實驗ニ於テモコレヲ證明シ得ルヤ否ヤヲ確メンガタメニ次ノ實驗ヲ行ヒタリ。

検査方法ハ略々前述ノ如キモ採血ハ耳緣靜脈ヨリナシ、人ニ於ケルヨリモソノ血液稍々凝固シ易キ傾向ヲ認メタルヲ以ツテ、「メランジエール」ノ標示〇・五マデ血液ヲ吸ヒ、二十倍ニ稀釋シ、採血毎ニ五回数へ、ソノ總和ヲ四〇倍シテ所要ノ白血球總數ヲ得タリ。「AO」ノ量ハ人ニ於ケルト同ジク體重一斤對一單位ニシテ、注射ニ當リ第一號ヲ生理的食鹽水

ヲ以ツテ十倍ニ稀釋シテ使用ニ便ニシ、皮下ニ注射ス。

實驗動物ニハ家兎(二乃至三斤)ヲ用ヒ、採血検査後ハ全例ニ於テロエマア氏反應ヲ檢シ、尙解剖ニ附シテ結核病竈ノ有無トソノ程度トヲ確メタリ。

第一 結核家兎

結核家兎五頭ヲ用ヒシガソノ内三頭ハ昭和四年十二月五日、結核菌(ES株)〇・〇〇一疋ヲ他ノ二頭ハ昭和五年六月十三日、同菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染セシメタルモノナリ。

結核家兎第一號 昭和四年十二月五日、結核菌〇・〇〇一疋ヲ靜脈内ニ注入感染。昭和五年六月十日、體重二、八一〇瓦、AOヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。六月十八日、ロエマア氏反應中等度陽性。六月二十日、解剖所見、氣管枝周圍淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ一個、小豆大ニ腫脹セルモノ二個。各肺葉ノ表面ニ灰白色ノ半米粒大ノ結節ヲ數個宛認メ左下肺葉ニハ肺炎病竈ヲ認ム。腸間膜淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ三個ニシテ、ソノ内一部ハ既ニ乾酪變性ニ陥ル。兩側腎臟表面ニ小結節數個ヲ認ム。

結核家兎第二號 昭和四年十二月五日、結核菌〇・〇〇一疋ヲ靜脈内ニ注入感染。昭和五年六月十日、體重三、三二〇瓦、AOヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應中等度陽性。六月十八日、ロエマア氏反應弱陽性。六月二十日、解剖所見、氣管枝周圍淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ三個。左肺上下兩葉ノ分岐部ニ灰白色ノ結節三個、右肺上下兩葉ニ米粒大ノ灰白色結節數個ヲ認ム。腸間膜淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ三個小豆大ニ腫脹セルモノ一個アリ。左腎表面ニ粟粒大ノ黃色結節一個ヲ認ム。

結核家兎第三號 昭和四年十二月五日、結核菌〇・〇〇一疋ヲ靜脈内ニ注入感染。昭和五年六月十一日、體重二、九八〇瓦、AOヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。六月十八日、ロエマア氏反應強陽性。六月二十日、解剖所見、右側鼠蹊淋巴腺米粒大ニ腫脹セルモノ一個。兩側腋窩淋巴腺米粒大ニ腫脹セルモノ各々二個。氣管枝周圍淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ二個、小豆大ニ腫脹セルモノ四個。左側上下兩肺葉ニ灰白色ノ粟粒大ノ結節數個、右肺各葉帽針頭大ノ灰白色結節數個ヲ認メ、且ツ諸所ニ加答兒性肺炎ノ像ヲ呈ス。腸間膜淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ四個、小豆大ニ腫脹セルモノ三個。

結核家兎第四號 昭和五年六月十三日、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。七月五日、體重二、五〇〇瓦、AOヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。七月七日、ロエマア氏反應強陽性。七月九日、解剖所見、肺門淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ四個。ソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。兩肺各葉表面ニ粟粒大ノ結節多數ヲ認メ、ソノアルモノハ相融合シテ大ナル結節ヲ作り、ソノ一部ハ既ニ乾酪變性ニ陥ル。脾臟ノ表面ニ黃色粟粒大ノ小結節數個ヲ認ム。腸間膜淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ三個。

結核家兎第五號 昭和五年六月十三日、結核菌一・〇延ヲ靜脈内ニ注入感染。七月五日、體重二、二〇〇瓦、「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應強陽性。七月七日、ロエマア氏反應強陽性。七月九日、解剖所見、肺門淋巴腺大豆大ニ腫脹セルキノ三個。兩側各肺葉ハ多數ノ粟粒大ノ結節ヲ以ツテ蔽ハレ、ソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。脾臓ハ稍々腫脹シ表面ニ黃色顆粒狀ノ小結節アリ。腸間膜淋巴腺小豆大ヨリ豌豆大ニ腫脹セルモノ數個ヲ認ム。

以上結核家兎五頭ニ於ケル検査成績ハ第九表ニ示ス。即結核家兎ニ於テハ「AO」注射後白血球數ノ著明ナル減少ヲ認メタリ。即陽性反應ヲ呈ス。而シテソノ減少度ハ結核病竈及ロエマア氏反應ノ強度ニ略々平行スルモノ、如シ。

其二 健康家兎

健康家兎第一號 昭和五年六月二十五日、體重二、六〇〇瓦「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。七月七日ロエマア氏反應陰性。七月十一日、解剖所見、結核病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第二號 昭和五年六月三十日、體重二、三九〇瓦、「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。七月七日、ロエマア氏反應陰性。七月十一日、解剖所見、結核病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第三號 昭和五年六月三十日、體重二、三九〇瓦「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。七月七日、ロエマア氏反應陰性。七月十一日、解剖所見、結核病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第四號 昭和五年七月五日、體重二、〇五〇瓦、「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。七月七日、ロエマア氏反應陰性。七月十一日、解剖所見、結核病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第五號 昭和五年七月五日、體重二、二七〇瓦、「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。反應陰性。七月七日、ロエマア氏反應陰性。七月十一日解剖所見、結核病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

I 結核家兎

第九表 家兎「AO」注射

被檢注射 家兎回数	検査日	白血球數				
		前	30分	60分	90分	120分
1	10/6 1930	8,170	7,920	6,700	6,600	5,840
2	11/6 1930	8,000	6,080	5,800	5,140	5,980
3	11/6 1930	24,320	13,760	14,640	10,880	12,600
4	5/7 1930	10,920	8,520	7,560	8,000	7,900
5	5/7 1930	9,760	6,040	6,720	7,640	6,480

II 健康家兎

被檢注射 家兎回数	検査日	白血球數				
		前	30分	60分	90分	120分
1	5/6 1930	10,400	11,080	10,080	10,410	11,060
2	5/6 1930	13,400	14,880	13,960	14,410	13,960
3	30/6 1930	12,400	12,520	17,600	10,040	13,560
4	5/7 1930	8,440	9,880	10,040	9,920	10,400
5	5/7 1930	7,800	9,760	8,000	8,200	8,410

以上健康家兎五頭ニ於ケル検査成績ハ第九表ニ示ス。即健康家兎ニ於テハ「AO」注射後白血球數ノ増加セルヲ認ム。即陰性反應ヲ呈ス。

其三 結核及健康家兎ニ於ケル生理的白血球數ノ動搖、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水及「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖結核家兎四頭及健康家兎四頭ヲ選ビ、ソノ各々ニテ先ヅ何等處置セズシテ白血球數ノ動搖ヲ觀察シ、次デ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水(即「AO」中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノ)ヲ注射シ、前ト同時刻ニ同様ノ検査ヲナシ、終ニ「AO」ヲ注射シ前ト同時刻ニ同様ノ検査ヲナシ、ソノ各々ノ場合ニ於ケル白血球數ノ動搖ヲ比較觀察ス。

「AO」ノ注射量ハ體重一肝對一免疫單位ニシテ、注射ニ當リ第一號ヲ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水、即「AO」ノ結核菌成分ヲ加ヘザルモノヲ以ツテ十倍ニ稀釋シ、使用ニ便ニシ皮下ニ注射セリ。〇・五%石炭酸加生理的食鹽水ハ「AO」ト同ジク體重比ニシテ而カモノノ十倍量ヲ注射シタリ。

検査終了後被檢家兎ノ全例ニ於テロエマア氏反應ヲ檢シ、又解剖ニ附シテ結核病竈ノ有無トソノ程度トヲ確メタリ。

結核家兎ハ昭和六年三月十五日、結核菌(有馬研究所園株)〇・〇〇一疋ヲ右眼前房ニ注入感染セシム。

結核家兎第一號 昭和六年六月二十三日、午前九時三十分ヨリ十一時三十分ニ互リ毎半時間ニ採血検査ス。増加八八〇、減少一、〇〇〇(最初ノ採血時ノ白血球數ニ比ス。以下同ジ)。二十五日、體重二、四二〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ白血球數ノ稍々著明ナル増加ヲ見ル。二十七日、「AO」注射ニヨリ一時間後マテ輕度ノ減少ヲ示シタレドモ一時間半後ヨリ増加シ、注射前ノ數ヲ越ユ。二十八日、ロエマア氏反應中等度陽性。三十日、解剖所見、後胸骨淋巴腺米粒大ノモノ三個ニシテ一部乾酪變性ニ陥ル。心囊膜ニ米粒大ノ結節一個ヲ認ム。肺門淋巴腺大豆大ノモノ三個ニシテソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。各肺葉ニ粟粒大ヨリ大豆大ニ至ル種々ノ大サノ結節多數發生シ、殊ニ左下葉ニテハ是等ノ結節相融合シテ殆ンド全葉ヲ占ム。肝臓及脾臓ノ表面ニ數個ノ粟粒大ノ結節ヲ認ム。腹膜後淋巴腺米粒大ノモノ三個。腸間膜淋巴腺大豆大ノモノ四個。廻盲部ニ粟粒大ノ結節數個ヲ散見ス。

結核家兎第二號 昭和六年六月二十三日、午前九時四十五分ヨリ十一時四十五分ニ互リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。増加七二〇、減少一、三二〇。二十五日、體重二、五二〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ不定ノ増減ヲ示ス。二十七日、「AO」注射ニヨリ著明ナル減少ヲ來タシ、時間ノ經過ニ伴ヒテソノ度ヲ増シ、二時間後ニ最も高度ナリ。二十八日、ロエマア氏反應中等度陽性。三十日、解剖所見、左側鼠蹊淋巴腺米粒大ノモノ二個。左右腋窩淋巴腺米粒大ノモノ各々一個。肺門淋巴腺大豆大ノモノ一個。各肺葉ニ米粒大ノ結節ヲ散見ス。腹膜後淋巴腺豌豆大ノモノ一個及大豆大ノモノ一個ヲ認ム。

結核家兎第三號 昭和六年六月二十三日、午後一時三十分ヨリ三時三十分ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。減少八八〇、増加二〇〇。二十五日、體重二、七四〇瓦、〇・五%ノ石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ輕度ノ増加ヲ示ス。二十七日、體重二、七〇〇瓦、「AO」注射ニヨリ著明ナル白血球數ノ減少ヲ呈シ、二時間後ニ於テ最モ高度ナリ。二十八日、ロエマア氏反應弱陽性。三十日、解剖所見、左側鼠蹊淋巴腺米粒大ノモノ一個。肺門淋巴腺大豆大ノモノ二個。各肺葉ニ少數ノ米粒大ノ結節ヲ散見ス。

結核家兎第四號 昭和六年六月二十三日、午後一時四十五分ヨリ三時四十五分ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。増加七二〇、減少四四〇。二十五日、體重三、〇三〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ増減不定ナリ。二十七日、體重三、〇五〇瓦、「AO」注射ニヨリ白血球數ノ減少セルヲ見ル。二十八日、ロエマア氏反應弱陽性。三十日、解剖所見、胸骨後淋巴腺米粒大ノモノ二個。肺門淋巴腺大豆大ノモノ三個。各肺葉ニ米粒大ノ結節ヲ散見ス。

健康家兎第一號 昭和六年六月二十四日、午前九時三十分ヨリ十一時三十分ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。増加一、七二〇。二十六日、體重一、二八〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。十八日、「AO」注射後モ亦白血球數ノ増加セルヲ認ム。二十八日、ロエマア氏反應陰性。三十日、解剖所見、結核病竈ヲ認メズ。

健康家兎第二號 昭和六年六月二十四日午前九時四十五分ヨリ十一時四十五分ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。増加一、三八〇、減少一、一二〇。二十六日、體重二、二七〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ輕度ノ増減アレドモ一定セズ。二十八日、體重二、三八〇瓦、「AO」注射ニヨリテモ亦輕度ノ増減ヲ示ス。二十八日、ロエマア氏反應陰性。三十日、解剖所見、結核病竈ヲ認メズ。

健康家兎第三號 昭和六年六月二十四日、午後一時三十分ヨリ三時三十分ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。増加一、四八〇、減少二、一二〇。二十六日、體重二、三一〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ白血球數ノ増加ヲ認ム。二十八日、體重二、三一〇瓦、「AO」注射ニヨリ稍々著明ナル白血球數ノ増加ヲ認ム。二十八日、ロエマア氏反應陰性。三十日、解剖所見、結核病竈ヲ認メズ。

健康家兎第四號 昭和六年六月二十四日、午後一時四十五分ヨリ三時四十五分ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナス。増加四四〇、減少八四〇。二十六日、體重二、五〇〇瓦、〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ニヨリ輕度ノ不定ナル白血球數ノ増減ヲ示ス。二十八日、體重二、七〇〇瓦、「AO」注射後白血球數ノ増加ヲ呈ス。二十八日、ロエマア氏反應陰性。三十日、解剖所見、結核病竈ヲ認メズ。

以上ノ検査ニヨル白血球數ノ動搖ハ第十表A及Bニ示ス。即結核及健康家兎ニ於テ何等處置ナクシテ二時間ニワタリ毎半時ニ五回ノ採血検査ヲナシタル成績ヲ見ルニ、兩者共ニ著明ナル動搖ヲ示サズ。〇・五%石炭酸加生理的食鹽水ヲ體重一盞ニ就キ〇・二ノ割ニ注射スルコトニヨリテ健康家兎第一號及結核家兎第一號ニ於テ稍々著シキ白血球數ノ増加ヲ

示セルガ、其他ノ六頭ハ著シキ動搖ヲ示サズ。「A O」注射ニヨリテハ健康家兎ニ於テ輕度ノ白血球數ノ増加ヲ示スカ或ハ不定ノ増減ヲナス。然ルニ結核家兎ニ於テハ四頭全部ニ於テ減少ヲ示シ、殊ニ三頭ニテハ極メテ著明ナル白血球數ノ減少ヲ示シタリ。其中一頭即第一號家兎ニ於テ減少ヲ示シタリ。其中一頭即第一號家兎ニ於テ減少ノ輕度ナリシハ該動物ハ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水注射ノ際ニ於ケル極メテ高度ノ白血球數ノ増加ヲ示ス特性ヲ有シタリ。即「A O」ニヨル反應モコノ特性ニヨリテ一部蔽ハレタルニヨルモノナルベシ。然レドモ健康家兎ニ於テハ何レモ一定セル白血球數ノ減少、即反應陽

第十表 A 結核家兎

被檢家兎	検査日	白血球數				
		前	30分	60分	90分	120分
1	23/6 1931	13.080	13.960	12.080	13.840	13.560
	25/,,	10.240	25.920	17.680	23.480	26.400
	27/,,	11.040	10.560	10.360	12.240	13.640
2	23/,,	15.000	13.680	14.280	15.720	15.720
	25/,,	13.200	12.960	18.360	12.040	14.720
	27/,,	14.000	12.960	10.880	10.360	10.240
3	23/,,	8.520	8.720	8.160	7.640	8.240
	25/,,	11.600	11.720	11.480	13.920	12.680
	27/,,	13.240	8.600	9.640	9.620	6.360
4	23/,,	7.000	7.240	7.040	8.000	7.480
	25/,,	7.240	8.640	6.800	8.120	6.880
	27/,,	8.000	6.600	6.040	5.480	5.520

第十表 B 健康家兎

被檢家兎	検査日	白血球數				
		前	30分	60分	90分	120分
1	24/6 1930	7.520	9.240	8.360	8.400	8.400
	26/,,	9.320	9.680	10.960	13.440	12.280
	28/,,	9.280	10.280	9.360	9.880	9.760
2	24/,,	10.040	8.980	8.720	9.200	11.420
	26/,,	7.800	9.840	7.680	8.160	10.080
	28/,,	10.480	8.640	12.960	9.160	8.520
3	24/,,	9.680	10.680	8.280	11.160	7.560
	26/,,	10.760	11.560	10.140	12.520	11.840
	28/,,	10.120	13.400	11.880	11.440	11.720
4	24/,,	8.080	8.520	7.240	7.640	8.000
	26/,,	8.560	8.480	7.920	8.720	6.320
	28/,,	12.160	13.080	12.400	11.880	12.840

性ヲ呈シタル事實ヨリ、コノ白血球數ノ動搖ハ「A O」中ノ結核菌成分ニヨリテ惹起セララル、モノナリト斷言シテ憚ラザルトコトナリ。

其四 本節ノ概括及考案

一、結核家兎ニ「A O」ヲ體重一・〇盪對一免疫單位ノ割ニ皮下ニ注射スレバ白血球數ノ著明ナル減少ヲ認メタリ(陽性反應)。

二、健康家兎ニ「A O」ヲ體重一・〇盪對一免疫單位ノ割ニ皮下ニ注射スレバ白血球數ノ増加ヲ認メタリ(陰性反應)。

三、結核家兎及健康家兎ニ於テ何等處置ナクシテ二時間ニワタリ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナシタル成績ヲ見ルニ白血球數ハ兩者共ニ著明ナル動搖ヲ示サズ。

四、結核家兎及健康家兎ニ二・五%石炭酸加生理的食鹽水(「AO」中ノ結核菌成分ヲ除去セルモノ)ヲ體重一・〇盪對〇・二坵ノ比ニ皮下ニ注射スルコトニヨル白血球數ノ動搖ハ著シカラズシテ而カモ一定セル型ヲ示サズ。

五、「AO」ヲ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水ヲ以ツテ十倍ニ稀釋セルモノ(一〇・〇坵中五〇免疫單位含有)ヲ結核家兎及健康家兎ニ體重一・〇盪對〇・二坵ノ比ニ皮下ニ注射スルコトニヨリ、

A、結核家兎ニ於テハ白血球數ノ減少ヲ示ス(陽性反應)。

B、健康家兎ニ於テハ白血球數ノ増加ヲ示スカ、或ハ不定ノ増減ヲナス(陰性反應)。

六、結核家兎及健康家兎ニ於ケル「AO」注射ニヨル白血球數ノ増減ハ「AO」中ノ結核菌成分ニヨリテ惹起セラル、モノナリ。

第五節 煮沸「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖

⁽³³⁾⁽³⁴⁾「AO」ノ豫防的治療の效果ニ立脚シテ「AO」ノ結核菌蛋白體ハ自然性ヲ保持スルモノナリトハ有馬博士一派ノ年來主張シ來レルトコロニシテ「AO」ノ特性ノ一ナリ。前述ノ如キ「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ハ「AO」ニ何等カノ理化學的的操作ヲ加ヘタル場合ニ如何ニ影響サル、モノナリヤ。コレヲ知レバ「AO」ノ一特性ヲ證明シ得ルノミナラズ、又余ノ發見セル「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ノ本態ノ一面ヲモ窺ヒ知ルヲ得ベシ。由ツテ余ハ煮沸「AO」(煮沸「AO」トハ「AO」ヲ一時間攝氏百度ニ加熱シタルモノナリ)ヲ用ヒ、大阪市立刀根山病院入院患者六名、有馬研究所附屬醫院外來患者四名ニ「AO」ト同一方法及同一ノ體重比ヲ以ツテ注射シ、同一條件ノモトニ検査ヲ行ヒタリ。動物實驗ニハ家兎ヲ用ヒ、結核家兎十二頭、及健康家兎六頭ヲ選ビ、検査ハ「AO」注射ノ際ト同様ナリ。

第一項 結核患者

一、 (刀) 二十七歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)七月、右側乾性肋膜炎及結核性腹膜炎ノ診斷ノモトニ大阪赤十字病院ニ入院セシガ、約三箇月ニシテ輕快退院ス。五年(一九三〇)五月中旬少量ノ咯血アリシガソレニ伴ヒ全身倦怠感、熱感、咳嗽、咯痰、盜汗ヲ訴フ。六月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。七月四日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。右肺全葉左肺上葉濁音ヲ呈シ、諸所ニ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十七度七分、咳嗽、咯痰、盜汗アリ。

七月四日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

二、(刀) 十九歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和五年(一九三〇)四月以來全身倦怠感アリテ發熱、胸痛、咳嗽、咯痰ヲ伴フ。六月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。七月三日現在、體格中等、榮養普通。右肺全面濁音ヲ呈シ、呼吸音微弱ニシテ上部ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク、右側肋膜ノ移動不良。左肺上半部輕濁ヲ呈シ、少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十七度四分、輕度ノ咳嗽、咯痰アリ。

七月三日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

三、(刀) 三十三歳

診斷 兩側肺結核

五年前(一九三〇)肺炎加答兒ト診斷サル。爾來時折微熱ト輕度ノ咳嗽アリ。昭和五年(一九三〇)六月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。七月三日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺上部及右肺全葉濁音ヲ呈シ、右側肋膜ノ移動不良ニシテ呼吸音微弱、諸所ニ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度六分乃至三十八、咳嗽、咯痰アリ。

七月三日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

四、(刀) 四十二歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)正月頃ヨリ全身倦怠感アリテ微熱及咳嗽ヲ伴フ。四月ニ至リ咯痰中ニ血液ヲ混ズ。六月三十日、大阪市立刀根山病院入院。七月四日現在、體格中等ナレドモ榮養高度ニ害セラル。右肺全面、左肺上半部濁音ヲ呈シ無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十七度六分乃至三十九度、咳嗽、咯痰甚ダシ。

七月四日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ減少ヲ示ス。

五、**（有）** 二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十一月突然咯血アリシガ以來咳嗽、喀痰増加ス。五年（一九三〇）六月三十日、大阪市立刀根山病院入院。七月四日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。右肺ノ前全面、後上半部、左肺ノ前上半部、後全面濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十七度乃至三十八度、咳嗽、喀痰甚ダシ。

七月四日。採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

六、**（有）** 十九歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年（一九二九）六月、右側滲出性肋膜炎ニ罹リシガ全治スルニ至ラズシテ肺結核ヲ併發セリ。五年（一九三〇）六月三十日、大阪市立刀根山病院入院。七月四日現在、體格中等、榮養普通。右肺殊ニソノ下部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、呼吸音微弱、他ノ部ニ於テハ呼吸音粗銳ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽キ、左肺尖部吸氣粗ニシテ呼氣延長セリ。體溫三十六度八分乃至三十七度六分、咳嗽、喀痰アリ。

七月四日。採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

七、**（有）** 二十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）二月産後全身倦怠感ヲ伴ヒテ微熱アリ。ソノ後カ、ル症狀ハ消失或ハ發現ス。三年（一九三〇）二月ニ至リ微熱、咳嗽、喀痰ニ加ヘテ胸部壓迫感ヲ訴フ。七月七日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪ル。七月八日現在、體格中等、榮養普通ナレドモ稍々貧血蒼白ナリ。頸部ニ淋巴腺塊ヲ觸知ス。兩肺尖部殊ニ右側ハ第二肋間腔以上輕濁ヲ呈シ吸氣粗、呼氣延長シ、銳ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度三分乃至三十七度四分、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。

肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性増殖性肺結核

七月八日。採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

八、**（有）** 二十二歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年（一九三〇）六月中旬ヨリ全身倦怠感、微熱、咳嗽、喀痰アリ。七月七日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。七月八日現在、體格中等、榮養普通。兩肺上

部輕濁ヲ呈シ、呼吸延長シ且ツ鋭ニシテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度六分乃至三十七度七分、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。

肺ノレ線寫眞所見、兩側纖維性肺結核。

七月八日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

九、 （有） 十六歳

診斷 兩側肺炎結核、右側滲出性肋膜炎。

昭和五年（一九三〇）六月ヨリ深呼吸時ニ胸痛ヲ覺エ又熱感アリ。七月九日有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。七月十日現在、體格中等、榮養普通。兩肺炎輕濁、右胸下半部濁音抵抗ヲ示シ、呼吸音微弱ニシテ「ラッセル」ト摩擦音ヲ聽ク。體溫三十七度五分、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。

肺ノレ線寫眞所見、右側纖維性肺結核、右側肋膜炎、左上肺葉ノ結節性纖維性結核。

七月十日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

一〇、 （有） 二十七歳

昭和五年（一九三〇）六月始ヨリ發熱、咳嗽アリテ全身倦怠感ヲ覺エ、食思又不良ナリ。七月九日、有馬研究所附屬醫院ヲ訪フ。七月十日現在、體格中等、榮養不良。兩肺炎部濁音ヲ呈シ、呼吸延長シ粗銳ナリ、背面ニテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十七度内外、咳嗽アレドモ喀痰殆ンドナシ。

肺ノレ線寫眞所見、兩肺炎部ニ向フ氣管枝線條増加シ、ソノ間ニ石灰化セル數個ノ斑點ヲ散見ス。兩側肺門陰影増加ス。

七月十日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ示ス。

以上結核患者一〇名ニ於ケル検査成績ハ第十一表ニ示ス。

第 十 一 表 煮沸「AO」注射

被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 査 日	白 血 球 數					被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 査 日	白 血 球 數				
				前	30分	60分	90分	120分					前	30分	60分	90分	120分
1 ■	兩側肺結核、右側肺炎性肋膜炎	1	7/7 1930	7.860	8.900	8.000	9.280	8.550	6 ■	兩側肺結核、右側肺炎性肋膜炎	1	7/7 1930	9.060	9.300	10.600	13.220	12.940
2 ■	兩側肺結核、右側肺炎性肋膜炎	1	3/7 1930	5.420	5.600	6.040	7.480	7.660	7 ■	兩側肺結核	1	8/7 1930	3.740	4.580	4.000	5.500	4.180
3 ■	兩側肺結核	1	3/7 1930	11.160	13.840	13.260	12.180	11.920	8 ■	兩側肺結核	1	3/7 1930	5.560	6.040	5.920	6.220	5.600
4 ■	兩側肺結核	1	7/7 1930	10.500	8.900	10.300	10.020	9.300	9 ■	兩側肺結核	1	10/7 1930	4.680	4.520	6.140	5.440	5.620
5 ■	兩側肺結核	1	7/7 1930	10.200	11.040	10.820	10.400	10.560	10 ■	兩側肺結核	1	10/7 1930	8.600	9.600	8.820	9.760	10.320

即ソノ十例ノ検査成績ヲ通覽スルニ衰弱高度ナル中野ニ於テノミ注射後輕度ノ白血球數ノ減少ヲ呈セルモ他ノ九例ニ於テハ何レモ注射後白血球ノ増加ヲ示シ、若クバ著シキ變動ヲ示サズ、即特殊ノ型ヲ呈セズ。其成績ヨリ之ヲ觀レバ他ノ非特異性物質ヲ以ツテセル反應ト相似タルモノアリ(後章參照)。

第二項 動物實驗

前述ノ如ク煮沸「AO」ヲ結核患者ニ注射シタル場合ハ「AO」注射ノ場合ト異リ、注射後白血球數ノ増加ヲ來タスカ、若クバ著シキ變動ヲ示サズ。余ハ更ニコノ現象ヲ確メンガタメニ次ノ如キ動物實驗ヲ行ヒタリ。實驗動物トシテハ家兎ヲ用ヒ、検査ハロエマア氏反應ヲ檢シ、尙解剖ニ附シテ結核病竈ノ有無ト、ソノ程度トヲ確メタリ。煮沸「AO」ハ「AO」ノ場合ト同様ノ方法及體重比ヲ以テ注射シ検査ヲ行ヒタリ。

其一 結核家兎

生後百日内外ノ家兎十二頭ヲ撰ビ、ソノ内六頭ニ結核菌(ES株)一・〇疋ヲ、他ノ六頭ニ二・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染セシメタリ。結核家兎第二號ハ検査後五日ニシテ斃死セルタメロエマア氏反應ヲ檢スル能ハザリキ。

結核家兎第一號 昭和五年十月十八日體重一、八二〇瓦、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月六日、體重二、三〇〇瓦、煮沸「AO」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一九、六四〇ニ達ス。十二月十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺小豆大ノモノ三個。兩肺全面ニ粟粒大ヨリ半米粒大ニ至ル結節多數ヲ認ム。右腎ニ粟粒大ノ小結節一個。腸間膜淋巴腺大豆大ノモノ二個、豌豆大ノモノ二個。

結核家兎第二號 昭和五年十月十八日、體重一、六三〇瓦、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月六日、體重二、〇三〇瓦、煮沸「AO」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一八、六〇〇ニ達ス。十二月十一日、解剖所見、肺門淋巴腺小豆大ヨリ豌豆大ニ腫脹セルモノ三個。兩肺殊ニ右肺ニ於テ粟粒大ノ結節多數ヲ認ム。肝臟表面ニ粟粒大ノ結節一個。脾臟ノ表面ニ粟粒大ノ結節二個。腸間膜淋巴腺小豆大ヨリ豌豆大ニ至ルモノ五個、ソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。

結核家兎第三號 昭和五年十月十八日、體重一、七二五瓦、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月七日、體重二、一〇〇瓦、煮沸「AO」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ二、五六〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、

氣管枝淋巴腺小豆大ヨリ大豆大ノモノ三個、肺門淋巴腺小豆大ノモノ三個、兩肺全面ニ粟粒大ヨリ米粒大ニ至ル結節多數ヲ認ム。腸間膜淋巴腺大豆大ヨリ豌豆大ノモノ六個ソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。

結核家兎第四號 昭和五年十月十八日、體重一、八九〇瓦、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月七日、體重二、四五〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一七、一二〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺小豆大ヨリ大豆大ノモノ三個。兩肺全面殊ニ右上肺葉ニ於テ粟粒大ヨリ半米粒大ニ至ル多數ノ結節ヲ認メ、ソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。左腎ノ表面ニ小結節一個ヲ認ム。

結核家兎第五號 昭和五年十月十八日、體重一、九五〇瓦、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月七日、體重二、四五〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タセドモ、ソノ最大増加數ハ八八〇ニ達スルニ過ギズシテ、二時間後ニ於テハ稍々減少ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺小豆大二個、大豆大一個、兩肺全面多數ノ粟粒大ヨリ半米粒大ニ至ル結節ヲ認ム。腸間膜淋巴腺小豆大一個、大豆大三個、豌豆大一個。

結核家兎第六號 昭和五年十月十八日、體重一、五四〇瓦、結核菌一・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月八日、體重一、九〇〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ二二、一二〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應中等度陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺小豆大二個、大豆大一個。兩肺全面ニ少數ノ粟粒大結節散在ス。腸間膜淋巴腺大豆大三個、小豆大一個。

結核家兎第七號 昭和五年十月十八日、體重一、八五〇瓦、結核菌二・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月八日、體重二、〇〇〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ七、一二〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺小豆大三個、大豆大一個。兩肺全葉粟粒大ヨリ半米粒大ニ至ル多數ノ結節アリテ、ソノ一部ハ相融合シテ大ナル結節ヲ形成シ、乾酪變性ニ陥ル。腸間膜淋巴腺大豆大三個、豌豆大二個。

結核家兎第八號 昭和五年十月十八日、體重一、五九〇瓦、結核菌二・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月九日、體重二、〇七〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ三、五二〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺米粒大二個、小豆大一個、大豆大一個。兩肺全面ニ多數ノ粟粒大乃至半米粒大ノ結節ヲ認ム。左腎ニ粟粒大結節一個アリ。

結核家兎第九號 昭和五年十月十八日、體重一、五六〇瓦、結核菌二・〇疋ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月九日、體重二、一三〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ探血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ六、四四〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺米粒大ノモノ三個、小豆大ノモノ一個。兩肺全面多數ノ粟粒大ノ結節ヲ認ム、左腎ニ灰白色粟粒大ノ結節一個アリ。腸間膜淋巴腺大豆大ノモノ

二個豌豆大ノモノ二個アリテソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。

結核家兎第十號 昭和五年十月十八日、體重一、六五〇瓦、結核菌二・〇延ヲ靜脈内ニ注入感染、十二月十三日、體重二、一〇〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一二、〇四〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺米粒大二個。兩肺全面多數ノ粟粒大乃至半米粒大ノ結節アリ、ソノアルモノハ相融合シテ大豆大ノ結節ヲ構成シ、ソノ一部ハ既ニ乾酪變性ニ陥ル。左腎ニ黃色粟粒大ノ結節一個ヲ認ム。腸間膜淋巴腺大豆大二個、豌豆大二個。

結核家兎第十一號 昭和五年十月十八日、體重一、七七〇瓦、結核菌二・〇延ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月十三日、體重二、三〇〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ六、二四〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺米粒大一、小豆大三個。兩肺全葉ニ多數ノ粟粒大結節ヲ認メ、ソノ一部ハ相融合シテ大ナル結節ヲ形成ス。腸間膜淋巴腺大豆大三個、豌豆大二個。

結核家兎第十二號 昭和五年十月十八日、體重一、九八〇瓦、結核菌二・〇延ヲ靜脈内ニ注入感染。十二月十五日、體重二、五〇〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一七、二八〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應強陽性。十二月二十五日、解剖所見、氣管枝淋巴腺米粒大二個、小豆大一、小豆大一。兩肺全面多數ノ粟粒大乃至半米粒大ノ結節ヲ認メ、ソノ一部ハ相融合シテ大ナル結節ヲ形成ス。腸間膜淋巴腺大豆大三個、豌豆大二個。

其二 健康家兎

實驗動物トシテ生後百日内外ノ家兎六頭ヲ撰ビタリ。

健康家兎第一號 昭和五年十二月十七日、體重二、三六〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ七四〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應陰性。十二月二十五日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第二號 昭和五年十二月十七日、體重二、一三〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ八、九二〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマア氏反應陰性。十二月二十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第三號 昭和五年十二月十七日、體重二、三四〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ八、一二〇ニ達ス。十二月二十四日、ロエマア氏反應陰性。十二月二十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第四號 昭和五年十二月十九日、體重一、七五〇瓦、煮沸「A O」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後半時間目ニ二四〇ノ減少ヲ生ジタレドモ以後増加シ、ソノ最大増加數ハ二、五六〇ニ達ス。十二月二十四日、ロエマア氏反應陰性。十二月二十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第五號 昭和五年十二月二十日、體重一、八〇〇瓦、煮沸「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一七、一二〇ニ達ス。十二月二十二日、ロエマ氏反應陰性。十二月二十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第六號 昭和五年十二月二十日、體重二、〇〇〇瓦、煮沸「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ハ一時増加シタレドモ以後減少ニ移行ス。十二月二十二日ロエマ氏反應陰性。十二月二十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

第十二表 家兎ニ煮沸「AO」注射

I 結核家兎

被檢家兎	注射回数	検査日	白血球數				
			前	30分	60分	90分	120分
1	1	6/12 1920	10.680	19.040	21.600	30.320	30.000
2	1	7/12 1930	13.640	32.240	23.680	31.120	26.000
3	1	7/12 1939	9.280	9.340	9.640	10.280	11.840
4	1	7/12 1930	8.880	18.560	26.000	15.000	11.320
5	1	7/12 1930	13.600	14.080	14.480	13.400	11.720
6	1	8/12 1930	7.880	16.720	20.000	30.000	20.520
7	1	8/12 1930	15.240	19.920	17.720	18.040	22.360
8	1	9/12 1930	10.000	11.700	12.280	13.440	13.520
9	1	9/12 1930	8.240	11.440	13.120	14.680	14.200
10	1	13/12 1930	12.200	14.040	21.920	24.240	23.100
11	1	13/12 1930	7.720	13.960	12.240	12.760	12.840
12	1	15/12 1930	27.200	28.320	34.500	44.480	41.280

II 健康家兎

被檢家兎	注射回数	検査日	白血球數				
			前	30分	60分	90分	120分
1	1	17/12 1930	14.740	15.200	14.800	15.480	15.200
2	1	17/12 1930	7.160	15.000	13.520	16.080	14.200
3	1	17/12 1930	6.720	6.840	11.480	14.840	14.520
4	1	19/12 1930	9.280	9.040	9.640	10.280	11.840
5	1	20/12 1930	80880	18.560	26.000	15.000	11.320
6	1	20/12 1930	13.600	14.080	14.480	13.400	11.720

以上結核家兎十二頭及健康家兎六頭ノ検査成績ハ第十二表ニ示ス。即ソノ検査成績ヨリ見ルニ結核家兎ノ白血球數ハ注射前既ニ健康家兎ノソレニ比シテ稍々多シ。注射後白血球數ノ動搖ヲ觀察スルニ健康家兎及結核家兎何レモ著明ナル増加ヲ呈シ、而カモ結核家兎ニ於テハソノ増加ノ度甚ダシクアルモノニテハ約三倍ニ達セルモノアリ。

第三項 本節ノ概括

「AO」ヲ一時間煮沸シタルモノヲ注射シタル際ノ検査成績ヲ概括スレバ次ノ如シ。

一、結核患者十名中只衰弱高度ナル一例ニ於テ

ノミ僅カニ減少セルヲ認メタレドモ他ノ全例ニ於テハ注射後白血球數ノ減少ヲ來タサザルノミカ寧ロ増加ヲ示セリ。

二、結核家兎ノ白血球數ハ健康家兎ニ比シテ稍々多シ。

三、結核家兎ニ於テモ健康家兎ニ於テモ注射後白血球數著明ニ増加ス。而シテ白血球數増加ノ度ハ結核家兎ニ於テ高度ニシテ、甚ダシキハ注射前ノ約三倍ニ達セルモノアリ。

第六節 「ツベルクリン」注射ニヨル白血球數ノ動搖

結核患者ト非結核トノ間ニ於テ「AO」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ著明ナル差異ノ存スルヲ認メバ、更ニ結核特殊製劑ナル「ツベルクリン」注射ニヨリテハ如何トハ何人モ考フルトコロナラン。余モ亦ココニ想到シ、次ノ検査ヲ行ヒタリ。
検査方法ハ「AO」ノ場合ト同様ナリ。

第一項 結核患者ニ「ツベルクリン」注射

検査材料トシテ大阪市立刀根山病院入院患者ヲ用ヒタリ。
其一 「ツベルクリン」皮内注射

マンツウ氏ノ法ニ從ヒ「ツベルクリン」皮内反應ヲ檢シ、加フルニソノ注射ニヨル白血球數ノ増減ガ「AO」注射ノ場合ノ如ク著明ニシテ、而カモ一定セル成績ヲ得タランニハ更ニ臨牀醫學ニ貢獻スルトコロ大ナラン。余ハマンツウ氏が始メテ行ヒタルヨリ「ツベルクリン」ノ量ヲ稍々減ジ、大阪市立刀根山病院ニ於テ用ヒラル、法ニ從ヒ、四、〇〇〇倍稀釋「ツベルクリン」〇・〇五珎ヲ皮内ニ注射シ、ソノ前後ニ於ケル白血球數ノ動搖竝ニ「ツベルクリン」皮内反應ヲモ觀察スルコトトナシタリ。

一、 二十四歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

五年前ニ右側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ三箇月餘ニシテ治癒ス。然ルニ三年前ヨリ全身倦怠感ヲ覺エ、微熱、咳嗽、咯痰アリ。昭和四年（一九二九）ノ夏頃ヨリ時々血痰アリ。五年（一九三〇）六月九日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十一日現在、體格中等、榮養普通。兩肺前面第二肋間腔以上、背面肩胛間腔上三分ノ一輕濁、呼吸音粗銳ニシテ呼吸延長セリ。又右胸下部濁音抵抗ヲ呈シ、呼吸音微弱ニシテ同側ノ肋膜ノ移動不良ナリ。體溫三十六度三分乃至三十七度二分。輕度ノ咳嗽、咯痰アリ。

六月二十一日、採血検査、注射後半時間ニ於テ僅カ（一、一二〇）ノ白血球數ノ減少ヲ示シタレトモソノ後注射前ノ數ヨリモ増加ス。「ツベルクリン」皮内反應強陽性。

二、 三十一歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十月、全身倦怠感、食思不進ヲ訴ヘシガ五年（一九三〇）正月ニ至リ、熱熱、咳嗽、喀痰アリ、時ニ血液ヲ混ズ。六月九日、大阪市立刀根山病院入院。二十一日現在、體格中等、榮養不良。右肺上葉及左肺尖部ニ濁音ヲ呈シ、呼氣延長、粗銳ニシテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十七度四分、咳嗽、喀痰アリ。

六月二十一日、採血検査。注射後半時間ニ於テノミ僅カ（一、一〇〇）ノ白血球數ノ減少ヲ示シタレドモ、ソノ後注射前ノ數ヨリモ増加ス。「ツベルクリン」皮内反應強陽性。

三、 二十二歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年（一九二九）十月頃ヨリ輕度ノ咳嗽、右肩ノ凝リヲ訴ヘタリ。五年（一九三〇）二月ヨリ今日マテ數同ノ喀血アリ。六月十三日、大阪市立刀根山病院入院。二十一日現在、體格中等、榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。右肺全葉左肺上半部濁音ヲ呈シ、右側肩胛骨間腔ニハ氣管枝音ヲ聽ク。右側肋膜ノ移動不良ナリ。廻盲部ニ壓痛アリ、下痢一日數回。體溫三十六度四分乃至三十八度四分。咳嗽、喀痰多シ。

六月二十一日、採血検査。注射後半時間ヨリ既ニ増加シ唯一時間後ニ於テノミ極メテ僅カ（一〇〇）ノ減少ヲ示スニ過ギズ。「ツベルクリン」皮内反應弱陽性。

四、 四十六歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）十二月ヨリ輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。五年（一九三〇）正月ヨリ全身違和ノ感、食思不振アリ。六月十三日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十一日現在、體格虛弱ニシテ榮養亦不良。兩肺殊ニ右側ニ於テ濁音ヲ示シ、呼氣延長ニシテ粗銳ナリ。又諸所ニ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十八度四分乃至三十九度六分ニシテ、咳嗽、喀痰多シ。

六月二十一日、採血検査。注射後一時間マテ輕度（一、三六〇乃至二、七四〇）ノ減少ヲ示セドモ、ソノ後注射前ヨリ増加ス、「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。

五、 十六歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）正月以來微熱、咳嗽、喀痰アリテ三月ニ肺結核ト診斷サル。以來病症一進一退ニシテ六月十三日、大阪市立刀根山病院入院。二十一日現在、體格中等、榮養輕度害セラル。右肺全葉左上肺葉濁音ヲ示シ、呼吸音粗銳ニシテ諸所ニ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度八分乃至三十七度五分ニシテ咳嗽、喀痰アリ。

六月二十一日、採血検査。注射後半時間ニ於テノミ輕度(二、〇〇〇)ノ減少ヲ示セドモ、ソノ後注射前ヨリ増加ス。「ツベルクリン」皮内反應中等度陽性。以上結核患者五例ニ於ケル白血球ノ動搖ハ第十三表ニ示ス。即五例中三例ニ於テハ注射後半時間マデ他ノ一例ニ於テハ一時間マデノ僅カノ減少ヲ示シタレドモ、ソノ後注射前ノ數ヨリ増加セリ。残りノ一例ニテハ注射後一時間ニ於テノミ極メテ僅カノ減少ヲ示セリト雖、他ノ採血検査時ニハ注射前ヨリ増加セリ。以上ノ如ク「ツベルクリン」皮内注射ニヨル白血球數ノ動搖ハ著シキモノニアラズシテ而カモ病型ト一定セル關係ヲ認メ得ズ。又白血球數ノ動搖ト「ツベルクリン」皮内反應ノ強弱トハ相平行セズ。

其二 「ツベルクリン」皮下注射

前述ノ如ク「ツベルクリン」皮内注射ノ前後ニ於ケル白血球ノ動搖ハ著明ナラザルヲ以ツテ、次ニ同量ノ「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射シ同様ノ検査ヲ行ヒタリ。

一、 二十三歳

診断 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)七月突然咯血アリ。十月頃ヨリ咳嗽、喀痰増加シ咯血數同アリ。五年(一九三〇)六月十七日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十六日現在、體格中等度ナレドモ營養不良ナリ。兩肺殊ニ右肺下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、體溫三十六度六分乃至三十八度六分。咳嗽、喀痰甚ダシ。

六月二十五日、採血検査。「ツベルクリン」注射後白血球數ノ減少ヲ來タス。又注射後全身倦怠感アリテ三十九度八分ノ高熱ヲ發シ、心悸亢進ヲ訴フ。

二、 二七六歳

診断 兩側肺結核

大正十四年(一九二五)十一月、突然咯血アリ。以來微熱ト經度ノ咳嗽續ケリ。昭和二年(一九二七)八月十日、大阪市立刀根山病院入院。治療二箇月ニシテ輕快退院セシモ、昭和五年(一九三〇)三月再び高熱ヲ發シ、咳嗽、喀痰アリ。六月十七日再入院。二十六日現在、體格中等度、營養輕度ニ害セラル。兩肺上半部輕濁ヲ呈シ、呼吸音不純ニシテ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十七度四分、咳嗽、喀痰アレド食思比較的良好ナリ。

六月二十六日、採血検査。「ツベルクリン」注射後白血球數ノ減少ヲ來タス。

三、 十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十一月頃ヨリ全身倦怠感、微熱、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。五年(一九三〇)六月九日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十八日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。右肺上半部及左肺尖部濁音ヲ呈シ、呼吸音不純ニシテ殊ニ呼氣ノ延長アリ。體溫三十六度乃至三十七度。輕度ノ咳嗽アレドモ喀痰ナシ。食慾良。

六月二十八日、採血検査。「ツベルクリン」注射後著明ナル白血球數ノ増加ヲ來タス。

四、三十歳

診斷 兩側肺結核

昭和二年(一九二七)十一月頃ヨリ全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリ、三年(一九二八)正月少量ノ咯血アリ、以來病症一進一退ナリ、五年(一九三〇)六月二十日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十七日現在、體格中等、榮養稍々不良。右肺前面第四肋間腔以上、右肺第二肋間腔以上、背面右肺肩胛骨下角以上、左側尖部ニ於テ濁音ヲ呈シ、多數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十七度三分。咳嗽、喀痰アリ。

六月二十七日、採血検査。「ツベルクリン」注射後白血球數ノ減少ヲ來タス。

五、二十六歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)十一月ヨリ全身違和ノ感アリシガ十二月二十五日、突然咯血アリ。以來數回ノ咯血アリ、衰弱日ト共ニ加ハル。五年(一九三〇)六月二十日、大阪市立刀根山病院入院。兩肺全面輕濁、右上肺葉ニ鼓音ヲ呈スルトコロアリ、コノ部ニ氣管枝音ヲ聽キ、他ノ部ニ於テモ多數ノ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十七度八分。咳嗽、喀痰甚ダシク食思モタメニ害セラル。

六月二十七日、採血検査。「ツベルクリン」注射後白血球數ノ減少ヲ來タス。又注射後體溫ノ上昇アリテ三十八度五分ニ達シ、全身違和ノ感甚ダシク、心悸亢進ヲ訴フ。

以上結核患者五例ニ於ケル白血球數ノ動搖ハ第十三表ニ示ス。即表示スル如ク五例中一例ニ於テハ注射後白血球數ノ増加ヲ示シ、他ノ四例ニテ減少ス。而テソノ増減ハ皮内注射ノ場合ニ比シ稍々著明ナリト雖、ソノ度病態ノ輕重ニ一致スル如ク思ハレズ。又ソノ内一例ニ於テハ注射後全身倦怠感ヲ覺エ、高熱ヲ發シ、心悸亢進甚ダシク、爲ニ「カンフル」注射ヲナセリ。他ノ例ニテモ注射後體溫ノ上昇全身違和ノ感、心悸亢進ヲ訴ヘタリ。

I 皮下注射

被検者	診 断	注射回数	検査日	白血球数				
				前	30分	60分	90分	120分
1	両側肺結核	1	$29/6$ 1930	10.340	8.700	8.760	8.660	9.580
2	両側肺結核	1	$29/6$ 1930	5.780	5.680	3.540	5.280	8.000
3	両側肺結核	1	$29/6$ 1930	5.600	11.280	7.220	9.400	7.660
4	両側肺結核	1	$27/6$ 1930	13.180	11.380	9.000	10.120	9.540
5	両側肺結核	1	$27/6$ 1930	19.940	13.860	16.960	12.100	11.360

II 皮内注射

被検者	診 断	注射回数	検査日	白血球数				
				前	30分	60分	90分	120分
1	両側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$21/6$ 1930	6.920	5.800	7.080	8.940	7.860
2	両側肺結核	1	$21/6$ 1930	10.200	9.100	10.200	11.600	11.900
3	両側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	$21/6$ 1930	6.100	6.300	6.000	6.580	7.100
4	両側肺結核	1	$21/6$ 1930	10.780	8.040	9.420	11.210	11.200
5	両側肺結核	1	$21/6$ 1930	7.960	5.960	8.960	8.860	8.680

第二項 家兎ニ「ツベルクリン」皮内注射

結核患者ニ於テハ極メテ少量ノ「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射シテ既ニ不愉快ナル副作用ヲ呈スルモノアリ。余ハ比較的多量ノ「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射シタル際ソノ前後ニ於ケル白血球數ノ動搖ヲ觀察セントシ、次ノ動物實驗ヲ行ヒタリ。被験動物トシテ結核家兎五頭、健康家兎五頭ヲ撰ビタリ。検査方法ハ「AO」ノ場合ト同ジ。「ツベルクリン」ハソノ五倍稀釋液ヲ〇・一㏄皮下ニ注射シタリ。検査後ハロエマア氏反應ヲ檢シ、尙解剖ニ附シテ結核病竈ノ有無ヲ確メタリ。

其一 結核家兎

結核家兎第一號 昭和五年六月十三日、結核菌(ES株)一〇延靜脈内注入感染。七月八日體重、二・三七〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一㏄皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ減少ヲ來タシ、最大減少數ハ五・五二〇ニ達セリ。七月十一日ロエマア氏反應中等度陽性。七月十四日、解剖所見、右側腋窩淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ一個、右側鼠蹊淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ一個、肺門淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ四個、兩側各肺葉ニ粟粒大灰白色ノ結節多數發生ス。脾臟表面ニ黃色粟粒大結節數個。肝臟ニハ點大ノ黃色結節少數散在ス。腸間膜淋巴腺大豆大ヨリ豌豆大ニ腫脹セルモノ五個。右腎ニ一個ノ粟粒大結節ヲ認ム。

結核家兎第二號 昭和五年(一九三〇)六月十三日、結核菌(ES株)一〇延靜脈内注入感染。七月九日、體重二・八三〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一㏄ヲ皮下

ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ減少ヲ來タシ、ソノ最大減少數ハ一・五〇〇ニ達ス。七月十一日、ロエマア氏反應強陽性。七月十四日、解剖所見、兩側鼠蹊淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ各々一個。肺門淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ五個、兩肺各葉粟粒大ヨリ米粒大ニ至ル無數ノ結節發生シ、ソノアルモノハ乾酪變性ニ陥ル、肝臓ノ諸處ニ點大黃色結節數個。脾臓稍々肥大シ、黃色小結節少數散在ス。腸間膜淋巴腺大豆大ヨリ豌豆大ニ腫脹セルモノ五個。

結核家兎第三號 昭和五年六月三日、結核菌(ES株)一・〇廷靜脈内注入感染。七月九日、體重二・三七〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ減少ヲ來タシ、ソノ最大減少數ハ四・二四〇ニ達ス。七月十一日、ロエマア氏反應中等度陽性。七月十四日、解剖所見、左側鼠蹊淋巴腺小豆大ニ腫脹セルモノ一個。肺門淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ三個、兩肺各葉粟粒大ヨリ米粒大ニ至ル無數ノ結節發生シ、ソノアルモノハ相融合シテ大ナル結節ヲ作り、其一部ハ既ニ乾酪變性ニ陥ル。肝臓ニハ黃色ノ點狀ノ小結節少數發生ス。兩側腎臟表面ニ數個ノ小結節ヲ認ム。

結核家兎第四號 昭和五年六月十三日、結核菌(ES株)一・〇廷靜脈内注入感染。七月九日、體重二・四八〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ減少ヲ來タシ、ソノ最大減少數ハ三七二〇ニ達ス。七月十一日ロエマア氏反應中等度陽性。七月十四日、解剖所見、左側鼠蹊淋巴腺小豆大ニ腫脹セルモノ一個。肺門淋巴腺豌豆大ニ腫脹セルモノ三個、兩肺各葉粟粒大ヨリ米粒大ニ至ル無數ノ結節發生シ、ソノアルモノハ相融合シテ大ナル結節ヲ作り、ソノ一部ハ既ニ乾酪變性ニ陥ル。肝臓ニ黃色點狀ノ小結節少數發生ス。脾臓ニモ顆粒狀ノ結節少數散在ス。兩側腎臟ノ表面ニ數個ノ小結節ヲ認ム。

結核家兎第五號 昭和五年六月十三日、結核菌(ES株)一・〇廷靜脈内注入感染。七月九日、體重二・三五〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後半時間リ五二〇ノ増加ヲ示スモソノ後減少シ、最大減少數ハ一・二六〇ニ達ス。七月十三日、ロエマア氏反應中等度陽性。七月十四日、解剖所見、右側腋窩豌豆大ニ腫脹セルモノ一個。左側鼠蹊淋巴腺米粒大ニ腫脹セルモノ一個。肺門淋巴腺大豆大ニ腫脹セルモノ四個、兩肺各葉ニ粟粒大ノ結節無數ニ發生シ、ソノ一部ハ乾酪變性ニ陥ル。腸間膜淋巴腺大豆大ヨリ豌豆大ニ腫脹セルモノ四個。肝臓ノ諸處ニ黃色點狀ノ結節ヲ認ム。脾臓ノ表面ニ粟粒大ノ小結節三個アリ。左腎ノ表面ニ三個ノ小結節アリ。

以上結核家兎五頭ニ於ケル白血球數ノ動搖ハ第十四表ニ示ス。即「ツベルクリン」注射後白血球數ノ減少ヲ來タス。只結核家兎第五號ニテハ半時間目ニ輕度ノ増加ヲ示シタレドモ以後減少ス。

其二 健康家兎

健康家兎第一號 昭和五年七月七日體重一・九五〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増減不定。七月十一日、ロエマア氏反應陰性。七月十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第二號 昭和五年七月七日、體重二・一三〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珪ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ四二八〇ニ達ス。七月十一日、ロエマア氏反應陰性。七月十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第三號 昭和五年七月七日、體重二、一五〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珵ヲ皮下ニ注射シ、採血検査ス。注射後一時間半マテ白血球數ノ減少ヲ來タシ、ソノ最大減少數二、四二〇ニ達ス。二時間後ニ至リ、一六〇ノ増加ニ移行ス、七月十一日、ロエマア氏反應陰性。七月十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第四號 昭和五年七月七日、體重二、一〇〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珵ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後白血球數ノ増加ヲ來タシ、ソノ最大増加數ハ一五六〇ニ達ス。七月十一日、ロエマア氏反應陰性。七月十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

健康家兎第五號 昭和五年七月八日、體重二、四二〇瓦、稀釋「ツベルクリン」〇・一珵ヲ皮下ニ注射シ採血検査ス。注射後半時間ニテ一、六〇〇ノ減少ヲ來タシ以後増加シ、最大増加數ハ二、九二〇ニ達ス。七月十一日、ロエマア氏反應陰性。七月十四日、解剖所見、結核性病竈ヲ思ハシムルモノナシ。

以上健康家兎五頭ニ於ケル白血球數ノ動搖ハ第十四表ニ表ス。即健康家兎第二號第四號ニテハ始めヨリ増加シ、第一號ニテハ増減不定、第三號ニテハ始め一時間半後マデ減少シ、後ニ至リテ増加ス。第五號ニテハ半時間後ニ減少ヲ示シ、ソノ後増加ニ移行ス。

第十四表 家兎「ツベルクリン」注射
I 結核家兎

被檢家兎	注射回数	検査日	白血球數				
			前	30分	60分	90分	120分
1	1	7/7 1930	10,320	6,040	5,080	4,800	4,840
2	1	9/7 1930	5,820	5,240	5,560	4,320	4,680
3	1	9/7 1930	11,560	8,840	8,240	7,320	8,800
4	1	9/7 1930	11,700	8,920	8,360	8,120	8,040
5	1	9/7 193	7,980	8,500	6,720	5,640	7,200

II 健康家兎

被檢家兎	注射回数	検査日	白血球數				
			前	30分	60分	90分	120分
1	1	7/7 1930	5,000	12,740	15,640	14,900	15,960
2	1	7/7 1930	9,080	11,460	10,800	3,360	10,300
3	1	7/7 1930	0,720	8,800	8,300	9,560	1,880
4	1	7/7 1930	6,480	7,320	7,020	8,040	6,480
5	1	8/7 1930	9,160	7,560	10,120	10,320	2,080

以上ノ結核家兎及健康家兎ニ於ケル實驗成績ヲ概括スレバ次ノ如シ。結核家兎ニ於テハ五例中四例ハ注射後半時間ヨリ既ニ白血球數ノ減少ヲ示シタリ。只一例ニテ注射後半時間ニシテ輕度ノ増加ヲ示シ、後漸次減少セルヲ見ル。健康家兎ニ於テハ五例中ソノ二例ニテハ注射後三十分ヨリ増加シ他ノ一例ニテハ注射後半時間ニテ減少シ後漸次注射前ヨリ増加シ又他ノ一例ニテハ注射後一時間マデ減少シ、二時間後ニ至リテ漸ク注射前ヨリ増加ヲ示ス。殘リノ一例ニテハ増減不定ナリ。

「ツベルクリン」注射後ノ白血球數ハ減少ガ結核家兎ニ於テハ結核患者ニ於ケルヨリモ著明ニ現ハレタルハ惟フニ家兎ニ於テハ結核患者ニ於ケルヨリモ遙カニ大量ノ「ツベルクリン」ヲ使用シタルニ由ルナルベシ。然ルニコノ結核家兎ニ比較の著明ナル減少ヲ起サシムル「ツベルクリン」量ハ健康家兎ニ於テモ亦減少ヲ惹起セシメタルモノアリタリ。コノ事實ヨ

リ考フル時ハ結核家兎ニ於テ減少シ、健康家兎ニ於テ減少セザル適當量ハ之ヲ求ムルニ又困難ナルモノナリ。

第三項 本節ノ概括及考案

一、結核患者ニ「ツベルクリン」皮内注射ニヨリテハ白血球數ノ増減著明ナラズ。

二、結核患者ニ「ツベルクリン」皮下注射ノ場合ニハ皮内注射ノ場合ニ比シ、白血球數ノ増減稍々著明ナリト雖、ソノ増減ノ度ハ必ズシモ病態ノ輕重ニ一致セズ、即一定ノ型ヲ示サズ。加フルニ注射後全身倦怠感、發熱、心悸亢進等ノ不愉快ナル副作用ヲ伴フモノアリ。

三、結核家兎ニ於テハ結核患者ニ於ケルヨリモ遙カニ大量ノ「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射シタル場合ハ稍々著明ナル白血球數ノ減少ヲ來タセリ。コノ「ツベルクリン」量ハ健康家兎ニ於テモ亦輕度ノ減少ヲ惹起セシメタルモノアリ。サレド一般ニ健康家兎ニ於テハ結核家兎ニ比スレバ白血球數ノ増減不定ナルカ或ハ増加ヲ來タセリ。

茲ニ東西ノ文獻ヲ順ルニ「ツベルクリン」注射ノ影響ニヨル血液像ノ變化ニ關シテハ既ニ一八九一乃至一八九二年ニ於テ數人ノ研究家ノ検査セルトコロナリ。

却⁽³⁵⁾ ビシニフ Bischoff 及⁽²⁰⁾ グラヴィツ Grawitz ハ共同ノ研究ヲナシ、其ノ他⁽³⁶⁾ チストウイツチ Jschistowich フリオル Prior⁽³⁸⁾ ボトキン Botkin 及

⁽³⁹⁾ リーダー Rieder 等ノ諸氏ノ研究發表アリ。コンニヨルニ一般ニ「ツベルクリン」注射ニヨリ赤血球ハ影響ヲウクルコトナキモ白血球ハ殆ンド常ニ増加スルモノナリ。カ、ル増加ハ著シキモノニ非ズ、而カモ⁽²⁰⁾ グラヴィツ氏ハ又「ツベルクリン」注射ノ後ニ高度ノ「エオジン」嗜好細胞ノ増加ヲ認

メタリ。⁽¹⁰⁾ フオーコンチー Faucounet 氏モ亦「ツベルクリン」注射後白血球ノ増加ヲ來タストイフ。⁽⁴¹⁾ リンベック Limbeck 氏モ是等諸家ノ唱フル如ク「ツベ

ルクリン」注射後白血球ノ増加スルモノナリト言ヒ、同時ニ「エオジン」嗜好細胞ノ増加ヲ認メタリ。⁽¹²⁾ プレサムレン Bräsanlen 氏ハコツホ氏ノ著「ツベルク

リン」〇・二乃至一・〇延ヲ午前九時ニ注射シ九時、十二時、午後六時ニ採血検査シ、ソノ結論トシテ臨牀上健康ト認ムルモノニ於テハ「ツベルクリン」注射ニ

ヨリ血液像ニハ影響ナキモ結核患者ニ於テハ白血球増加ト共ニ「エオジン」嗜好白血球ノ増加ヲ來タス。而シテ「ツベルクリン」注射ノ際ニ見ル「エオジン」嗜

好白血球増加ハ「アナフィラキシー」ノ結果ナリト解シ、個體ノ防禦反應ナリト言ヘリ。我が國ニテハ⁽⁴³⁾ 加來氏が海狸ニ少量ノ「ツベルクリン」ヲ注射シテ、

注射後一時間毎ニ七回ノ採血検査ヲナセル成績ニヨルバ、結核海狸ニテハ注射後直ニ白血球ノ増加ヲ見、而シテ主トシテ多核白血球ノ増加ニヨルモノトシ、

淋巴球ハ却ツテ減少スト言フ。然ルニ健康海狸ニ於テハ一時的白血球ノ減少ノ後ニ増加スルモノナリト述ブ。⁽⁴⁴⁾ 野尻氏ハ「チフス」死菌、赤痢死菌、又ハ健

康馬血清ヲ以テ前處置シタル結核及健康家兎ニ大量ノ「ツベルクリン」ヲ靜脈内ニ注射シ、色々ノ検査ヲ行ヒタリ。ソノ成績ニヨルバ結核家兎ニ於テハ注射後

二時、四時、八時ニ於テ白血球數ノ減少ヲ見、コレ主トシテ淋巴球ノ減少ニヨルモノニシテ假性「エオジン」嗜好細胞ハコノ時期ニ於テ百分率ニ於テ著明ニ、

絶對數ニ於テハ稍々増加ス。注射後二四時、四八時ニ白血球數ノ増加ヲ認メ、一ノ時期ニハ假性「エオジン」嗜好細胞及淋巴球ノ増加ヲ見ル。反之健康家兔ニ於テハ注射後二時、四時、八時ニ白血球數ノ増加ヲ示ス。而シテコレ主トシテ假性「エオジン」嗜好細胞ノ増加ニヨルモノニシテ淋巴球及ソノ他ノ細胞ハ特記スベキ變化ヲ認メズト言ヘリ。

斯クノ如クニシテ「ツベルクリン」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ關シ諸家ノ報告スルトコロノ成績甚ダ區々ニシテ歸一スル所ナシ。コレ惟フニ検査時間、「ツベルクリン」注射量「ツベルクリン」製劑、「ツベルクリン」純度、其他ノ事情ニ關係スルモノナラン。サレド野尻氏ノ成績ト余ノ成績トハ「ツベルクリン」注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ關シテ一暗示ヲ與フルモノナランカ、即「ツベルクリン」ニ於テ生體ニ對スル作用一定セル眞ノ標準液ヲ得タランニハ之ヲ以テ検査セバ結核患者ニ於テ白血球數減少シ、然ラザル者ニテ増加スル一定ノ型ヲ得ラルベキヤモ知レズ。然レドモカ、ル製劑ハ望ミ得ラルベシト思ハレズ。又周知ノ如ク「ツベルクリン」注射ニヨリ全身倦怠感、體溫ノ上昇、頭痛、心悸亢進等ノ不愉快ナル副作用ヲ伴フコト屢々ナルヲ以ツテ實際ニ於テ臨牀上ノ應用ニハ適セズ。

第三章 結核非特異性物質注射ニヨル白血球數ノ動搖ニ關スル臨牀的觀察

以上述ブルトコロヨリ明カナル如ク結核特異性物質ナル「AO」ヲ注射シタル場合ニハ、結核患者ト非結核者トノ間ニ於テソノ白血球數ノ動搖ニ截然タル差異ヲ認メタリ。又「ツベルクリン」注射ノ場合モ類似ノ反應ヲ呈スルコトヲ確メ得タリ。

然ラバ結核非特異性物質ヲ注射シタル場合ハ如何。コレヲ檢索スルハ上述ノ白血球反應ノ特殊性ヲ證明スル一端トナリ得ベシ。

(45) オット、ザイトレル Otto Seidler 氏「ヤトレン、カゼイン」一〇珪ヲ空腹時午前八時ニ皮下ニ注射シ、ソノ直前一回及注射後四時間、十時間ニ二回ノ採血検査ヲナシタリ。ソノ成績ニヨレバ非活動性肺結核ニ於テハ注射後僅カニ白血球數ノ増加ヲ來タス、コレ主トシテ中性嗜好性白血球ノ増加ニヨルモノニシテ、「エオジン」嗜好性白血球ハ注射後四時間ニ於テ減少シ、十時間ニ於テ再び増加ノ傾向ヲ示ス。活動性肺結核ニ於テハ注射後白血球數ノ著明ナル増加ヲ來タスコレ主トシテ中性嗜好性白血球ノ増加ニヨルモノニシテ、「エオジン」嗜好性白血球モ亦ソノ絶對數ニ於テ増加スト述べタリ。(46) ブレーザムレン Brosamlen 氏ハ各種ノ慢性傳染病ニ數種ノ「ワクチン」ヲ注射シ、血液ノ變化ヲ檢セシニ、各種注射後殆ンド規則的ニ多少著明ナル白血球數ノ増加ヲ認メ、只

少數例ニ於テ注射直後ニ白血球數ノ減少ヲ來タシ、後増加ヲ示セルモノアリト言ヘリ。⁽⁴⁴⁾野尻氏ハ結核家兎及健康家兎ニ「チフス」死菌一〇廷ヲ靜脈内ニ注射スル時ハ二時間後ニハ兩者共ニ著明ナル白血球數ノ減少ヲ來タシ、四時間目ニハ稍々増加スルモ尙注射前數ニ達セズ、八時間後ニハ稍々著明ナル白血球數ノ増加ヲ示ス。カクノ如キ變化ハ假性「エオジン」嗜好細胞ニヨルモノニシテ、淋巴球ハ注射後一時間目ニ稍々減少スルモ著明ナラズ。「エオジン」細胞ハ注射後一時消失スルモ後ニ至リテ再現ス。鹽基性細胞ニハ著變ナク、大單核細胞及移行型ハ注射後八—二四—四八時間ニ稍々著明ニ増加セルヲ認ム。「チフス」死菌一〇〇一廷ヲ注射セル場合ハ注射後二時間ヨリ既ニ僅カニ白血球數ノ増加ヲ來タシ四乃至八時間後ニハ稍々著明ニ増加シ、二四時後ニハ殆ンド注射前ノ數ニ復ス。是等ノ變化ハ結核特異性抗原注射ニ於ケルガ如ク結核家兎ト健康家兎トニ於テ差異ヲ認ムルコトヲ得ズト言ヘリ。⁽⁴⁷⁾大橋、布施兩氏ハ二〇%卵蛋白液ヲ健康成熟家兎ノ靜脈内ニ體重一廷ニ就キ一〇五廷ヲ注射スレバ、白血球數ハ一時減少シ、次テ一時間乃至一時間半後ニシテ急劇ニ約倍數ノ増加ヲ來タス、又三〇%酵母「スクレイン」酸「ナトリウム」液ヲ健康成熟家兎ノ靜脈内ニ、體重一廷ニ就キ一〇五・五廷ノ割ニ注射スル時ハ、注射後一時間乃至一時間半マデハ減少シ、後増加ヲ呈シ、約二倍乃至三倍ニ達スト言ヘリ。⁽⁴⁸⁾赤岩氏ハ生理的食鹽水三〇〇乃至八〇〇廷ヲ皮下ニ注射スル時ハ、注射後一乃至二時間ニシテ白血球數ノ減少ヲ來タシ、ソノ後増加シ、四乃至八時間後最高ニ達シ、一〇乃至二四時間後ニハ略注射前ノ數ニ歸ル。而シテ桿狀核中性白血球ハ注射後増加シ、分核白血球ハ一乃至二時間後マデ減少シ、其後増加ス。淋巴球ハ注射後中性嗜好白血球ト殆ンド反對ノ増減ヲナスト述ブ。

余ハ結核非特異性物質トシテ生理的食鹽水一〇・五%石炭酸加生理的食鹽水、「AO」中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノ「ヤトレン」及「ヒリン」ヲ用ヒ次ノ檢索ヲナセリ。

第一節 檢査方法及檢査材料

生理的食鹽水、「ヤトレン」及「ヒリン」ハ各一〇・五%、石炭酸加生理的食鹽水ハ「AO」ト等シク體重五〇・〇廷ニ就キ一〇五ノ割ニテ皮下ニ注射シ、「AO」ノ場合ト同一條件ノモノトニ同様ノ檢査ヲ行ヒタリ。檢査材料トシテハ武谷内科入院患者、武谷内科看護婦及大阪市立刀根山病院入院患者總計三十五名ヲ用ヒタリ。

第二節 生理的食鹽水ヲ以ツテセル試驗(對照)

結核患者五名ニ生理的食鹽水一〇五ヲ皮下ニ注射シ採血檢査ス。

一、 (カ) 二十一歳

診斷 兩側肺結核

大正十四年(一九二五)以來全身倦怠感、微熱、咳嗽、喀痰アリテ時ニ胸痛ヲ訴フ。昭和二年(一九二七)十二月、大阪市立刀根山病院入院。昭和五年五月二十七日現在、體格中等度ナレドモ榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ、左肺上半部、輕濁、呼吸音不純ニシテ、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、左肺前面肺尖部、背面肩胛骨下隅以上輕濁ヲ示シ呼吸延長シ、且ツ粗銳又少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度六分乃至三十七度五分、咳嗽、喀痰アリ。

二、**〔刀〕** 十五歳

昭和四年(一九二九)三月以來、微熱、胸痛、咳嗽、喀痰アリ。十一月二十八日、大阪市立刀根山病院入院。五年五月二十七日現在、體格中等、榮養佳良。兩側肩胛骨間腔中央以上吸氣粗ニシテ、呼吸延長シ且ツ銳ナリ。體溫三十七度内外。咳嗽、喀痰殆ンドナシ。

三、**〔刀〕** 二十二歳

診斷 兩側肺結核

十九歳(一九二七)ノ時ニ突然咯血アリ。同年七月、大阪市立刀根山病院入院。二十二歳ノ六月殆ンド治癒ノ狀態ニテ退院ス。昭和四年(一九二九)再び發熱、咳嗽、喀痰アリテ、時ニ咯血ヲ伴フ。十一月二十一日入院、昭和五年五月二十七日現在、體格虛弱ニシテ榮養又不良。兩肺上半部輕濁、或ハ中等度濁音ヲ呈シ、呼吸音粗烈、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度五分乃至三十七度二分、輕度ノ咳嗽喀痰アリ。

四、**〔刀〕** 二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)ノ春頃カラ全身倦怠感、發熱、咳嗽、喀痰アリテ肺結核ト診斷サル。四年九月七日、大阪市立刀根山病院入院。五年七月二十七日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラル。兩肺上葉殊ニ左肺ニ於テ濁音ヲ呈シ、無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十八度。咳嗽、喀痰アリ。

七月二十七日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ減少ヲ來タス。

五、**〔刀〕** 三十歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和三年(一九二八)六月右側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ、數旬ニシテ治癒ス。然レドモ十一月ニ入りテ發熱、咳嗽、喀痰、盜汗アリテ、肺結核ト診斷サル。四年六月五日大阪市立刀根山病院入院。五年五月十七日現在、體格強、榮養輕度ニ害セラル。右胸部殊ニ下部ニ於テ、濁音抵抗ヲ示シ、「ラッセル」ヲ聽ク。左肺

上半部又輕濁ヲ呈シ、多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度七分乃至三十八度六分、咳嗽、喀痰アリ。
五月十七日、採血検査、注射後一時間マテ極メテ僅カノ白血球數ノ減少ヲ示シ、ソノ後注射前ヨリ増加ス。

第十五表 生理的食鹽水注射

被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 査 日	白 血 球 數					被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 査 日	白 血 球 數				
				前	30分	60分	90分	120分					前	30分	60分	90分	120分
1	兩側肺結核	1	5/5 1930	7,400	9,380	9,340	10,500	9,600	4	兩側肺結核	1	5/5 1930	8,660	8,600	6,800	7,400	7,560
2	兩側肺結核	1	5/5 920	6,320	6,420	8,100	6,840	9,200	5	兩側肺結核、右側肺實質性肋膜炎	1	5/5 1930	6,900	6,840	6,460	10,140	9,200
3	兩側肺結核	1	5/5 1930	8,910	8,470	7,400	9,540	7,760									

以上結核患者五例ニ於ケル検査成績ハ第十五表ニ示ス。即五例中二例ニ於テハ生理的食鹽水注射後白血球數ノ増加セルヲ、一例ニ於テハ減少セルヲ認ムルモ殘リノ二例ニ於テハ、始め減少ヲ示シ後ニ増加ス。即生理的食鹽水一〇㏄ヲ皮下ニ注射スルコトニヨル白血球數ノ動搖ハ増減輕度ニシテ而モ一定セル型ヲ示サズ。

第三節 〇・五%石炭酸加生理的食鹽水ヲ以ツテセル試驗(對照)

〇・五%石炭酸加生理的食鹽水(既「AO」中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノ)ヲ皮下ニ注射シ、ソノ前後ニ於ケル白血球數ノ動搖ヲ觀察ス。検査材料トシテ大阪市立刀根山病院入院患者十名ヲ用ヒタリ。而シテコレ等ハ先ヅ何等處置セズシテ採血検査シ、白血球數ノ動搖ノ極メテ輕度ナルヲ確メ(第一表參照)、前検査ト病狀其他ノ條件略々相等シキモノヲ選ビ、前検査ヲ隔ル二乃至五日以内ニ於テ、二例ノ外ハ總テ前検査ト同一時間ニコレヲ行ヒタリ。注射量ハ「AO」ノ場合ト同じク體重五〇・㏄對一〇㏄ノ比ヲ以ツテセリ。検査方法ハ全ク「AO」ノ際ニ於ケルト同様ナリ。

一、 四十二歳

診斷 兩側肺結核、左側滲出性肋膜炎

昭和三年(一九二八)三月發熱シ、全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリテ、大阪市同生病院ニテ左側滲出性肋膜炎、兩側肺炎加答兒ト診斷サル。カクテ入院治療一箇

年半ニ至ルモ治癒セズ。六年三月二十三日、大阪市立刀根山病院入院。入院以來病態増悪シ、榮養亦害セラル。五月十二日、肋膜滲出液五六〇珄排除。六月十六日現在體格中等、榮養不良、稍く貧血ナリ。兩肺輕濁、左胸部第三肋骨以下濁音抵抗ヲ示シ、ソノ上界ニ摩擦音ヲ聽ク。又兩肺ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽診ス。左側肋膜ノ移動高度ニ害セラル。體溫三十七度乃至三十八度、咳嗽、喀痰アレド食思比較的良好ナリ。

六月十六日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。

二、三十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年（一九二八）九月頃ヨリ發熱シ、又喀痰中ニ血液ヲ混ズ。ソノ後引續キ微熱ト輕度ノ咳嗽、喀痰アリテ自宅ニ於テ靜養セリ。五年三月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度四分乃至三十八度四分。入院後一時輕快ニ赴キシモ七月始メヨリ急ニ體溫上昇シ、咳嗽、喀痰増加シ、一般狀態不良ニ傾キ喀血數回ニ及ブ。六年六月十六日現在、體格中等、榮養不良、稍く貧血ナリ。兩肺輕濁ヲ呈シ殊ニ右胸下部ニ於テ濁音甚ダシク、肋膜ノ移動モ亦不良ナリ。各所ニ稍く多數ノ「ラツセル」ヲ聽診ス。體溫三十六度四分乃至三十七度四分、咳嗽、喀痰アレド食思比較的良好ニシテ病症稍く休止ノ狀態ニ傾ケリ。六月十六日、採血検査。注射後極メテ僅カノ白血球數ノ減少ヲ來タス。

三、十九歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年（一九三〇）十月、咳嗽、喀痰アリ、發熱三十八度内外ニ達シ、發汗亦甚ダシ、十日餘ニシテコレヲノ諸症狀輕快シタレドモ全ク健康ト言フニアラズ。六年一月以來食思減退シ、全身違和ノ感アリテ榮養狀態漸次不良トナル。二月二十日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度乃至三十七度九分、極度ノ咳嗽、喀痰アリ。六月十六日現在、體格中等、榮養普通。兩肺諸所ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聽キ、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。體溫三十六度乃至三十七度九分。食思普通。六月十六日、採血検査。注射後輕度ノ不定ノ白血球數ノ動搖ヲ示ス。

四、三十六歳

診斷 兩側肺結核、喉頭結核

昭和二年（一九二七）一月以來全身倦怠感、輕度ノ咳嗽、喀痰ヲ訴フ。三年七月四日大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度乃至三十七度八分、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。四年七月頃ヨリ病狀増悪ス。十二月ニ至リ輕快セシモ六年一月下旬ヨリ再び症狀急變シ全身所見甚ダシク害セラレ體溫上昇シ、咳嗽、喀痰又増加シ、數回ノ喀血アリ。又ソノ頃ヨリ聲音嘶啞ヲ訴フ。六月十六日現在、體格中等、榮養稍く不良。兩肺全面輕濁ヲ呈シ、諸處ニ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十八度、盜汗アリテ睡眠亦害セラル。咳嗽、喀痰アリ。六月十六日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。

五、三十歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)十月發熱シ、全身違和ノ感甚ダシク、右側滲出性肋膜炎ト診斷サル。三箇月餘ニシテ輕快シ普通ニ近キ勤務ヲナセシガ四箇月餘ニシテ再ビ發熱シ、咳嗽、咯痰、盜汗ヲ伴フ。五年九月二十三日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度七分乃至三十七度八分、咳嗽、咯痰甚ダシ。十月中旬、腹膜炎ヲ併發セシガ四箇月餘ニシテ治癒ス。六年六月十六日現在、體格中等、榮養不良、稍貧血ナリ。兩肺輕濁ヲ呈シ、殊ニ右胸下部ニ於テ濁音甚ダシク、同側肋膜ノ移動不良ナリ。諸處ニ多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、體溫三十六度乃至三十九度。咳嗽、咯痰アリテ食思不良ナリ。

六月十六日、採血検査。注射後輕度ノ不定ノ白血球數ノ動搖ヲ示ス。

六、二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)五月全身倦怠感、頭痛、咳嗽等ノ諸症狀アリシカバ自宅ニテ靜養ヲ續ケタリ。七月七日、突然咯血アリシガ、ソレ以來數日間咯血持續セリ。六年二月十四日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度乃至三十八度七分、咳嗽、咯痰甚ダシク以來十數回ノ咯血アリ。六月十六日現在體格中等、榮養不良ニシテ皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全面濁音ヲ呈シ、呼吸音ハ或ル部ニ於テ粗銳、或ル部ニ於テ微弱トナリ、諸所ニ無數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十九度、咳嗽、咯痰多クシテ食思睡眠爲ニ害セラル。六月十六日、採血検査。注射後輕度ノ不定ノ白血球數ノ動搖ヲ示ス。

七、二十五歳

診斷 兩側肺結核、右陳舊性肋膜炎

昭和二年(一九二七)二月持痰ノ手術ヲ受ケ治癒ス。翌年六月右側滲出性肋膜炎ニ罹リシガ約一箇年ニシテ治癒ス。然ルニ五年十月ヨリ全身倦怠感アリテ微熱、咳嗽、咯痰ヲ伴フ。六年一月二十三日、大阪市立刀根山病院入院。入院時盜汗甚ダシク體溫三十六度二分乃至三十七度五分ニシテ輕度ノ咳嗽、咯痰アリ。入院以來病症稍増惡ス。六月十七日現在、體格中等、榮養普通。右胸部ニ於テ濁音抵抗ヲ呈シ、呼吸音微弱ニシテ肋膜ノ移動不良。左肺一般ニ呼吸音粗銳ニシテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク、體溫三十六度六分乃至三十七度九分、時々盜汗アリ。咳嗽、咯痰輕度ナレドモ食思稍不良ナリ。

六月十七日、採血検査。注射後一時間マテ輕度ノ白血球數ノ減少ヲ示シ後注射前ヨリ増加ス。

八、二十四歳

診斷 兩側肺結核

昭和二年(一九二七)七月頃ヨリ全身倦怠感及食思不振ヲ訴ヘ、時折輕度ノ咳嗽、咯痰アリ。以來自宅ニテ靜養ヲ續ケタリシガ治癒ニ至ラズシテ、三年十月二十四日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度二分乃至三十七度六分ニシテ輕度ノ咳嗽、咯痰アリ。六年六月十七日現在、體格中等、榮養稍不良

ニシテ皮膚貧血蒼白ナリ。右肺輕濁ヲ呈シ呼吸音微弱ナリ。反之左肺ハ一般ニ呼吸音粗銳ニシテ少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度四分乃至三十七度六分ニシテ輕度ノ咳嗽喀痰アリ。食思不良。

六月十七日、採血検査。注射後半時間ニ於テ極メテ僅カノ白血球數ノ減少ヲ示シ、一時間後ニ注射前數ニ達シ、ソノ後輕度ノ増加ヲ示ス。

九、二十三歳

診斷 兩側肺結核、脊椎「カリエス」

大正十四年（一九二五）一月脊椎「カリエス」ニ罹リシガ今日ニ至ルモ尙治療ニ至ラズ。昭和四年（一九二九）四月頃ヨリ微熱ト輕度ノ咳嗽、喀痰ヲ訴フ。五年四月以來數回ノ咯血アリ。七月十六日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度乃至三十七度四分ニシテ輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。六年六月十七日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラレ、稍々貧血ナリ。兩肺殊ニ下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、少數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。胸椎下部畸形ヲ呈スルモ壓痛甚ダシカラズ、右側胸部ニ癭孔殘存ス。體溫三十七度以下ニシテ咳嗽、喀痰殆ンドナク食思良ナリ。六月十七日、採血検査。注射後白血球數ノ減少ヲ來タス。

一〇、三十歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年（一九二九）九月以來輕度ノ咳嗽、喀痰ヲ伴フ。十一月ニ至リ數回喀痰中ニ血液ヲ混ズ。五年三月五日、大阪市立刀根山病院入院。入院時體溫三十六度五分乃至三十七度八分ニシテ輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。ソノ後一時輕快ニ赴キシモ八月中旬ニ咯血シテ以來病症頓ニ増惡シタリ。六年六月十七日現在、體格中等、榮養高度ニ害セラレ皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺輕濁ヲ呈シ諸處ニ稍々多數ノ「ラッセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十八度五分ニシテ咳嗽、喀痰稍々多量ナリ。盜汗アリテ睡眠害セラレ食思不良ナリ。六月十七日、採血検査。注射後白血球數ノ不定ノ動搖ヲ示ス。

以上結核患者十例ニ於ケル白血球數ノ動搖ハ第十六表ニ示ス如シ。即十例中一例ニ於テ注射後稍々高度ノ白血球數ノ減

第十六表 ○・五%石炭酸加生理的食鹽水注射

被檢者	診 斷	注 射 回 數	檢 査 日					被檢者	診 斷	注 射 回 數	白 血 球 數						
			前	白 血 球 數							前	白 血 球 數					
				30分	60分	90分	120分					30分	60分	90分	1.0分		
1 ■	兩側肺結核、左 側參出性肋膜炎	1	¹⁶ / ₉₃₀	5.240	5.880	7.160	5.880	5.680	4 ■	兩側肺結核	1	7.700	7.800	7.400	9.260	7.780	
2 ■	兩側肺結核、左 側參出性肋膜炎	1		13.620	13.440	2.700	13.140	12.880	5 ■	兩側肺結核、右 側參出性肋膜炎	1		7.080	11.820	7.700	8.120	8.100
3 ■	兩側肺結核	1		8.750	8.940	8.540	9.300	7.320	6 ■	兩側肺結核	1	¹⁶ / ₁₀₃₀	10.280	11.380	12.020	10.100	10.380

7	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1 ¹⁷ / ₁₆ 9.30	5.0.20	4.7.60	4.2.60	5.3.40	5.6.00	9	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	11.8.80	10.1.80	9.0.20	8.7.20	8.1.80
8	兩側肺結核	1	5.4.80	5.2.20	5.4.80	6.0.60	7.9.60	10	兩側肺結核	1	12.2.00	9.8.80	12.7.20	.6.00	1.8.00

少ヲ呈シ、二例ニ於テハ多少ノ白血球數ノ増加ヲ呈シタレドモ其動搖ハ著シカラズ。他ノ六例ニ於テハ注射ヲ用ヒザル場合ト略々相等シ。即十例中一例ヲ除イテハ「AO」注射ノ際ニ於ケルガ如キ動搖ヲ現ハサズ。

第四節 「ヤトレン」ヲ以ツテセル試驗(對照)

「ヤトレン」ハ「オキシ沃度キノリン、ズルフオン」酸ニシテ、獨逸「ベーリング」會社ノ製品ナリ。ソノ一〇耗ヲ結核患者五名、非結核者五名ニ於テ皮下ニ注射シ採血検査ス。

第一項 結核患者

一、 (刀) 十九歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)十月結核性腹膜炎ニ罹リ數旬ニシテ治癒ス。然ルニ五年正月頃ヨリ再び微熱、咳嗽、喀痰、全身倦怠感アリ。二月十五日、大阪市立刀根山病院入院。六月十七日現在、體格中等、榮養不良ニシテ、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺殊ニ右側下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、諸處ニ「ラツサル」ヲ聽ク。右側肋膜ノ移動不良ナリ。體溫三十七度乃至三十九度。咳嗽、喀痰アリ。六月十七日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ來タス。

二、 (刀) 二十歳

診斷 兩側肺結核

昭和五年(一九三〇)二月頃ヨリ全身違和ノ感、微熱、咳嗽、喀痰アリ。一時カ、ル症狀輕快セシモ、五月ニ入リテ再び増惡ス。六月十九日現在、體格中等。榮養不良、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺全葉殊ニ兩肺尖部ニ於テ濁音ヲ呈シ、諸處ニ「ラツサル」ヲ聽ク。體溫三十六度二分乃至三十八度。食思不振、咳嗽、喀痰アリ。六月十九日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ來タス。

三、 (刀) 三十五歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)十二月以來、微熱、咳嗽、喀痰アリテ、時ニ血液ヲ混ズ。以來カ、ル症狀一進一退ナリ。四年五月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。

昭和五年六月十九日現在、體格中等ナレドモ、榮養高度ニ害セラル。兩肺全葉殊ニ右上肺葉ニ於テ輕濁ヲ呈シ、「ラツヤル」ヲ聽ク。體溫三十七度五分乃至三十八度、咳嗽、喀痰多シ。七月十九日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ來タス。

四、 (万) 二十四歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和三年(一九二八)六月頃ヨリ發熱、咳嗽、喀痰アリテ、肺結核ト診斷セラル。ソノ後病症一進一退ナリ。五年三月三十一日、大阪市立刀根山病院入院。六月十九日現在、體格中等。榮養高度ニ害セラル。兩肺全葉殊ニ右肺ニ於テ濁音ヲ呈シ無數ノ「ラツヤル」ヲ聽ク、右側肋膜ノ移動不良ナリ。體溫三十六度二分乃至三十七度六分。咳嗽、喀痰甚ダシク、爲ニ食思高度ニ害セラレ、衰弱日ト共ニ加ハル。六月十九日、採血検査。注射後漸次白血球數ノ減少ヲ來タス

第十七表 A 「ヤトレン」注射

被檢者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數					被檢者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數				
				前	30分	60分	90分	120分					前	30分	60分	90分	120分
				1930	1930	1930	1930	1930					1930	1930	1930	1930	1930
1	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	1930	12,000	14,860	15,780	16,700	16,210	3	兩側肺結核	1	1930	5,480	5,960	5,680	6,320	6,100
2	兩側肺結核	1	1930	7,520	7,660	8,020	8,010	8,100	4	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	1930	6,400	6,360	5,380	5,210	4,920

以上結核患者四例ニ於ケル白血球數ノ動搖ハ第十七表 A ニ示ス。即五例中榮養高度ニ害セラレ衰弱甚ダシキ一例ニ於テノミ「ヤトレン」注射後白血球數ノ減少ヲ認メタレドモ他ノ四例ニ於テハ注射後白血球數ノ増加ヲ認メタリ。

第二項健康者及非結核者

一、 (武) 二十歳

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和六年七月二十四日現在、體格中等、榮養良。肺臟ソノ他ニ特記スベキモノナシ。

七月二十七日、肺ノレ線寫眞所見特記スベキモノナシ。七月二十四日採血検査。注射後半時間ニ於テ僅カニ白血球數ノ減少ヲ示セルモソノ後注射前ヨリ増加ス。

二、 (武) 二十歳

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和六年七月二十四日現在、體格中等、榮養普通。肺臟ソノ他ニ特記スベキモノナシ。

七月二十七日、肺ノレ線寫眞所見、兩側肺門陰影擴大ス。七月二十四日、採血検査。注射後半時間ニ極メテ僅カノ減少ヲ示シタレドモソノ後注射前ヨリ増加ス。

三、 (武) 二十四歳

生來健康ニシテ著患ヲ知ラザリシガ昭和五年六月初旬以來咳嗽、熱感、輕度ノ盜汗アリテ疲勞シ易シ。七月十九日武谷内科入院。體格中等、榮養良。兩肺上半野ニ於テ呼吸音粗銳ニシテ右側肩胛骨下隅附近ニ於テ少數ノ捻髮音ヲ聽診ス。肋膜ニ異常ヲ認メズ。咳嗽アレドモ喀痰殆ンドナシ。體溫三十六度八分乃至三十七度九分。食思普通ナリ。二十日、肺ノレ線寫眞所見、兩側増殖性纖維性肺結核。入院以來經過良好ニシテ十月十七日、自他覺的ニ著變ナク退院轉地療養ス。而シテ十一月二十一日ヨリ再び武谷内科看護婦トシテ普通ノ如ク勤務ヲ續ケ今日ニ至ル。昭和六年七月二十四日現在、體格中等、榮養普通。右肺上部ニ於テ呼吸音微弱ナル外、自他覺的ニ異常ヲ認メズ。七月二十七日、肺ノレ線寫眞所見。兩側纖維性増殖性肺結核。七月二十四日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ來タス。

四、 (武) 六十三歳

診斷 膽囊炎

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ、昭和六年六月二十九日、突然右季肋部ニ劇シキ疼痛ヲ發シ、注射ヲ受クルコト二回ニシテ漸ク輕快シタリ。以後數日ノ間隔ヲ置テ二回ノ疼痛發作アリ。數日前ヨリ輕度ノ黃疸ヲ認ム。七月十三日武谷内科入院。體格中等、榮養普通。肺臟心臟ニ異常ヲ認メズ。肝臟ハ稍々肥大シ右側季肋部下ニ横指幅觸知シ、ソノ下緣ニ膽囊ヲ思ハシムル腫物ヲ觸診シ、壓痛甚ダシ。入院以來發熱ヲ伴ヒテ二回ノ發作アリ。食思稍々不良。七月二十四日、採血検査。注射後僅カニ白血球數ノ増加ヲ來タス。

五、 (武) 三十九歳

診斷 糖尿病

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。二年前ヨリ仕事ノ折ニ全身倦怠ヲ感ズルニ至レリ。尿意頻數ナレトモ特ニ渴ヲ訴フルコトナシ。昭和六年七月二十一日、武谷内科入院。體格中等、榮養普通。肺臟及心臟ニ異常ヲ認メズ。尿中糖ヲ證明ス、食思良。七月二十七日、肺ノレ線寫眞所見、右側肺門陰影擴大、左肺上方ニ向フ氣管枝線條稍々著明。七月二十三日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ來タス。

被檢者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數					被檢者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數				
				前	30分	60分	90分	120分					前	30分	60分	90分	120分
1	健 康	1		5,900	5,820	6,400	6,460	6,060	4	膿 瘍	1	1931	6,310	6,560	6,480	6,520	6,540
2	健 康	1		5,400	4,880	5,900	6,180	7,160	5	腎 尿 病	1		9,680	7,840	7,800	8,480	8,780
3	健康(既往症アリ)	1		4,580	4,820	5,220	5,470	6,200									

以上五例ノ検査成績ハ第十七表Bニ示ス。即二例ニ於テ注射後半時間ニ於テ極メテ僅カノ白血球數ノ減少ヲ示シ後注射前ヨリ増加セルモ他ノ三例ニ於テハ注射後三十分ヨリ既ニ白血球數ノ増加ヲ來タス。ソノ一例ハ結核性疾患ノ既往症ヲ有シ、検査時自他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者ナリ。

第五節 「ヒリン」ヲ以ッテセル試験(對照)

「ヒリン」ハ鹽基性反應ヲ呈シ、孔白色ニ濁濁セル液體ニシテ主トシテ蛋白膜ニヨリテ被包サレタル無數ノ脂肪體小顆粒ヨリ成ル。ソノ微細ナルコト赤血球ノ數十分ノ一ニシテ顯微鏡油浸裝置ヲ以ッテスルモ尙ソノ分子運動ニヨリ辛ジテコレヲ見出シ得ル程度ノモノナリ。化學的成分トシテハ多量ノ脂肪及類脂肪ノ外、蛋白竝ニ含水炭素ヲ含有ス。尙血糖竝ニ血壓降下物質ヲ含ム(醫學博士森半兵衛氏)。ソノ一〇珉ヲ結核患者五名ニ皮下ニ注射シ採血検査ス。

第一項 結核患者

一、 (カ) 二十七歳

診斷 兩側肺結核

昭和三年(一九二八)以來、咳嗽、喀痰アリテ時々血痰ヲ交ヘ全身倦怠感、微熱アリ。五年(一九三〇)六月二十四日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十八日現在、體格中等、榮養普通。左肺全面及右肺上半部ニ於テ輕濁ヲ呈シ、諸處ニ「ラツセル」ヲ聽ク。體溫三十六度乃至三十七度三分、輕度ノ咳嗽、喀痰アレド食思良好ナリ。六月二十八日、採血検査、注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。

二、 (カ) 二十四歳

診斷 兩側肺結核、腸結核、結核性腹膜炎

昭和四年(一九二九)六月頃ヨリ全身倦怠感、咳嗽、喀痰アリテ、時ニ血液ヲ混ズ。九月ニ赤痢ニ罹リ爲ニ衰弱高度ニ加ハル。赤痢治癒後ト雖、下痢ハ依然トシテ治セズ、一日十數回ニ達ス。五年六月二十四日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十八日現在、體格中等ナレドモ榮養高度ニ害セラレ、皮膚貧血蒼白ナリ。兩肺輕濁殊ニ上肺野ニ於テ、鼓音ヲ呈スルトコロアリ。コノ部ニ氣管枝音ト共ニ「ラツセル」ヲ聴ク。腹部緊張、輕度ノ膨隆ヲ認メ、又壓痛アリ。體溫三十七度乃至三十八度。咳嗽、喀痰甚ダシク、食思全ク害セラレ、加フルニ一日十數回ノ下痢ヲ伴フ。六月二十八日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ減少ヲ來タス。

三、(刀) 三十五歳

診斷 兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎

昭和四年(一九二九)夏、右側乾性肋膜炎並ニ結核性腹膜炎ノ診斷ノモトニ、大阪赤十字病院ニ入院、治療五箇月餘ニシテ殆ンド治癒ノ狀態ニテ退院ス。然ルニ五年四月ヨリ再び微熱、咳嗽、喀痰ヲ訴フ。六月二十三日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十八日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラレ。左肺全葉及ビ右肺尖部輕濁ヲ呈シ、呼吸音稍、微弱ニシテ少數ノ「ラツセル」ヲ聴ク。體溫三十六度四分乃至三十七度、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。六月二十八日、採血検査。注射後白血球數ノ増加ヲ來タス。

四、(刀) 二十五歳

診斷 兩側肺結核、結核性腹膜炎、右側陳舊性肋膜炎

昭和二年(一九二七)五月、右側滲出性肋膜炎ニ罹リシモ、翌年ニハ殆ンド治癒ス。ソノ後數箇月ニシテ再び微熱咳嗽、呼吸困難、全身倦怠感アリ。昭和五年六月二十七日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十八日現在、體格中等、榮養輕度ニ害セラレ。右肺殊ニソノ下部ニ於テ濁音ヲ呈シ、呼吸音微弱ニシテ、散在性ニ少數ノ「ラツセル」ヲ聴ク。肋膜ノ移動亦不良ナリ。左肺尖部輕濁呼吸音粗銳ニシテ、且ツ延長セリ。腹部輕度膨滿シ、輕度ナガラ壓痛アリ。體溫三十六度二分乃至三十七度四分、輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。

六月二十八日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。

五、(刀) 二十三歳

診斷 兩側肺結核

昭和四年(一九二九)十月頃ヨリ、全身倦怠感ヲ訴ヘ、微熱、咳嗽、喀痰アリテ、時ニ血液ヲ混ズ。五年六月二十九日、大阪市立刀根山病院入院。六月二十八日現在、體格中等、榮養比較的良好。兩肺上半部殊ニ右側ニ於テ、呼吸音微弱、右側肩胛骨間腔ニ於テ呼吸音不純ニシテ呼吸延長セリ。體溫三十六度二分乃至三十七度五分。輕度ノ咳嗽、喀痰アリ。六月二十八日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。

被検者	診 断	注 射 回 数	白 血 球 数					被検者	診 断	注 射 回 数	白 血 球 数						
			前	30分	60分	90分	120分				前	30分	60分	90分	120分		
1 ■	兩側肺結核	1	29/6 19:0	7.440	7.580	7.520	8.600	7.300	4 ■	兩側肺結核、結核性肋膜炎、右側陳舊性肋膜炎	1	29/6 1930	6.620	7.560	8.880	6.700	6.860
2 ■	兩側肺結核、腸結核、結核性腹膜炎	1	29/6 1930	7.700	7.200	5.900	6.880	7.400	5 ■	兩側肺結核	1	29/6 1930	5.100	5.620	5.740	5.920	6.440
3 ■	兩側肺結核、右側陳舊性肋膜炎	1	29/6 1930	5.700	7.200	6.550	7.140	7.320									

以上結核患者五例ニ於ケル白血球數ノ動搖ハ第十八表Aニ示ス。即チ五例中榮養高度ニ害セラレ衰弱甚ダシキ一例ニ於テノミーヒリン注射後輕度ノ白血球數ノ減少ヲ認メタレドモ他ノ四例ニ於テハ注射後三十分ヨリ既ニ白血球數ノ増加ヲ認メタリ。

第二項 健康者及ビ非結核者

一、(武) 十八歳

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和六年七月二十二日現在、體格中等、榮養普通。肺臟ソノ他ニ特記スベキモノナシ。
七月二十二日採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。七月二十七日、肺ノ線寫眞所見、兩側殊ニ右側ニ於テハ肺門陰影擴大シ、ソノ間ニ米粒大ノ數個ノ石灰化セル境界鮮明ナル陰影ヲ認ム。

二、(武) 十八歳

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和六年七月二十三日現在、體格中等、榮養良好。肺臟ソノ他ニ特記スベキモノナシ。
七月二十三日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。七月二十七日、肺ノ線寫眞所見、右側肺門陰影稍々擴大シ氣管枝線條著明ナリ。

三、(武) 十九歳

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ、昭和六年七月二十三日現在、體格中等、榮養良好。肺臟ソノ他ニ特記スベキモノナシ。
七月二十三日、採血検査。注射後極メテ輕度ノ不定ノ白血球數ノ動搖ヲ示ス。七月二十七日、肺ノ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。

四、(武) 五十一歳

診斷 大動脈瘤

生來健康ニシテ結核性疾患ソノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和五年十一月末ヨリ左側上下兩肢ノ脱力感アリテ働クコト能ハズ。六年三月中旬ヨリ胸骨後方ニ異常

感アリテ呼吸困難、心悸亢進ヲ訴フ。七月十日、武谷内科入院。體格中等、榮養輕度ニ害セラル。胸部皮下靜脈ノ怒張ト右頸動脈ノ搏動ヲ認ム。心臟濁音界ハ左右ニ擴大シ至ル所ニ收縮期雜音ヲ聽診シ、第二大動脈音著明ニ亢進ス。肺臟ニハ特記スベキモノナシ。レ線検査ニヨリ心臟左右ニ肥大シ、肺動脈弓ニ搏動ヲ伴フ膨隆ヲ認ム。七月二十二日、採血検査。注射後極メテ輕度ナル白血球數ノ不定ノ動搖ヲ示ス。七月二十七日肺ノレ線寫眞所見、特記スベキモノナシ。

五、(武) 十九歳

診斷「マラリヤ」、十二指腸蟲病

生來健康ニシテ結核性疾患ノ他ノ著患ヲ知ラズ。昭和六年六月中旬、何等原因ト思ハル、モノナクシテ突然惡寒戰慄ニ次ギ發熱四十度ニ達ス。然ルニ數時間ニシテ解熱ス。以來カ、ル發熱發作數回ニ及ビ七月十七日、武谷内科入院。體格中等、榮養良好。肺臟心臟ニ異常ヲ認メズ。肝臟稍々肥大シ、脾臟モ亦肥大シ、容易ニ觸知スルコトヲ得。血液中ニ「マラリヤ」原蟲ヲ鑑檢シ得。大便中ニ十二指腸蟲卵ヲ證明ス。食思衰。

七月二十二日、採血検査。注射後輕度ノ白血球數ノ増加ヲ來タス。七月二十七日、肺ノレ線所見、兩側肺門陰影擴大ス。

第十八表 B 「マラリヤ」注射

被檢者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數					被檢者	診 斷	注射回数	検査日	白血球數				
				前	30分	60分	90分	120分					前	30分	60分	90分	120分
1	健 康	1	22/7 1931	5,960	7,040	6,620	7,600	7,440	4	大動脈瘤	1	22/7 1931	6,620	6,680	5,980	7,380	6,500
2		1	23/7 1931	6,060	6,700	6,820	8,220	7,460	5	マラリヤ、 十二指腸蟲病	1	22/7 1931	6,480	7,620	6,500	7,200	8,500
3		1	23/7 1931	7,020	6,980	7,560	6,440	6,620									

以上五例ノ検査成績ハ第十八表Bニ示ス。即チ二例ニ於テハ注射後極メテ輕度ナル白血球數ノ不定ノ動搖ヲ示セドモ、他ノ三例ニテハ注射後三十分ヨリ既ニ白血球數ノ増加ヲ來タス。

第六節 本章ノ概括及ビ考案

- 一、結核患者ニ生理的食鹽水一〇㏄ヲ皮下ニ注射セル場合ハ其白血球數ハ著明ナル動搖ナク、尙ホ一定セル型ヲ示サズ。
- 二、結核患者ニ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水(AO)中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノヲ體重五〇肝對一〇㏄ノ比ヲ以ッテ皮下ニ注射シタル場合ハ、ソノ白血球數ハ著明ナル動搖ナク、尙ホ一定セル型ヲ示サズ。
- 三、結核患者ニ「ヤトレン」及ビ「ヒリン」ヲ各々一〇㏄皮下ニ注射シタル場合ハ注射後三十分ヨリ既ニ白血球加増數ノ

第十九表

區分 發表者	鹽基嗜 好細胞	「エオジ ン」嗜好 細胞	中性嗜 好細胞	淋巴球	「モノチー テン」
シルリング	0—1.0	2—4(3)	54—72 (69)	21—25 (23)	4—8(6)
ネーグリー	0—0.5	2—4	65—70	20—25	6—8
君 塚	—	1.0—3.8	60—67	25—36	GM 1.4—5.7 U 2.7—5.0
草 間	0.39	3.7	56.1	33.6	6.2
倉	0.88	7.81	56.95	28.43	5.87
根 岸	0.42	5.07	60.14	28.00	6.37
酒 井	0.6	5.6	63.1	22.3	8.4
北 島	0.48	3.20	53.38	37.57	5.42

スルモノ多ク、唯榮養高度ニ害セラレ衰弱甚ダシキモノニ於テハ増加ヲ示サズシテ寧ロ輕度ノ減少ヲ認メタリ。
 四、健康者及ビ肺結核患者ニ「ヒリン」及「ヤトレン」ヲ各一・〇蚝皮下ニ注射シタル場合ハ注射後極メテ輕度ナル白血球數ノ不定ノ動搖ヲ示ス者アレドモ大多數ニ於テハ注射後三十分ヨリ既ニ白血球數ノ増加ヲ來タス。
 五、以上ノ藥液ハ個體ニ對シテハ一種ノ刺激物トナルモノナレバ、ソノ注射量ニヨリテ以上ノ白血球數ノ動搖ニハソノ度竝ニ持續期間ニ影響ヲ及ボスモノナラン。

第四章 結核特異性及非特異性物質注射ニヨル白血球像ノ變化

以上述べ來レル如ク結核特異性竝ニ非特異性物質ヲ結核患者及非結核者ニ注射シタル場合ニ於ケル白血球數ノ動搖ニ各々特有ナル成績ヲ得タリ。余ハ更ニ注射直前及ビ注射後一時間半ノ二回ニ於ケル白血球像ノ變移ヲ研索セシニ以下述ブルガ如キ成績ヲ得タリ。

血液標本ノ染色ニハギームザ Giemsa 氏液ヲ用ヒ白血球像ノ分類ニハ⁽⁴⁹⁾シルリング Schilling 氏ノ法ニ從ヒ、毎回二〇〇個ヲ數ヘ、ソノ百分率ヲ求メタリ。

今茲ニ健康者ニ於ケル白血球ノ相互的關係ノ基準ヲ知ランガ爲ニ⁽²³⁾北島氏ノ記載セルトコロヲカレバ、第十九表ニ示ス如シ。

然ルニ或種ノ疾患ニ罹ル時ハソノ白血球ノ相互的關係ニ變化ヲ生ズルモノニシテ、コレガ該疾患ノ診斷或ハ豫後判定ノ補助トナルコトハ普ク人ノ知ルトコロナリ。例ヘバ結核患者ニ於テ中性嗜好性白血球ノ増加ハ豫後不良ノ兆ニシテ、反之豫後ノ良好ナル者ニ於テハ淋巴球ノ增多ヲ來タシ、又同時ニ「エオジン」嗜好細胞ノ増加ヲ伴フモノナリ。

⁽⁵⁰⁾ヨハネス、ベーマン Johannes Behmann 氏ハ「ツベルクリン」注射ヲナス時ニ經過良好ナル者ニ於テハ淋巴球ノ増加ヲ來シ、不良ナル者ニテハ反之減少シ、中性嗜好性白血球増加シアルネット Arneht 氏ノ所謂

左方移動ヲ示スモノナリ。而テ「エオジン」嗜好細胞ニ及ボス影響ハ不定ナリト述ブ。⁽⁴¹⁾リンベツク氏ハ「ツベルクリン」注射後白血球總數ノ增多ト同時ニ「エオジン」嗜好性白血球ノ増加ヲ認メ、⁽²⁰⁾クラヴィツ氏ハ高度ノ「エオジン」嗜好性白血球ノ増加ヲ觀察シ、或ル症例ニテハ同時ニ淋巴球ノ増加ヲ見タリ、⁽³⁰⁾フオーコンネー氏モ白血球總數ノ増加ヲ見、コレ中性多核白血球ノ増加ニヨルモノニシテ他ノ白血球ハ寧ロ減少スルモノナリ。即チ白血球總數ハ平均二、〇〇〇増加スルニ過ギザルモ中性多核白血球ノ増加ハ三、〇〇〇ニ達セリ。故ニ他ノ種類ノ白血球ハ數ニ於テ減セリ。又百分率ニ於テモ中性多核白血球ハ増加ス。反之淋巴球ハ減少スルモノナリト述ブ。⁽³⁶⁾チストウキツチ氏ハ同ジク白血球總數ノ増加ヲ認ム。コレ主トシテ多核白血球ニヨルモノニシテ亦屢ノソレニ近キ單核分核細胞ヲモ關係スルモノナリト言ヘリ。⁽⁴³⁾加來氏ハ健康「モルモット」ニ於テハ「ツベルクリン」注射後一時間ニシテ白血球總數及多核白血球ノ減少ヲ示セルニカ、ハラズ淋巴球ハ注射後一時間ニシテ増加ヲ示ス。而シテ注射後二—四時間ニテハ是ト全ク反對ノ現象、即多核白血球及白血球總數ハ増加スルニ係ハラズ淋巴球ハ一定度減少ヲ示スモノナリ。然ルニ結核「モルモット」ニ於テハ多核白血球ハ白血球總數ト共ニ注射後一時間ニシテ既ニ増加ヲ呈シ、數時間繼續スルモ第一日ニハ元ニ復ス。以後著シキ變化ヲ呈セズ。反之淋巴球ハ注射後直ニ(一時間目ノ検査)減少シ數時間持續シ第一日ニ至レバ本來ノ數ニ復ス。以後ノ増減ハ著シキモノヲ認メズト言ヘリ。⁽⁴⁴⁾野尻氏ニ依レバ結核家兎ニ於テハ「ツベルクリン」注射後二—四—八時間ニハ白血球總數ノ増加ヲ認メ、コノ時期ニ於テ假性「エオジン」細胞及淋巴球ノ共ニ増加セルヲ見ル。「エオジン」細胞ハ注射後消失シ、二四—四八時間後ニ於テ再現シ、時ニ注射前數ヲ越エ、大單核細胞及移行型ハ注射後二—四—八時間ニ於テ減少シ、二四—四八時間ニ於テ稍々増加ス。鹽基性細胞ハ特記スベキコトナシ、然ルニ健康家兎ニ於テハ反之注射後二—四—八時間ニ白血球數ノ増加ヲ示ス、而シテコハ假性「エオジン」細胞ノ増加ニヨルモノニシテ淋巴球及ソノ他ノ細胞ニハ特記スベキコトナシ、結核及健康家兎ニ「チフス」死菌ヲ注射シ、白血球像ノ變化ヲ觀察セルコロニヨレバ結核及健康家兎共ニ注射後初期ニ減少シ、後稍々長期ニワタル白血球數ノ増加ヲ表ハス。而シテ菌量大ナル時ハ小ナル時ニ比シテ白血球増加ノ長ク持續スルヲ見ル。カクノ如キ白血球數ノ増加ハ主トシテ假性「エオジン」細胞ノ増加ニヨルモノニシテ淋巴球ハ注射後一時減少ヲ見ルコトアルモ著明ナラズ。且ツ結核及健康家兎共ニ見ルトコニシテ結核特異物質注射ノ際ト異ナレリ。「エオジン」嗜好細胞ハ注射後一時消失ス。鹽基性嗜好細胞ニハ特記スベキコトナシ。大單核細胞及移行型ハ注射後一時減少シ、後増加ヲ呈ス。又結核及健康家兎ニ赤痢死菌ヲ注射スル時モ注射後一時白血球減少ノ後著明ナル増加ヲ表ハス。而シテカクノ如キ白血球數ノ變化ハ主トシテ假性「エオジン」嗜好細胞ノ變化ニヨルモノナリ。淋巴球ハ注射後一時僅カニ減少スルモ著變ナシ。「エオジン」嗜好細胞ハ一時消失ス。大單核細胞及移行型ハ一時減少シ、後稍々増加ヲ示ス。又注射菌量大ナル時ハ小ナル時ニ比シテ初期減少ノ期間長ク、且ツ増加期モ遲延スルヲ認ムト言ヘリ。⁽⁴⁸⁾赤岩(亨二)氏ハ生理的食鹽水三〇〇—八〇〇珪ヲ皮下ニ注射スル時ハ注射後一—二時間ニシテ白血球ノ減少ヲ來タシ、ソノ後増加シ、四—八時間後最高ニ達シ、一〇—二四時間後ニハ略注射前ノ數ニ復ス。而シテ桿狀核中性白血球ハ注射後増加シ分核狀中性白血球ハ一—二時間後マデ減少シ、其後増加ス。淋巴球ハ注射後中性嗜好白血球ト殆ンド反對ノ増減ヲナスト述ブ。又先ニ(山)谷口氏ハ結核患者ニ「A.O」ノ連續注射ヲナシ、ソノ白血球ノ消長ヲ觀察セシガ、ソノ成績ニヨレバ「A.O」接種後奏

效シテ經過良好ナル者ニ在リテハ淋巴球及「エオジン」嗜好細胞ハ増加シ、中性多核白血球ハ之ニ反シテ減少シ、大單核細胞及移行型ハ増減不定ナリ。又重症ニシテ經過及豫後ノ不良ナル者ニアリテハ「AO」接種ニヨリテ稀ニハ一過性ニ斯ル良徴ヲ呈スルコトアルモ永續セズ若クバ既存ノ現象ヲ追フテ不良ノ轉歸ニ赴クモノナリト言ヘリ。

第一節 健康者ニ「AO」一回注射

健康者一〇例ヲ選ビ、「AO」一回注射前後ニ於ケル白血球像ヲ檢索セシニ第二十表ニ示ス如キ成績ヲ得タリ。

表中Eハ「エオジン」嗜好細胞、Bハ鹽基性細胞、Mハ骨髓細胞、Jハ幼稚型、Stハ桿狀核白血球、Sハ分核白血球、Lハ淋巴球、⁽⁴⁵⁾⁽⁵²⁾Monハ大單核細胞及移行型ヲ示ス。以下各表同シ。

第二十表 臨牀上健康ト認マル者

被檢者	檢査日	臨牀上健康ト認マル者										被檢者	檢査日	臨牀上健康ト認マル者									
		B	E	M	J	St	S	L	Mon					B	E	M	J	St	S	L	Mon		
1	¹³ / ₄ 1930	前	0	7.5	0	0	11.0	33.5	45.0	3.0		6	⁴ / ₅ 1930	前	0	4.0	0	0	2.0	45.5	46.5	2.0	
		後	0	11.0	0	0	10.5	42.5	30.0	6.0				後	0	2.0	0	0	3.5	39.5	34.0	1.0	
2	²⁴ / ₄ 1930	前	0	1.0	0	0	10.5	50.5	30.5	7.5		7	⁷ / ₅ 1930	前	0	2.5	0	0	4.5	63.0	27.0	3.0	
		後	0	1.0	0	0	8.5	43.0	45.0	2.5				後	0	2.5	0	0	5.5	60.0	31.0	1.0	
3	²² / ₄ 1930	前	0	4.0	0	0	5.0	38.5	51.5	1.0		8	¹³ / ₅ 1930	前	0	8.5	0	0	6.5	57.0	26.0	1.5	
		後	0	1.0	0	0	4.5	48.5	40.5	5.5				後	0	11.0	0	0	4.5	48.5	33.0	3.0	
4	¹ / ₅ 1930	前	0	3.0	0	0	8.0	54.5	30.5	4.0		9	¹ / ₅ 1930	前	0	5.5	0	0	9.0	54.5	30.0	1.0	
		後	0	4.5	0	0	6.0	66.0	21.0	2.5				後	0	4.5	0	0	7.0	63.0	25.0	0.5	
5	⁴ / ₅ 1930	前	0	0.5	0	0.5	9.0	67.5	21.5	1.0		10	¹⁴ / ₅ 1930	前	0	3.5	0	0	6.0	70.0	19.5	1.0	
		後	0	1.0	0	0.5	5.0	72.5	25.5	0.5				後	0	3.0	0	0	3.5	61.5	31.0	1.0	

第二節 結核患者ニ「AO」一回注射

結核患者ノ中、重症、中等症、輕症各々一〇例ヲ選ビ「AO」一回注射前後ニ於ケル白血球像ヲ檢索セシニ第二十一、第二十二、第二十三表ニ示ス如キ成績ヲ得タリ。

第二十一表 重症結核患者

被 検 者	檢 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon	被 検 者	檢 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon
1	12/5 1929 前 後	0 0	0 0	0 0	0 0	32.5 29.0	60.0 58.5	7.0 11.5	0.5 1.0	6	7/5 1930 前 後	0 0	0.5 1.0	0 0	0 1.0	28.5 17.5	47.5 46.5	19.5 28.5	3.5 5.5
2	14/6 1929 前 後	0 0	1.0 1.5	0 0	0 0	17.5 18.0	59.5 61.0	19.5 16.5	2.5 2.5	7	7/5 1930 前 後	0 0	0.5 1.0	0 0	0 0	22.5 14.0	57.0 67.0	30.0 18.0	0 1.0
3	22/5 1930 前 後	0 0	0 1.5	0 0	0 0	0.5 17.0	24.0 63.5	25.0 15.0	1.0 3.0	8	7/5 1930 前 後	0 0	1.0 1.5	0 0	0 0	17.5 7.5	57.0 20.0	23.5 10.0	1.5 0
4	25/5 1930 前 後	0 0	0 0	0 0	0 0	24.5 22.0	60.5 60.0	13.5 18.0	1.5 0	9	1/5 1930 前 後	0 0	0 0	0 0	0 0	36.0 38.0	40.5 13.0	21.0 18.0	2.5 1.0
5	25/5 1930 前 後	0 0	0.5 0	0 0	0 0	28.5 17.5	53.5 62.0	16.5 13.5	1.0 2.0	10	13/5 1930 前 後	0 0	0.5 1.0	0 0	0 0	23.5 21.5	49.5 51.5	23.5 23.0	3.0 3.0

第 二 十 二 表 中 等 症 結 核 患 者

被 検 者	檢 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon	被 検 者	檢 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon
1	2/5 1930 前 後	0 0	1.0 0.5	0 0	0 0	16.0 15.0	47.0 49.5	31.0 29.5	5.0 5.5	6	6/5 1930 前 後	0 0	1.5 2.0	0 0	0.5 0.5	42.0 36.5	30.5 37.5	24.5 21.5	1.5 4.0
2	10/5 1930 前 後	0 0	2.0 0.5	0 0	0 0	22.0 22.0	57.0 58.5	13.5 11.5	7.5 7.5	7	23/5 1930 前 後	0 0	0 0.5	0 0	0.5 0	32.0 29.0	50.0 59.0	7.5 5.5	9.0 6.0
3	15/5 1930 前 後	0 0	3.0 5.0	0 0	0 0	0.5 8.5	20.0 62.0	52.0 21.5	4.0 2.5	8	25/4 1930 前 後	0 0	0 0	0 0	0 0	27.5 14.0	47.5 73.0	23.5 12.5	1.5 1.0
4	— 前 後	0 0	0 0	0 0	0 0	0.5 30.0	20.5 60.5	19.0 9.5	3.0 0	9	13/6 1930 前 後	0 0	1.5 1.5	0 0	0 0	16.0 13.0	50.5 61.0	31.5 23.5	0.5 0.5
5	18/5 1930 前 後	0 0	2.5 0.5	0 0	0 0	15.5 6.0	59.5 69.5	20.0 20.5	3.5 3.0	10	2/5 1930 前 後	0 0	1.5 2.0	0 0	0 0	49.0 36.5	30.5 35.5	24.5 21.5	1.5 4.0

第 二 十 三 表 輕 症 結 核 患 者

	被 検 者	検 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon		被 検 者	検 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon		
1	■■■■	3/8 1930	前	0	0	0	8.0	44.5	43.0	4.5	6	■■■■	13/6 1930	前	0	0.5	0	0	23.5	43.0	26.5	1.5	
			後	0	0	0	6.0	56.0	37.0	1.0				後	0	0.5	0	0	19.0	51.5	23.0	6.0	
2	■■■■	16/5 1930	前	0	2.5	0	8.5	53.0	31.0	5.0	7	■■■■	23/4 1930	前	0	2.5	0	0	34.5	43.5	18.5	1.0	
			後	0	2.5	0	8.5	61.0	24.0	5.5				後	0	1.5	0	0	20.0	67.0	15.5	1.0	
3	■■■■	22/5 1930	前	0	0	0	18.0	37.0	19.5	5.5	8	■■■■	18/4 1930	前	0	2.0	0	0	16.0	57.0	25.5	0.5	
			後	0	1.5	0	1.0	21.0	53.6	12.5	10.0			後	0	1.0	0	0	13.5	64.5	17.5	3.5	
4	■■■■	23/5 1930	前	0	11.0	0	0	3.5	50.5	30.5	4.5	9	■■■■	18/4 1930	前	0	2.0	0	0	20.0	45.0	25.0	8.0
			後	0	8.0	0	0	5.0	52.0	31.0	4.0			後	0	3.0	0	0	14.5	47.5	28.5	6.5	
5	■■■■	27/4 1930	前	0	2.5	0	0	19.5	52.5	25.0	0.5	10	■■■■	29/4 1930	前	0	1.5	0	0	16.5	60.0	18.0	4.0
			後	0	2.5	0	0	17.5	54.5	24.0	1.5			後	0	2.0	0	0	15.0	70.5	10.0	2.5	

第三節 結核患者ニ「AO」連續注射

肺結核患者一〇例、滲出性肋膜炎患者二例ヲ選ビ、治療ノ意味ニテ「AO」ノ連續注射ヲナシ、數回採血検査ヲ行ヒタリ。
 ソノ白血球像ノ變移ハ第二十四表ニ示ス如シ。

第二十四表 「AO」連續注射ノ場合

	被 検 者	検 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon	
1	■■■■■	3/5 1930	前	0	0	0	0.5	37.5	46.0	12.5	3.5
		後	0	0	0	0.5	33.5	49.5	12.0	4.5	
		前	0	0.5	0	0	37.5	44.5	15.5	2.0	
		後	0	0	0	0	35.5	48.0	12.0	4.5	
		前	0	0	0	0.5	27.5	54.5	17.5	0.5	
		後	0	0	0	0.5	25.0	68.5	15.0	1.0	
	3/5	前	0	0	0	0.5	25.0	68.5	15.0	1.0	
		後	0	0	0	0	1.0	30.5	52.5	13.5	2.5
		前	0	0	0	0	1.0	30.5	52.5	13.5	2.5
		後	0	0	0	0	0.5	27.5	54.5	14.0	3.5
14/6	前	0	0	0	0	0.5	27.5	54.5	14.0	3.5	
	後	0	0	0	0	0.5	27.5	54.5	14.0	3.5	

	被 検 者	検 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon
2	■■■■■	3/5 1930	前	0	0	0	32.5	33.5	20.5	3.5
		後	0	0	0	0.5	25.5	51.0	20.5	2.5
		前	0	0.5	0	0	31.5	46.0	21.0	1.0
		後	0	0	0	0	25.5	37.0	14.0	3.0
		前	0	0	0	0.5	27.5	44.5	22.5	5.0
		後	0	0	0	0.5	25.5	47.5	21.0	5.5
	3/5	前	0	0	0	0.5	25.5	47.5	21.0	5.5
		後	0	0	0	0	28.5	40.5	29.5	1.5
		前	0	0	0	0	28.5	40.5	29.5	1.5
		後	0	0	0	0	23.0	44.0	23.5	4.5
11/6	前	0	0	0	0	23.0	44.0	23.5	4.5	
	後	0	0	0	0	23.0	44.0	23.5	4.5	

3	■■■■	$3/5$ 1930	前	0	0	0	0	39.5	37.0	17.5	6.0	8	■■■■	$11/5$ 1929	前	0	0	0.5	29.0	48.5	17.5	4.5	
			後	0	0	0	0	0.5	36.0	41.5	16.5				後	0	0	0	25.0	54.6	17.0	3.5	
		$17/5$	前	0	0	0	0	37.5	42.5	18.0	2.0			$5/6$	前	0	0	0.5	19.0	56.5	23.5	0.5	
			後	0	0	0	0	33.5	44.5	16.5	1.5				後	0	0	0.5	14.0	62.5	21.5	1.0	
		$31/5$	前	0	0	0	0	0.5	32.0	45.5	18.5			3.5	$17/6$	前	0	0	0	21.0	52.5	26.5	0
4	■■■■		後	0	0	0	0	0.5	21.5	54.5	23.5	1.0	8	■■■■		後	0	0	0.5	20.0	54.5	20.0	5.0
		$14/6$	前	0	0	0	0	42.0	35.0	20.5	2.5	$11/7$ 1929			前	0	1.5	0.5	42.0	30.5	24.5	1.5	
			後	0	0	0	0	0.5	34.0	44.0	16.0	5.5			後	0	2.0	0	36.5	37.5	21.5	4.0	
		$7/5$ 1930	前	0	0	0	0	1.0	46.5	35.5	10.5	6.5			$15/6$	前	0	1.5	0	31.5	38.5	23.5	1.5
			後	0	0	0	0	0.5	43.5	39.5	12.5	4.5				後	0	1.0	0	39.0	42.5	25.0	1.5
5	■■■■	$11/5$	前	0	0	0	0	0.5	45.5	41.5	9.5	1.5	7/5	前	0	2.0	0	34.0	51.0	21.5	1.6		
			後	0	0	0	0	35.5	45.5	16.5	2.5	$17/6$		後	0	1.0	0	24.5	57.5	14.0	1.5		
		$3/5$	前	0	0	0	0	0.5	18.5	56.0	20.5			4.5	前	0	4.0	0	25.5	41.5	26.5	2.5	
			後	0	0	0	0	16.5	57.5	22.5	3.5			後	0	5.0	0	25.0	41.0	26.5	2.5		
		$11/5$	前	0	2.5	0	0	17.0	50.5	21.5	0.5	$11/6$ 1930		前	0	2.5	0	19.5	22.5	25.0	0.5		
6	■■■■		後	0	0.5	0	0	12.0	60.5	25.5	1.0	9	■■■■	$15/6$	前	0	2.5	0	17.5	54.5	24.0	1.5	
		$3/6$	前	0	0	0	0	19.0	58.5	20.5	2.0				後	0	4.0	0	12.5	53.5	26.5	3.5	
			後	0	0	0	0	11.5	60.0	28.5	0	$15/6$		前	0	3.5	0	10.0	57.0	25.5	4.0		
		$17/6$	前	0	1.0	0	0	7.5	61.5	25.0	5.0			後	0	4.0	0	7.5	57.0	29.0	2.5		
			後	0	1.0	0	0	7.5	61.0	30.5	0.5	$21/6$		前	0	4.0	0	8.0	56.0	23.5	3.5		
7	■■■■	$5/6$ 1930	前	0	2.5	0	0	30.5	37.5	21.5	8.0	10	■■■■	$11/6$	前	0	0.5	2.0	11.5	46.0	33.0	4.5	
			後	0	2.0	0	0	27.5	41.0	22.0	7.5				後	0	1.5	1.0	12.0	53.0	23.0	4.5	
		$19/5$	前	0	4.0	0	0	26.5	53.5	29.0	6.0			$15/6$	前	0	3.0	0	14.0	48.5	27.5	5.5	
			後	0	3.5	0	0	23.0	43.5	27.0	1.0				後	0	4.0	0	12.5	47.5	27.5	8.5	
		$3/6$	前	0	3.0	0	0	0.5	16.5	48.0	23.5	3.5		$1/6$	前	0	5.0	0	5.5	61.5	22.0	5.0	
8	■■■■		後	0	3.0	0	0	0.5	26.5	44.5	20.0	5.5	11	■■■■	$1/6$	後	0	4.5	0	6.5	62.5	21.5	4.5
		$17/6$	前	0	0.5	0	0	15.5	57.5	25.0	2.0	$1/6$		前	0	2.5	0	8.5	53.0	31.0	5.0		
			後	0	0.5	0	0	0.5	15.5	40.0	38.5	2.5			後	0	2.0	0	8.5	60.0	24.0	5.5	
		$17/6$	前	0	3.0	0	0	0.5	15.5	40.0	38.5	2.5			後	0	2.0	0	14.0	58.0	22.0	4.0	
		$5/6$ 1930	後	0	0	0	0	0.5	27.5	47.5	20.0	4.5		$31/7$	前	0	1.0	0	15.0	54.0	26.0	2.0	

	9/8 1930	前	0	2.0	0	0	10.5	5.4	5.29	0	4.0
		後	0	2.0	0	0	8.5	5.9	5.26	5	4.5
		15/8	前	0	0	0	12.5	6.5	5.19	0	4.0
		後	0	2.5	0	0	10.0	6.9	5.16	5	1.5
	27/8	前	0	4.0	0	0	3.5	6.6	5.24	0	1.5
		後	0	3.5	0	0	5.0	5.1	5.33	0	2.5
	21/8 1929	前	0	6.5	0	0	21.5	40.5	14.5	7.5	7.5
		後	0	1.5	0	1.5	21.5	60.5	9.5	5.5	5.5
		4/8	前	0	6.5	0	12.0	61.5	12.0	8.0	8.0
		後	0	4.5	0	0	18.5	56.5	14.5	6.0	6.0
	12/8	前	0	11.0	0	0	11.5	44.5	23.0	10.0	10.0
		後	0	9.0	0	0	12.5	56.5	13.5	8.5	8.5

第四節 結核患者ニ煮沸「AO」一回注射

結核患者一〇例ヲ選ビ煮沸「AO」一回注射前後ニ於ケル白血球像ヲ檢索セシニ、第二十五表ニ示ス如キ成績ヲ得タリ。

第二十五表 煮沸「AO」注射

	被 検 者	検 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon		被 検 者	検 査 日	B	E	M	J	St	S	L	Mon		
1	■■■■	4/7 1930	前	0	0	0	0	89.5	48.0	10.0	2.5	6	■■■■	4/7 1930	前	0	5.0	0	0	20.0	45.5	26.5	3.0
		後	0	0	0	0	51.5	37.0	11.0	0.5			後	0	1.5	0	1.0	30.5	39.0	23.5	4.5		
2	■■■■	3/7 1930	前	0	1.0	0	0	10.0	61.0	27.0	1.0	7	■■■■	3/7 1930	前	0	0	0	0	10.0	32.5	7.0	0.5
		後	0	2.5	0	0	12.0	77.0	18.0	0.5			後	0	0	0	0	15.0	33.0	47.0	0		
3	■■■■	4/7 1930	前	0	0	0	0	0.5	24.0	58.5	14.5	2.5	8	■■■■	4/7 1930	前	0	0	1.0	11.5	56.1	5.33	5
		後	0	0.5	0	0	0.5	11.0	61.0	26.5	0.5			後	0	0	0	1.5	13.5	48.5	32.5	2.0	
4	■■■■	4/7 1930	前	0	0	0	0	19.0	67.5	13.0	0.5	9	■■■■	4/7 1930	前	0	1.0	0	0	4.5	19.0	44.0	1.5
		後	0.5	0	0	0	0.5	23.5	53.5	12.5	1.5			後	0	1.5	0	0.5	19.0	42.5	28.5	3.0	
5	■■■■	4/7 1930	前	0	2.5	0	0	28.0	55.5	13.0	1.5	10	■■■■	4/7 1930	前	0	1.0	0	0	4.0	30.5	35.0	0.5
		後	0	1.5	0	0	21.5	55.0	18.0	4.0			後	0	1.5	0	0	7.5	56.0	33.5	1.5		

第五節 結核患者ニ「ツベルクリン」注射

「ツベルクリン」皮内注射ニ比シ、「ツベルクリン」皮下注射ノ際ハツノ前後ニ於ケル白血球數ノ増減著明ナリシヲ以テ本節ニテハ結核患者五例ニ「ツベルクリン」皮下注射ヲナシ、ソノ際ニ於ケル白血球像ヲ檢索スルコト、ナセリ。ソノ檢査成績ハ第二十六表ニ示ス如シ。

第六節 結核患者ニ「ヤトレン」注射

結核患者五例ニ「ヤトレン」一〇蚝ヲ皮下ニ注射シ、ソノ前後ニ於ケル白血球像ヲ檢索セシニ第二十七表ニ示ス如キ成績ヲ得タリ。

第二十六表 「ツベルクリン」注射

	被 検 者	検 査 日		B	E	M	J	St	S	L	Mon
1		26/6 1930	前	0	1.5	0	0.5	42.5	46.5	7.0	2.5
			後	0	3.5	0	0.5	31.0	53.0	11.0	1.0
2		26/6 1930	前	0	6.5	0	0	13.0	57.0	23.0	0.5
			後	0	5.5	0	0	6.5	61.5	26.5	0
3		28/6 1930	前	0	5.0	0	0	16.5	43.0	30.0	0.5
			後	0	1.5	0	0	21.5	53.5	24.5	0
4		27/6 1930	前	0	1.5	0	0	14.5	55.0	29.0	0
			後	0	4.5	0	0	13.0	53.0	27.0	3.0
5		27/6 1930	前	0	0	0	0	41.5	47.0	11.5	0
			後	0	0	0	0	42.0	52.5	5.5	0

第二十七表 「ヤトレン」注射

	被 検 者	検 査 日		B	E	M	J	St	S	L	Mon
1		17/6 1930	前	0	3.5	0	0	36.5	42.0	17.0	1.0
			後	0	4.5	0	0	38.5	41.5	10.0	5.5
2		19/6 1930	前	0	0.5	0	0	31.0	46.0	20.0	2.5
			後	0	1.0	0	0	42.5	36.0	20.5	0
3		19/6 1930	前	0	0	0	0	36.0	45.0	18.0	1.0
			後	0	0	0	0	36.5	43.5	13.0	2.0
4		19/6 1930	前	0	0	0	0	28.5	33.5	32.0	1.0
			後	0	0	0	0.5	30.0	46.0	21.0	2.5
5		19/6 1930	前	0	0	0	0.5	26.5	47.0	27.5	5.5
			後	0	1.0	0	1.0	34.0	35.0	28.0	1.0

第二十八表 「ヒリン」注射

	被 検 者	検 査 日		B	E	M	J	St	S	L	Mon
1		28/6 1930	前	0	0	0	0.5	16.0	54.0	24.0	2.5
			後	0	1.5	0	1.0	27.0	50.0	14.5	6.0
2		28/6 1930	前	0	0	0	0	28.0	62.5	9.5	0
			後	0	0	0	0	35.5	59.0	5.5	0
3		28/6 1930	前	0	5.0	0	0	9.5	46.0	31.5	3.0
			後	0	2.5	0	0.5	20.0	49.0	27.0	1.0
4		28/6 1930	前	0	1.5	0	0	33.0	37.0	24.0	4.5
			後	0	1.0	0	1.0	37.5	33.5	13.5	1.5
5		28/6 1930	前	0	3.0	0	0	12.5	42.0	41.5	1.0
			後	0	1.0	0	1.0	19.5	40.0	38.0	0.5

第七節 結核患者ニ「ヒリン」注射

結核患者五例ニ「ヒリン」一〇蚝ヲ皮下ニ注射シ、ソノ前後ニ於ケル白血球像ヲ檢索セシニ第二十八表ニ示ス如キ成績ヲ得タリ。

以上ノ検査成績ニテ各白血球ガソノ百分率ニ於テ注射後増加セル場合ト減少セル場合及増減セザル場合ノ關係ヲ明ラカニスルタメ表示スレバ第二十九表ノ如シ。(十)ハ各白血球ガ注射前ニ比シ、注射後一時間半ニ於テソノ百分率ノ増加セルヲ、(十二)ハ注射前後ニ於テ百分率ノ同一ナルヲ(一)ハ減少セル場合ヲ示ス。

第 二 十 九 表

	E					St	S	L					Mon		
	+	±	-	+	+			+	+	+	+				
健康者 = 「AO」注射	4	2	4	2	0	8	6	0	4	5	0	5	3	1	6
重症結核患者 = 「AO」注射	5	3	2	2	0	8	7	0	3	3	0	7	5	2	3
中等症結核患者 = 「AO」注射	4	2	4	2	0	8	10	0	0	1	0	9	2	1	7
輕症結核患者 = 「AO」注射	3	3	4	3	1	6	9	0	1	4	0	6	3	0	7
結核患者 = 「AO」連續注射	5	14	11	9	1	20	21	0	6	14	3	13	15	5	10

	E					St	S	L					Mon		
	+	±	+	-	+			+	+	+	+				
結核患者 = 煮沸「AO」注射	4	4	2	8	0	2	2	0	8	3	0	7	5	0	5
結核患者 = 「ツペルカリン」注射	2	1	2	2	0	3	4	0	1	2	0	3	1	1	3
結核患者 = 「ヤトレン」注射	3	2	0	5	0	0	1	0	4	2	0	3	1	1	2
結核患者 = 「ビリン」注射	1	1	3	5	0	0	2	0	3	0	0	5	1	1	3

備考 1. 十ハ注射後ニ於ケル増加 2. 十ハ注射前後ニ於テ同一 3. 一ハ注射後ニ於ケル減少ヲ示ス。

第八節 本章ノ概括及考案

「AO」注射後白血球數ノ増加スル場合、即、健康者ニ「AO」ヲ注射セル場合ノ白血球ノ相互的關係ヲ見ルニ、百分率ニ於テ注射後大單核細胞及移行型ハ減ズ。又分核白血球ト桿狀白血球トハ比スルニ桿狀核白血球ハ著明ニ減少シ、分核白血球ハ増加セリ。淋巴球及「エオジン」嗜好細胞ニ於テハ一定ノ傾向ヲ認メズ。反之注射後白血球數ノ減少セル場合、即、結核患者ニ「AO」ヲ注射セル場合ハ大單核細胞及移行型並ニ淋巴球ハ減少ス。又桿狀核白血球ハ著明ニ減少シ、反之分核白血球ハ又著明ニ増加ス。「エオジン」嗜好細胞ニハ一定ノ傾向ヲ認メズ。結核患者ニ「ツベルクリン」注射ヲナシタル際モ同様ノ關係ヲ認ム。然ルニ結核非特異性物質ナル「ヤトレン」及「ヒリン」ヲ注射シタル際ハ共通ニシテ而カモ著明ナル現象ハ分核狀白血球ノ減少ニ反シ、桿狀核白血球ノ著明ニ増加セルコトナリ。コハ結核特異性物質注射ノ場合ト

全ク相反スルモノニシテ注目ニ値スベキモノト信ズ。又淋巴球ハ減少ス。「エオジン」嗜好細胞ト大單核細胞及移行型ニハ兩者ニ於テ一致セル成績ヲ得ズ。即「エオジン」嗜好細胞ハ「ヤトレン」注射ノ際ハ増加シ、「ヒリン」注射ノ際ハ減少ス。大單核細胞、及移行型ハソノ關係相反ス。煮沸「AO」ヲ注射シタル場合ニ於テハ大單核細胞及移行型ニ「エオジン」嗜好性細胞ハ減少ス。又分核白血球減少シ、反之桿狀核白血球ハ増加ス。即、結核非特異性物質注射ノ際ト全ク一致スルモノニシテ「AO」注射ノ際ニ於ケル所見ト相反スルモノナリ。コノ事實ハ又特筆スルニ値スルモノナリ。即結核菌特殊製劑ナル「AO」、「ツベルクリン」注射ノ際ト非特異性物質及煮沸「AO」ヲ注射シタル際トソノ注射後一時間半ニ於ケル白血球像ノ百分率ヲ比スルニ結核特殊性物質注射ノ場合ニハ中性嗜好性白血球中、桿狀核白血球減少、分核白血球増加ス。即成熟型ノ増加セルヲ見ル。非特殊性物質注射ノ場合ハ反之分核白血球減少シ、桿狀核白血球増加シ、又幼弱型モ出現、或ハ増加スルヲ認ム。

「AO」連續注射ヲナセル場合經過ヲ追フテ血液像ノ變化ヲ觀察セシニ大體ニ於テ谷口氏ノ記載報告セルトコロニ一致ス。即「AO」注射ニヨリ良好ナル經過ヲトリタル者ニ於テハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ、桿狀核白血球減少シ淋巴球増加ス。又「エオジン」嗜好細胞モ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ明カニ増加セルヲ認ム。重症結核患者ニ於テモ桿狀核白血球減少シ、反之淋巴球ハ増加シ、アルネツト氏ノ所謂左方移動ノ狀態ヨリ良好ナル右方移動ノ像ヲ示セルヲ認ム。「エオジン」嗜好細胞ハ大多數ニ於テ始メヨリ消失セリ。中ニハ注射經過中ニ現ハレ、或ハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ稍々増加セルモノヌラ認メタリ。而シテ各注射前後ニ於ケル關係ハ前ニ記載セル如シ。

第五章 總括

以上ノ檢査成績ヲ總括スレバ次ノ如シ。

- 一、健康成人三五名ニ於ケル平均白血球數ハ六、四〇四ナリ。
- 二、結核患者二〇九名、即重症結核患者八六名、中等症結核患者六二名、輕症結核患者六一名ニ於テ白血球數ヲ比較觀察セシニ重症患者ニテ平均九、九七三、中等症患者ニテ八、八八三、輕症患者ニテ七、一七三ナリ。即輕症患者ニテモ健

康者ニ於テ余ガ求メ得タル白血球數ニ比スレバ既ニ稍々増加セリト雖一般ニ唱ヘラル、正常白血球數即六、〇〇〇乃至八、〇〇〇ニ比スレバ正常値内ニ在リ。然レドモ輕症ヨリ中等症、重症ニ至ルニ從ヒ漸次白血球數ノ增多ノ傾向ヲ有スルモノナリト言ヒ得ベシ。

三、結核患者九八名、非結核者四名、總數一〇二名ニ於テ空腹時、牀上絶對安靜時ニ二間時ニ互リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナシ、最初ノ白血球數ニ對スル増減ヲ觀察セシニ極メテ稀ニ稍々著シキ白血球數ノ移動スル者アレドモ大多數、即七五・五%ニ在リテハ一、〇〇〇以内ノ増減ヲ示スニ過ギズ。又一七・六%ニ於テ一、〇〇一以上一、五〇〇以内ノ増減ヲ示セリ。

四、結核患者ニ體重五〇斤ニ就キ一・〇蚝ノ割ニ「AO」第一號ヲ皮下ニ注射シ、注射直前一回、注射後二時間ニ互リ毎半時間ニ四回、即計五回ノ採血検査ヲナセシニ、注射後白血球數ノ減少ヲ來ス(以下各項ニ述ブル検査成績ハ同様ノ方法ニヨル採血検査ニヨルモノナリ)。

A、重症ニシテ活動性甚ダシキ者ニテハ減少ノ度大ニシテソノ持續時間モ亦長シ。反之病症ノ輕度或ハ休止性ニ傾クニ從ヒ、減少ノ度輕ク、ソノ持續時間モ亦短シ。即「AO」注射ニヨル白血球數ノ減少ノ度及持續期間ハ結核症ノ重症、中等症、及輕症ニ比例ス。

B、結核病竈狹小ナリト雖、新鮮ニシテ活動性ヲ呈スルコト甚ダシキ者ニテハ減少ノ度著シクソノ持續時間モ亦長シ。反之病竈稍々廣汎ニワタルモ陳舊ニシテ非活動性ニ傾ケル者ニテハ減少ノ度少ク、亦ソノ持續期間モ短シ。

C、結核病竈廣汎ニシテ白血球數ノ減少甚ダシク、亦ソノ持續期間モ長キ者ニテハソノ豫後不良ナリ。

D、結核患者ニ「AO」連續注射ヲナス場合ニ經過良好ナル者ニテハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ漸次白血球數ノ減少ノ度ハ輕度トナリ遂ニハ減少セザルカ或ハ寧ろ増加スルニ至ル。反之經過不良ニシテソノ豫後亦不良ナル者ニテハ依然トシテ減少ヲ示ス。

五、結核性疾患ノ既往症ヲ有スル検査時自、他覺的ニ結核症狀ヲ呈セザル者ニテハ「AO」注射ニヨリ白血球數ノ減少ヲ

來サザルカ或ハ寧ロ増加スル者ナリ。

六、健康者及非結核患者ニテハ「AO」注射ニヨリ白血球數ハ減少セザルカ或ハ増加ス。

七、家兎ニ體重五〇𪛇ニ就キ一〇𪛇ノ割ニ「AO」ヲ皮下ニ注射シ採血検査ヲナセシニ、

A、結核家兎ニテハ注射後白血球數ノ減少ヲ來ス。

B、健康家兎ニテハ注射後白血球數ノ増加ヲ來ス。

八、結核患者ニ煮沸「AO」ヲ體重五〇𪛇ニ就キ一〇𪛇ノ割ニ注射シタル場合ハ例外トシテ衰弱高度ナル者ニ於テ極メテ僅カノ白血球數ノ減少ヲ認メタリト雖、一般ニ減少ヲ來サザルノミカ或ハ寧ロ増加ヲ示ス。

九、家兎ニ煮沸「AO」ヲ體重五〇𪛇ニ就キ一〇𪛇ノ割ニ注射シタル場合ハ結核家兎ニ於テモ健康家兎ニ於テモ注射後著明ナル白血球數増加ヲ認ム。而シテ増加ノ度ハ結核家兎ニ於テ甚ダシ。

一〇、即「AO」ハ煮沸ニヨツテ其特殊反應ヲ起ス性質ニ著シキ變化ヲ來ス。

一一、結核患者ニ「ツベルクリン」ノ少量ヲ皮内ニ注射スルモ白血球數ノ増減著明ナラズ。

一二、結核患者ニ「ツベルクリン」ノ少量ヲ皮下ニ注射セシ場合ハ皮内ニ注射セシ場合ニ比シ稍々著明ナル白血球數ノ減少ヲ來シタリト雖、ソノ度ハ必ズシモ病態ノ輕重ニ一致セズ。即一定ノ型ヲ示サズ。加フルニ注射後全身倦怠感、發熱、心悸亢進等ノ副作用ヲ伴フ者アリ。

一三、家兎ニ稍々多量ノ「ツベルクリン」ヲ皮下ニ注射セシニ結核家兎ニ於テハ稍々著明ナル白血球數ノ減少ヲ來セリ。コノ「ツベルクリン」量ハ健康家兎ニ於テモ亦輕度ノ減少ヲ惹起セシメタルモノアリ。然レドモ一般ニ健康家兎ニ於テハ結核家兎ニ比スレバ白血球數ノ増減不定ナルカ或ハ増加ヲ示ス。

一四、結核患者ニ生理的食鹽水一〇𪛇ヲ皮下ニ注射シタル場合ハ白血球數ノ増減輕度ニシテ而カモ一定セル型ヲ示サズ。

一五、結核患者ニ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水（「AO」中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノ）ヲ體重五〇𪛇ニ就キ一〇𪛇ノ割ニ皮下ニ注射シタル場合ニハ白血球數ハ著明ナル動搖ナク而カモ一定セル型ヲ示サズ。

一六、結核及健康家兎ニ於テ何等處置ナクシテ二時間ニ亙リ毎半時間ニ五回ノ採血検査ヲナセシニ兩者共著明ナル白血球數ノ動搖ヲ示サズ。

一七、結核及健康家兎ニ〇・五%石炭酸加生理的食鹽水(AO)中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノヲ體重一・〇斤ニ就キ〇・二兎ノ割ニ皮下ニ注射スルコトニヨル白血球數ノ動搖ハ著シカラズシテ而カモ一定セル型ヲ示サズ。

一八、結核患者ニ「ヤトレン」及「ヒリン」ヲ各一・〇兎皮下ニ注射シタル場合ノ白血球數ノ動搖ニハ略同一ノ成績ヲ得タリ。即例外トシテ衰弱高度ナル者ニ於テ極メテ僅カノ白血球數ノ減少ヲ認メタリト雖、一般ニ減少セザルノミカ或ハ寧ロ増加ヲ示ス。

一九、健康者及非結核患者ニ「ヤトレン」及「ヒリン」ヲ各一・〇兎皮下ニ注射シタル場合ノ白血球數ノ動搖ニハ略同一ノ成績ヲ得タリ。即注射後極メテ輕度ナル白血球數ノ不定ノ動搖ヲ示ス者アレドモ大多數ニ於テハ注射後三十分ヨリ既ニ白血球數ノ増加ヲ來ス。

二〇、健康者ニ「AO」注射ノ場合ノ白血球ノ相互的關係(%)ヲ見ルニ注射後大單核細胞及移行型ハ減ズ。分核白血球ト桿狀核白血球トヲ比スルニ桿狀核白血球ハ著明ニ減少シ、分核白血球ハ増加ス。淋巴球及「エオジン」嗜好細胞ニハ一定ノ傾向ヲ認メズ。

二一、結核患者ニ「AO」注射ノ場合ノ白血球ノ相互的關係(%)ヲ見ルニ大單核細胞及移行型竝ニ淋巴球ハ減ズ。又桿狀核白血球ハ著明ニ減少シ、反之分核白血球ハ著明ニ増加ス。「エオジン」嗜好細胞ニハ一定ノ傾向ヲ認メズ。

二二、結核患者ニ「ツベルクリン」注射ノ場合ノ白血球ノ相互的關係(%)ヲ見ルニ大單核細胞及移行型竝ニ淋巴球ハ減ズ。又桿狀核白血球ハ減ジ、反之分核白血球ハ増加ス。「エオジン」嗜好細胞ニハ一定セル傾向ヲ認メズ。

二三、結核患者ニ「ヤトレン」及「ヒリン」ヲ注射シタル場合ノ白血球ノ相互的關係(%)ヲ見ルニ兩者共ニ分核白血球ハ減少シ、反之桿狀核白血球ハ著明ニ増加ス、淋巴球ハ減少ス。然ルニ大單核細胞及移行型竝ニ「エオジン」嗜好細胞ハ兩者ニ於テ一致セル成績ヲ得ズ。即「エオジン」嗜好細胞ハ「ヤトレン」注射ノ際ハ増加シ、「ヒリン」注射ノ際ハ減少ス。而シ

テ大單核細胞及移行型ハソノ關係相反ス。

二四、結核患者ニ煮沸「AO」注射ノ場合ノ白血球ノ相互的關係(%)ヲ見ルニ大單核細胞及移行型並ニ「エオジン」嗜好細胞ハ減少ス。又分核白血球減少シ、反之桿狀核白血球ハ増加ス。

二五、結核患者ニ「AO」連續注射ヲナシタル場合ニ經過ヲ追フテ血液像ノ變化ヲ觀察セシニ、良好ナル經過ヲトリタル者ニテハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ桿狀核白血球減少シ、淋巴球ハ増加ス。「エオジン」嗜好細胞モ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ明ラカニ増加セルヲ認ム。重症結核患者ニテモ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ桿狀核白血球減少シ、反之淋巴球ハ増加シ、アルチツト氏ノ所謂左方移動ノ狀態ヨリ良兆ナル右方移動ノ像ヲ示ス。「エオジン」嗜好細胞ハ大多數ニ於テ始ヨリ消失スルモ、中ニハ注射經過中ニ現ハレ或ハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ稍々増加セル者スラ認メタリ。

第六章 余ノ一新結核特殊診斷法

以上ノ検査成績ヨリ余ハ茲ニ一新結核特殊診斷法ヲ創定セント欲ス。

余ノ結核特殊診斷法ハ「AO」第一號ヲ皮下ニ注射シ、ソノ前後ニ於ケル白血球數ノ動搖ヲ比較觀察スルモノナリ。

検査方法 白血球ノ計算ニハトオマ、ツアイスノ計算器ヲ用ヒ、血液稀釋液トシテハチユルク氏液或ハ〇・三%ノ醋酸液ヲ用フ。「AO」ノ量ハ體重一・〇盪ニ就キ一免疫單位ノ割(體重五〇盪對一・〇盪)、即「AO」ノ治療量ニシテ、コレヲ上膊皮下ニ注射ス。而シテ注射直前一回及ビ注射後二時間ニ互リ毎半時間ニ四回、即計五回ノ採血検査ヲナシ、コノ期間内ニ於ケル白血球數ノ動搖ヲ比較觀察スルモノナリ。

検査ニ關スル注意事項ヲ述ブレバ次ノ如シ。

検査ハ空腹時ニ行ヒ、被檢者ニ服藥ソノ他血液ニ變化ヲ及ボスモノヲ禁ジ、検査前三十分乃至一時間ヨリ検査期間中牀上絶對安靜ヲ守ラシム。検査時刻ハ早朝ヲ撰ブヲ通則トシ、他ノ時刻ニ於テ行フ時ハ食後三時間以上經過セル者ニシテ以上ノ諸條件ヲ備ヘシム。採血ハ耳朶ニ於テナシ、先ヅ「アルコール」ヲ以ツテ該處ヲ消毒シ、次デ滅菌乾燥「ガーゼ」ニテ清拭乾燥シ、然ル後ニ穿刺ヲ加フ。穿刺ハ始メ思切ツテコレヲナシ、全検査中更ニ新ラシキ穿刺ヲ加フル要ナカラシム。

然レドモ血液ノ流出不良ナル時ハ強キ指壓ヲ加フルヨリモ寧ロ更ニ新シキ穿刺ヲ加フルヲ可トス。同一検査ニテハ必ズ同一「メランジエル」ヲ用フ。血液ハ十倍稀釋ノ目的ヨリ「メランジエル」ノ一ノ標本マデ吸入ス。餘分ニ吸入セル血液ヲコノ標本ニ合致セシムルニハ「ガーゼ」ヲ用フルヨリ指頭ヲ用フル方便ニシテ而カモ正確ナリ。血液稀釋液ヲ吸入スルニハ緩徐ニ行ヒテ「メランジエル」ノ毛細管中ニ血液ノ殘留スルナカラシム。カクテ一〇一ノ標示ニ達セル後ニ充分(少クトモ三百回)振盪シ血液ノ平等ニ稀釋サル、様ニ努ム。然ル後ニ最初ノ二、三滴ヲ捨テソノ後ノ一滴ヨリ計算ニ供ス。「メランジエル」ノ大サニ多少ノ相違アレドモ五回ノ計算ニテ殆ンド「メランジエル」内血液ヲ使用シ盡ス如キ割合ニス。檢者が計算中助手ヲシテ殘餘ノ血液ヲ振盪セシムルヲ便トスレドモ助手ナキ時ハ毎回百回以上ノ振盪ヲ要ス。計算ニ際シテ「デッキグラス」ノ使用ニ注意シ法ノ如クニュートン氏環ヲ生ゼシム。而シテ毎回計算板全面ノ白血球ヲ數フルコトトス。カクテ五回ノ計算ニヨリテ得タル數ノ總和ヲ求メ、ソレヲ二十倍スレバ所要ノ白血球數ヲ得ルナリ。

而シテ「AO」注射後白血球數ノ減少スルモノヲ陽性反應トシ、然ラザルモノヲ陰性反應トス。

陽性反應ヲ白血球數ノ減少ノ及度ソノ型式ヲ顧慮シ、強卅、中(卅)、弱(十)ノ三種ニ分ツ。(第三十表參照)

一、強陽性(卅)

A、白血球總數三、〇〇〇以上ノ減少ヲ示スモノ(減少トハ注射前白血球數ト注射後二時間以内ノ最少白血球數トノ差ヲ意味ス。以下同ジ)。(曲線I a)

B、白血球總數二、〇〇〇以上三、〇〇〇以内ノ減少ヲ示スニ過ギザルモ時間ノ經過ニ伴ヒ漸次尙減少ノ度ヲ増ス傾向ヲ有スルモノ(曲線I b)。

二、中等度陽性(卅)

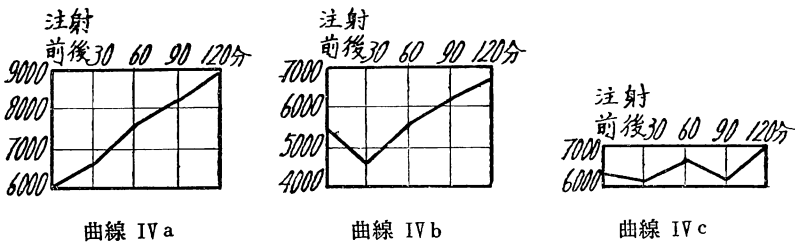
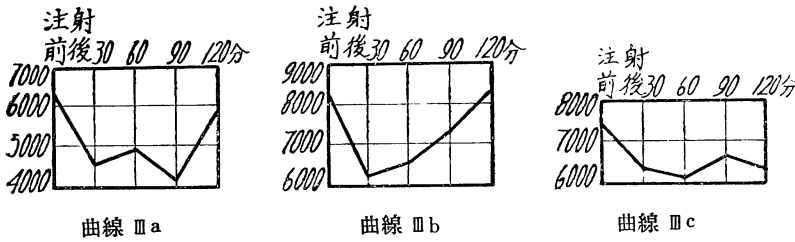
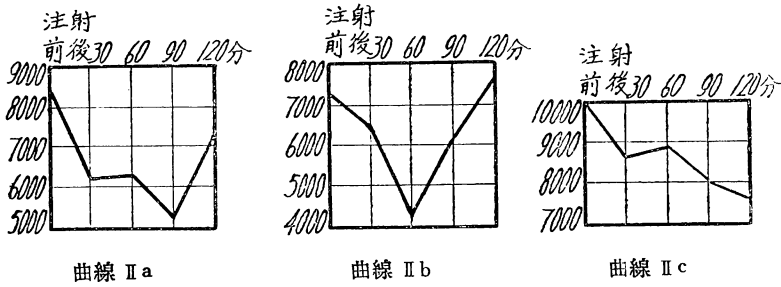
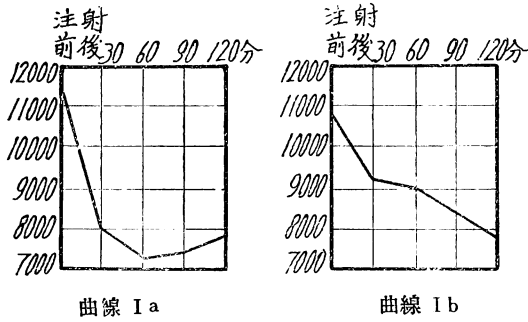
A、白血球總數二、〇〇〇以上三、〇〇〇以内ノ減少ヲ示シ、二時間後ニ注射前ニ近ヅクカ(曲線II a)、或ハ多少ノ増加ヲ示スモノ(曲線II b)。

B、白血球總數一、〇〇〇以上二、〇〇〇以内ノ減少ヲ示スニ過ギザルモ時間ノ經過ニ伴ヒ漸次尙減少ノ度ヲ増ス傾向

ヲ有スルモノ(曲線Ⅱc)。
三、弱陽性(十)

A、白血球總數一、〇〇〇以上二、〇〇〇以内ノ減少ヲ示シ、二時間後ニ注射前ニ近ヅクカ(曲線Ⅲa)或ハ多少ノ増加

第 三 十 表



ヲ示スモノ(曲線Ⅲb)。

B、白血球總數一、〇〇〇以內ノ減少ヲ示スニ過ギザルモ毎検査ニ於テ二時間後ニ至ルモ尙注射前ニ比シ減少ヲ示スモノ。(曲線Ⅲc)

陰性反應(一)ヲ次ノ三種ニ分ツ。(第三十表參照)

A、注射後半時間ヨリ既ニ白血球總數ノ増加ヲ示スモノ(曲線Ⅳa)。

B、注射後半時間ニ於テノミ僅カニ(一、〇〇〇以內)減少シ、ソノ後注射前ヨリ増加スルモノ(曲線Ⅳb)。

C、注射前後ニ於ケル増減ノ度極メテ輕度ニシテ一定ノ型ヲ示サザルモノ(曲線Ⅳc)。

次ニ順ヲ追フテ余ノ診斷法ノ應用範圍ニ就イテ述ベン。

一、結核性疾患ト非結核性疾患トノ鑑別

第二表ヨリ第三表ニ示ストコロヨリ明ラカナル如ク結核患者ニ於テハ反應陽性ヲ呈スレドモ、健康者或ハ非結核患者ニ於テハ陰性反應ヲ示ス。故ニ本反應ハ疾患ノ結核性ナルト非結核性ナルトヲ鑑別スルニ用フルベシ。

二、活動性結核ト非活動性結核トノ識別

第二表ヨリ第六表ニ示ストコロヨリ明ラカナル如ク活動性結核ニ於テハ反應陽性ヲ示シ非活動性結核ニテハ反應陰性ヲ示ス。故ニ本反應ハ結核性疾患ノ活動性ナルト非活動性ナルトヲ識別スルニ用フベシ。

三、活動性結核ノ輕、中、重ノ區別

余ハ結核患者ノ臨牀上ノ所見、肺ノレ線寫眞所見ヲ參考トシテ是等ヲ重症、中等症、輕症ノ三類ニ分テリ。是等ニ於ケル余ノ反應成績ハ第二、第三、第四表ニ示ス。即重症ニテハ強陽性、中等症ニテハ中等度陽性、輕症ニテハ弱陽性ヲ示ス。

故ニ本反應ノ強、中、弱ハ直ニ結核性疾患ノ活動性ノ重、中、輕ニ一致ス。

四、結核性疾患ノ治療方針確定ノ參考

三ニ述ブルトコロヨリ余ノ反應強陽性ナル者ニテハ假令病竈狹小ナリト雖、萬全ノ處置ヲ急グベキモノニシテ反之弱陽

性ナル場合ハ職業其他ノ生活事情ニ多少順應シツ、治療ヲ施スモ亦可ナルモノナリ。故ニ本反應ハ結核性ノ疾患ノ治療方針確定ノ參考トナシ得ベシ。

五、結核性疾患ノ豫後判定

結核病竈廣汎ニシテ余ノ反應強陽性ニ現ハル、者ハ其豫後不良ナリ(第五表參照)。又治療ノ目的ヲ以ツテ「AO」ヲ連續注射シ傍ラ本反應ヲ檢シ常ニ陽性ナル者ハ亦其豫後不良ナリ。反之連續注射ニ當リ漸次陰性ニ傾ク者ハ其豫後良好ナリ(第八表參照)。故ニ本反應ハ之ヲ以ツテ結核性疾患ノ豫後ヲト知スルニ足ルモノナリ。

終ニ余ノ反應ノ結核性特殊性ニ就イテ一言セン。

結核患者ニ生理的食鹽水、○・五%石炭酸加生理的食鹽水(「AO」中ヨリ結核菌成分ヲ除去セルモノ)注射ニヨル白血球數ノ動搖ハ輕度ニシテ而カモ一定セル型ヲ示サズ。「ヤトレン」及「ヒリン」注射ニヨリテハ白血球數ノ増加ヲ認ム。「ツベルクリン」ヲ皮肉ニ注射スレバ白血球數ノ動搖極メテ輕度ニシテ而カモ不定ナリ。之ヲ皮下ニ注射スレバ減少ヲ示ス者アレドモ、其減少ノ度及型式ハ必ズシモ病症ノ程度ニ一致セズ。又煮沸「AO」ハ「AO」ニ反シ結核患者ニ於テモ白血球數ノ増加セルヲ認メタルガ「AO」ヲ以ツテスレバ健康者及非結核患者ニ在リテハ多クハ白血球數ノ増加ヲ來シ、若シクハ増減ヲ示サザルニ反シ、結核患者ニ在リテハ均シク減少シ、且ツ特異ノ型ヲ示セリ。以上ノ事實ハ余ノ結核診斷法ガ結核特殊性ヲ有スルコトヲ立證スルニ足ルモノナリ。

附言

結核診斷法殊ニ其活動性ナルト非活動性ナルトヲ判別スル方法ハ、種々ノ意味ニ於テ非常ニ重要ナルモノニシテ久シク渴望セラレタルニ拘ラズ、今日マデ適切ナルモノ之アラザリキ。高價ナル設備ト相當熟練セル技術ト費用トヲ要スルレントゲン寫眞ノ如キモ此判別ヲ最モ必要トスル初期結核患者ニ在リテハ確實性甚ダ乏シク、而カモ亦肺結核ノ場合ニ限ラレ他臟器ノ結核ニ至ツテハ全然其用ヲナサズ。余ハ或ル著想ヨリ出發シタル發見ニヨリテ、幸ニモ各種ノ條件ヲ具備シタル結核特殊診斷法ヲ創定シ得ルニ至レリ。而シテ先輩ノ德澤ニヨリ敢ヘテ之ヲ「吉田氏反應(YR)」ト命名シタリ。本特殊反應ハ之ヲ全身的一般症狀觀察ト併セ用ヒル時ハ、結核性疾患ノ占居ガ何レノ臟器タルヲ問ハズ、前述ノ如キ緊要ナル診斷的價值ヲ示スモノナリ。

尙ホ此診斷法創定ニ當リ考フベキコトナキニアラズ。就中其本態如何ニ至ツテハ猶研究ノ餘地アリ。其等ノ點ニ就イテハ研究續行中ニシテ遠カラズ其解決ヲ見ル日アラント信ズ。又本反應ハ余ノ演說發表以來各所ニ於テ複試セラレツ、アリト聞ク。余ハ其成績ノ速ニ發表セラレンコトヲ切望ス。

欄筆ニ臨ミテ恩師武谷教授ノ指導ト原稿ノ校閲ニ對シテ深甚ノ感謝ヲ捧グ本研究ニ就キ多大ノ後援ト御便宜トヲ賜ハリシ有馬研究所長有馬博士ニ滿腔ノ謝意ヲ表シ、併セテ同研究所ノ青山博士島崎學士並ニ谷口氏ノ御援助ニ謝ス。又九州帝國大學衛生學教室大平教授及生ノ松原九大分院長飯田博士ノ好意ニ感謝シ大阪市立刀根山病院長太繩博士ヲ始メ醫員諸君ニ感謝ノ意ヲ表ス。

中 國 文 獻

- 1) 谷口修一, 緒核 第四卷, 第二號, 大正十五年, 2) K. Koch, Weitere Mittheilungen über ein Heilmittel gegen Tuberkulose. Dtsch. med. Wschr. 1890. Nr. 46. S. 1029. 3) C. v. Pirquet, Der diagnostische Wert der kutanen Tuberkulinreaktion bei der Tuberkulose des Kindesalters auf Grund von 100 Sektionen. Wien. klin. Wschr. 1907. Nr. 27. S. 1123. 4) Paul H. Römer, Über intrakutane Tuberkulinanwendung zu diagnostischen Zwecken. Beiträge zur Klinik der Tub. 1909. 12. Bd. S. 185. 5) Derselbe, Nachtrag zur vorigen Arbeit. Beiträge zur Klinik der Tub. 1909. 12. Bd. S. 193. 6) Paul H. Römer und Karl Joseph, Zur Verwertung der intrakutanen Reaktion auf Tuberkulin. Beiträge zur Klinik der Tub. 1909. 14. Bd. S. 1. 7) Paul H. Römer und Karl Joseph, Tuberkulose Tuberkulinreaktion Beiträge zur Klinik der Tub. 1911. 17. Bd. S. 427. 8) F. Mendel, Die v. Pirquetsche Hautreaktion und die intravenöse Tuberkulinbehandlung. Med. Klin. Tuberkulose. 1911. 17. Bd. S. 427. 9) Derselbe, Über intrakutane Tuberkulin anwendung zu diagnostischen Zwecken. (Intrakutanreaktion). Beiträge zur 1908. Nr. 12. S. 402. 10) Mantoux und Roux, Ref. in Münch. med. Wschr. 1908. Nr. 40. S. 2117. 11) A. Wassermann und C. Bruck, Ist die Komplementverbindung beim Entstehen spezifischer Niederschläge eine mit der Präzipitierung zusammenhängende Erscheinung oder Ambozeptorenwirkung. Med. Klin. 1905. Nr. 55. S. 1405. 12) A. Wassermann und C. Bruck, Experimentelle Studien über die Wirkung von Tuberkelbacillenpräparaten auf den tuberkulösen Organismus. Dtsch. med. Wschr. 1906. Nr. 12. S. 449. 13) A. Wassermann und C. Bruck, Über das Vorhandensein von Antituberkulin in in tuberkulösen Gewebe. 1906. Nr. 49. S. 2297. 14) 瀧上 慶治郎, 緒核 第一卷, 大正十二年. 15) 鹿谷岱藏, 人工氣胸療法. 緒核ノ血滯學的診斷. 昭和三年. 16) Türk, Klinische Hämatologie. 1904. S. 293. 17) v. Schilling, Über die Notwendigkeit grundsätzlicher Beobachtung der neutrophilen Kernverschiebung im Leukozytenbilde über praktische Erfolge dieser Methode. Zeitschrift für klin. Med. 1920. 82. Bd. S. 1. 18) Morawitz, Handbuch der inneren Medizin von Mohr und Staehelin. 1926. 4. Bd. S. 69. 19) 酒井幹夫, 大國醫學會雜誌. 第二三卷. 第三號. 大正十三年. 20) E. Grawitz, Klinische Pathologie des Blutes. 1911. S. 87 u. 918. 21) 淺川賢一郎, 愛知醫學會雜誌. 第三〇卷. 大正十二年. 22) 根岸喜代助, 軍醫團雜誌. 第一三八號. 昭和三年. 23) 北畠規矩朗, 熊本醫學會雜誌. 第四卷. 24) 草間帶三, 福岡醫科大學雜誌. 第七. 第八卷. 大正二. 三年. 25) I. Appelbaum, Blutuntersuchungen an Pthysikern. Berl. klin. Wschr. 1902. S. 7. 26) C. Stein und G. Erbmann, Zur Frage der Leukozytose bei tuberkulösen Processen. Dtsch. Arch. für klin. Med. 1895. 56. Bd. Hett. 3 u. 4. S. 323. 27) Otto Naegeli, Blutkrankheiten und Blutdiagnostik. 1931. S. 641. 28) T. Arneeth, Die qualitative Blutlehre. 1929. S. 150. 29) 吉橋孝, 千葉醫學會雜誌. 大正十五年. 30) 永井秀太, 日新醫學. 第十一年. 第六七號. 31) V. Erlenmann und A. Erlanssen, Über Leukozytenzählung und Inhomogenität. Dtsch. Arch. für klin. Med. 1910.

100. Bd. S. 455. 32) **E. Liebmann**. Lehrbuch der Röntgendiagnostik von H. R. Schinz. 1928 S. 552. 33) **R. Arlman, K. Aoyama und J. Ohnuma**. Über ein neues spezifisches Tuberkuloseschutz-heimittel. Dtsch. med. Wschr. 1924 Nr. 12. S. 666. 34) A-Oノ解説 昭和六年一月. 35) **Bischhoff**. cit. nach Ch. J. Faucounet. Dtsch. Arch. für klin. Med. 1904. 82 Bd. S. 197. 36) **Tschistowitch**. Über die morphologischen Änderungen des Blutes bei den Injektionen der Kochschen Flüssigkeit. Berl. klin. Wschr. 1891. Nr. 34. S. 35. 37) **Prior**. Das Kochsche Heilverfahren gegen Tuberkulosis in seiner Einwirkung auf den gesamten Organismus u. s. w. Mün. med. Wschr. 1891. S. 64. 38) **Borkin**. Haematologische Untersuchungen bei Tuberkulininjektion. Dtsch. med. Wschr. 1892. S. 321. 39) **Nieder**. Beiträge zur Kenntnis der Leukocytose. 1892. Leipzig. S. 153. 40) **Ch. J. Faucounet**. Tuberkulöse Prozesse und Lymphocyten. Dtsch. Arch. für klin. Med. 1904. 82 Bd. S. 167 u. 600. 41) **Limbbeck**. cit. nach J. Arnehl. 42) **Otto Brösamlen**. Über das Verhalten der wesssen Blutkörperchen, insbesondere der eosinophilen Leukocyten probatorischer Tuberkulininjektion. Dtsch. Arch. für klin. Med. 1914. 115. Bd. S. 146. 43) **加來豊記**, 細菌學雜誌. 大正十二, 十三年. 44) **野尻英一**, 日新醫學. 第十九卷. 45) **Otto Seutler**. Über die Beeinflussung des Blutbildes durch unspezifischen Reiz bei den verschiedenen Formen der Lungentuberkulose und ihre Bedeutung für die Prognose. Beiträge zur Klinik. der Tub. 1923. 57. Bd. Heft. 4. S. 480. 46) **Brösamlen**. cit. nach Otto Seutler. 47) **大橋兵次郎, 希施玄治**, 大阪醫學會雜誌. 第二八卷. 昭和四年. 48) **赤岩孝二**, 岡山醫學會雜誌. 第二年. 第二號. 昭和五年. 49) **V. Sehilng**. Das Blutbild und seine klinische Verwertung. 1924. 50) **Johannes Behnmann**. Über den Einfluß verschiedener Tuberkuliner auf das weiße Blutbild bei Lungentuberkulose. Beiträge zur Klinik der Tub. 1927. 67. Bd. S. 678. 51) **Schleip-Alder**. Atlas der Blutkrankheiten. 1928. S. 28. 52) **Otto Naegele, A. Schittenhelmesches** Handbuch der Krankheiten des Blutes und Blutbilden den Organe. 1925. 1. Bd. S. 2.